

2021年度

ライフデザイン学部

履修要覧

生活支援学科

健康スポーツ学科

人間環境デザイン学科

目次

はじめに	1
窓口・掲示板案内	3
ToyoNet-G/ToyoNet-ACE/ToyoNetメール	4

学修にあたって	7
カリキュラムの概要	8
卒業・学位	11
授業について	13
試験・レポート	24
成績	28
その他	31

学部長挨拶・教育研究上の目的・教育方針	33
ライフデザイン学部長挨拶	35
ライフデザイン学部の教育研究上の目的	36
ライフデザイン学部の教育方針（ポリシー）	37

カリキュラムについて	39
生活支援学科生活支援学専攻	41
教育研究上の目的・教育方針（ポリシー）	42
2021年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	44
生活支援学科子ども支援学専攻	59
教育研究上の目的・教育方針（ポリシー）	60
2021年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	62
健康スポーツ学科	75
教育研究上の目的・教育方針（ポリシー）	76
2021年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	78
人間環境デザイン学科	89
教育研究上の目的・教育方針（ポリシー）	90
2021年度入学生 教育課程表・卒業要件・履修方法	92

ライフデザイン学部共通	103
大学院開講科目の先行履修制度について	104

諸資格について	105
ライフデザイン学部で取得できる資格	107
1. 社会福祉士	108
2. 精神保健福祉士	112
3. 介護福祉士	116
4. 保育士	120
5. GFI (グローバルエカサイズフィットネスインストラクター)	124
6. 健康運動指導士	126
7. 健康運動実践指導者	130
8. 障がい者スポーツ指導員	132
9. レクリエーション・インストラクター	134

10. 第一種衛生管理者	136
11. トレーニング指導者	138
12. 公認スポーツ指導者	140
13. 建築士（一級・二級・木造）	142
14. 人間環境デザイン学科で推奨する資格	144
15. 社会福祉主事	145

教職課程	147
ライフデザイン学部で取得できる教育職員免許状	149
1. 教育職員免許状	150
2. 介護等体験について	155
3. 教育実習について	156
4. 教育職員免許状取得までの流れ	157
5. 教育職員免許状の必要科目	159
幼稚園教諭1種免許状	160
中学校教諭1種免許状（保健）	162
高等学校教諭1種免許状（保健）	164
中学校教諭1種免許状（保健体育）	166
高等学校教諭1種免許状（保健体育）	168
養護教諭1種免許状	170
高等学校教諭1種免許状（工業）	172
高等学校教諭1種免許状（工芸）	174

国際交流・国際教育プログラム	177
Toyo Global Leader (TGL) プログラム	178
海外留学・研修プログラム	180
ライフデザイン学部生の留学と単位認定について	183
英語特別教育科目 LEAPプログラム	186
ランゲージセンター 課外英語講座	187

東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について	189
-------------------------	-----

各種手続	193
学籍情報	195
休学および復学	199
退学	202
除籍	204
再入学	204
その他の学籍異動	205
各種証明書	207
納付金	209
学則	212
ライフデザイン学部規程	214



◆建学の精神◆

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

◆東洋大学の教育理念◆

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

◆東洋大学の心◆

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

◆創立者 井上円了と東洋大学◆

東洋大学は、1887（明治20）年、哲学者・井上円了が創設した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の1858（安政5）年、越後国三島郡浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、1881（明治14）年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。当時のわが国は欧米文化至上主義の時代で、円了は西洋化に踊らされる日本を憂いていたと思われます。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは概念的演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。哲学することによって、日本人の心、ものの見方・考え方の近代化を目指したのです。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから1887（明治20）年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

教育の機会の開放を願い、円了は、哲学館の設立趣旨の一つに「余資なく、優暇なき者」でも誰でも学問が学べることを掲げています。そうしたことから、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。この精神は現在の通信教育部に受け継がれています。

さらに、円了は30歳代から生涯続けることになる全国巡講講演を始めています。特に、学校経営の現場を離れた1906（明治39）年からの13年間で、全国60市、2198町村において5291回の講演を行うなど、社会教育に力を入れました。日本に、新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱が伺えます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講演会など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。

はじめに

本書の使用方法について説明します。

- ・ 履修要覧には学生生活を送るうえで、重要な事項が記載されています。
- ・ 履修要覧は、卒業時まで使用します。紛失した場合、再発行はしませんので、大切に保管してください。なお、履修要覧は本学 web サイトにてダウンロード可能です。
- ・ 履修要覧の記載事項に修正が生じた場合は、掲示板等でお知らせします。

はじめに 窓口・掲示板案内

ライフデザイン学部生の主な校舎はWELLB HUB-2です。WELLB HUB-2から入退構してください。大学からの通知・連絡などは、すべて掲示またはToyoNet-G、ToyoNet-ACE、ToyoNetメールを通して行います。大学への登下校時に、毎回必ず確認する習慣をつけましょう。

●● 関連HP <https://www.toyo.ac.jp/toyonet/top/> ●●



夏季休暇・大学祭期間・冬季休暇・春季休暇中は、受付時間等が変更となる場合があります。掲示・webサイトで確認してください。

◆窓口等取扱時間◆

窓口等	WELLB HUB-2 場所	取扱時間（月～金）	取扱時間（土）
赤羽台事務課	1階	9:30～13:00 14:00～16:45	9:30～12:45
医務室	1階	9:30～17:45	9:30～12:45
学生相談室	1階	9:30～13:00 14:00～16:45	9:30～12:45
自動証明書発行機	1階 赤羽台事務課前	9:00～16:45	9:00～12:45
図書館カウンター	3階	8:45～19:45	8:45～15:45
PC教室	3階	webサイト・掲示を参照	
就職・キャリア支援室	3階	9:30～16:45	9:30～12:45
教職支援室	3階	9:30～13:00 14:00～16:45	—
ラーニングサポートセンター (L S C)	3階 ECZ内	webサイト・掲示を参照	

◆掲示板◆

掲示内容	WELLB HUB-2 掲示場所
休講・補講	1階 学生食堂入口横 電光掲示板 およびToyoNet-G・ToyoNet-ACE
教室変更・授業時間割	
試験・レポート・成績・学籍・学生呼出・資格・給付金	1階 上りエスカレーター横
奨学金	1階 学習印刷室前
医務室	1階 医務室前
学生相談室	1階 学生相談室前
大学公示	3階 講師控室前
図書館開館カレンダー・イベント情報など	3階 図書館内および図書館出入口横 掲示板
サークル関係	2階 20207・20208教室前
教職支援	3階 教職支援室前
就職・キャリア形成支援	3階 就職・キャリア支援室前

※掲示板的設置場所が変更された場合は別途お知らせします。

学生生活を過ごすにあたって、大学のさまざまなwebシステムを使用する機会が多くあります。授業や各種手続、お知らせを確認するための主なwebシステムについて紹介します。

◆情報システム利用通知書◆

学生の皆さんが本学において情報施設・設備・各種情報サービスを利用する際には、就学手続き時に配付された「情報システム利用通知書」に記載されているアカウント（ユーザーID、パスワード）が必要となります。

ユーザーIDおよびパスワードを必要とするもの

1. PC教室でのログイン
2. 有線・無線LANでのログイン
3. ToyoNet-G（学務システム）
4. ToyoNet-ACE（授業支援システム）
5. ToyoNetメール

東洋大学webサイト（<https://www.toyo.ac.jp>）より、「学内情報ポータル」のボタンをクリックしてください。

入学手続きを完了した際に、大学から届くメールに記載された手順に従って確認・登録してください。

- 関連URL：<https://g-sys.toyo.ac.jp/portal/>

各システムの利用方法は、ToyoNet-ACEの手続き・申請書等にある「情報システム利用ガイド」、ToyoNet-Gの「各種資料」にある「ToyoNet-G 利用ガイドブック」を参照してください。

※パスワードを忘れてしまった場合、下記URLから再登録することができます。

- 関連URL：<https://gainfo.toyo.ac.jp/reminder/resetrequest>

◆ToyoNet-G◆

大学での生活・学修上で必要となる手続き・登録を行うシステムです。大学生活に関する情報の発信も行っています。

<ToyoNet-Gを使う一例>

- ・各種登録（履修登録など）
- ・各種照会（成績、学期末試験時間割など）
- ・各種申請の手続（住所変更、成績調査など）
- ・各種書類の印刷（履修登録確認表、成績表など）
- ・アンケート回答・申込
- ・大学からのお知らせ確認（個人宛／休講・補講情報など）
- ・教員のメールアドレスの照会

◆◆ToyoNet-ACE◆◆

授業時間内において、出席の管理や課題の提出などに使用されます。また授業時間以外でも授業への理解を深めるため、講義内容の補完として使用されることが多くあります。

<ToyoNet-ACEを使う一例>

- ・ 授業の出席確認
- ・ 配付資料の配信
- ・ 授業担当教員からのお知らせ
- ・ 小テスト、レポートの提出
- ・ テスト結果の通知
- ・ TGLプログラムの情報収集・各種申込、達成状況確認
- ・ 学部におけるアンケート・申込

◆◆ToyoNetメール◆◆

本学の学生一人ひとりに付与されるメールアドレスです。無料で使用できます。メールアドレスを活用して、授業担当教員への連絡等が可能です。また、大学側からToyoNetメールアドレスへ連絡することがありますので、頻繁に確認してください。

<ToyoNetメールを使う一例>

- ・ 授業担当教員との連絡
 - ※ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」で教員のメールアドレスを照会することができます。(P.23「教員との連絡」参照)
- ・ 就職活動での連絡先

Column

～学内のPC教室・自習用PC教室について～
大学内には自由に使うことができるPC教室があります。

<学内の常設PC教室>

- ・ WELLB HUB-2 3階
20307教室・20308教室・20309教室
- ※利用にあたっては、授業が行われていない時間に限ります。

●関連URL (ToyoNet関連ページ)

<https://www.toyo.ac.jp/toyonet/top>

<https://mail.toyo.jp>

学修にあたって



学修にあたって

カリキュラムの概要

◆東洋大学スタンダード2021◆

東洋大学は、学部の枠組みを越えて総合大学の特色を生かした幅広い教養教育として基盤教育カリキュラムを展開しています。また、全学的な教育目標「東洋大学スタンダード2021」をふまえ、哲学教育・グローバル教育・キャリア教育を軸として学力と人間力をともに養成し、グローバル人材の育成を実現するカリキュラムを編成しています。

〈東洋大学スタンダード2021〉

東洋大学は、建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」に基づき、学生に以下の力を身につけさせることを宣言します。

1. 「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力
2. 「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力
3. 「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力
4. 変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力
5. グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力

哲学・思想

「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力

理論哲学や実践哲学、倫理観を確立するとともに、自ら考え、判断し、行動する能力、総合的視野に立ち、他分野の人々と協働できる能力を身につける。そのために古今東西の賢人たちが残した哲学・思想に耳を傾け、それらについて深く考えることで思考を錬磨し、自らのものの見方・考え方の基盤を築くとともに、多角的なものの見方・考え方を受容する力の獲得を目指す。

学問の基礎

「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力

変化の激しい現代社会を生きるための教養とは、幅広い知識の修得のみならず、グローバルな視野を持ち、歴史的かつ多元的な視点で物事を深く考え、自然やものの成り立ち、科学と社会との関係を正しく理解したうえで適切な判断ができる能力を意味する。人文・社会・自然科学の諸分野における先人の知恵に学び、それらを横断する学際的な探求活動を通じて、教養を身につける。

国際人の形成

グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力

地球でともに生きる市民のひとりであることを自覚し、多様な伝統や文化を越えて、個を尊重しながら共生、協働していくための素養を身につける。そのために複数の言語を使う力を伸ばすとともに、柔軟で論理的な思考力、異なる価値観を認めあうための受容力と発信力を高め、自らの考えを的確に伝えられる、そして相手の考えを多角的、多元的に理解できるコミュニケーション能力の伸長を目指す。

キャリア・市民形成

「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力

人生100年時代を迎え、さまざまに多様化が進む現代社会で「よく生きる」ためには、社会的・職業的な課題の理解力、判断力、行動力が必要である。これらの養成のために、法律、会計、IT、情

報、環境など、社会や組織を理解するための基本を学ぶとともに、他者と協働し、自ら行動するためのコミュニケーション力、調整力、キャリア開発力を身に着ける。

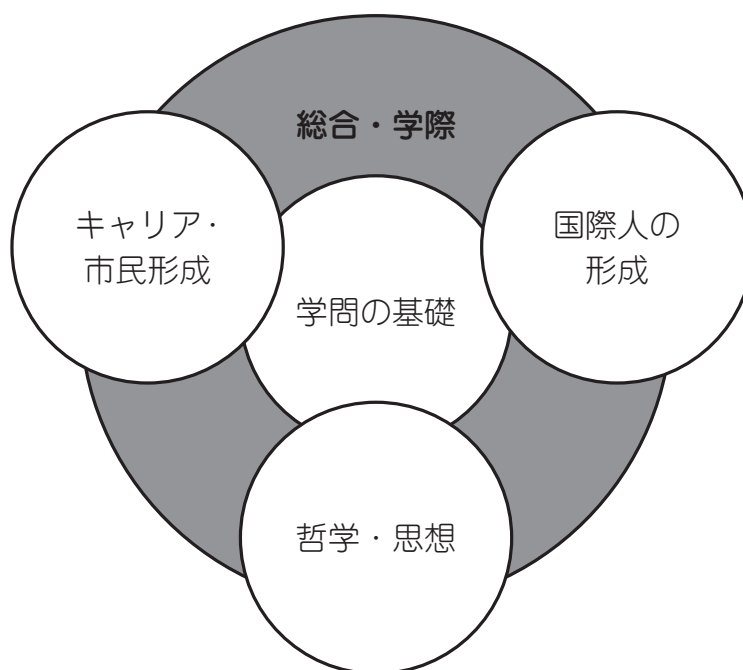
総合・学際

変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力

グローバル化と技術革新の進展がもたらす現代社会の課題について、複数の学問視点や複合・学際領域など多様な視点から、さまざまなひとや組織と協働して、柔軟で斬新な解を見いだす力を身につける。そのために、分野を超えて最新の技術動向や研究成果を学ぶ授業を展開し、対話をとおして、その知識や技能を応用して発展的・創造的に思考・発想する力を養成する。

健康・スポーツ科学

多様化するグローバル社会に対して、知徳体のバランスの取れた健康的な人材を育成することを目指し、スポーツの価値の中核である「楽しさ」「喜び」を享受し、スポーツの持つ価値を最大化させる「人」「社会」「世界」を様々に結びつける人間力となるコミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性、課題発見・解決能力等を身につける。



～基盤教育カリキュラム体系図～

基盤教育カリキュラムにおいて幅広い知識・教養を身につけ、学科専門科目を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

基盤教育科目	
哲学・思想	「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力 理論哲学や実践哲学、倫理観を確立するとともに、自ら考え、判断し、行動する能力、総合的視野に立ち、他分野の人々と協働できる能力を身につける。そのために古今東西の賢人たちが残した哲学・思想に耳を傾け、それらについて深く考えることで思考を錬磨し、自らのものの見方・考え方の基盤を築くとともに、多角的なものの見方・考え方を受容する力の獲得を目指す。
学問の基礎	「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力 変化の激しい現代社会を生きるための教養とは、幅広い知識の修得のみならず、グローバルな視野を持ち、歴史的かつ多元的な視点で物事を深く考え、自然やものの成り立ち、科学と社会との関係を正しく理解したうえで適切な判断ができる能力を意味する。人文・社会・自然科学の諸分野における先人の知恵に学び、それらを横断する学際的な探求活動を通じて、教養を身につける。
国際人の形成	グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力 地球でともに生きる市民のひとりであることを自覚し、多様な伝統や文化を越えて、個を尊重しながら共生、協働していくための素養を身につける。そのために複数の言語を使う力を伸ばすとともに、柔軟で論理的な思考力、異なる価値観を認めあうための受容力と発信力を高め、自らの考えを的確に伝えられる、そして相手の考えを多角的、多元的に理解できるコミュニケーション能力の伸長を目指す
キャリア・市民形成	「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力 人生100年時代を迎え、さまざまに多様化が進む現代社会で「よく生きる」ためには、社会的・職業的な課題の理解力、判断力、行動力が必要である。これらの養成のために、法律、会計、IT、情報、環境など、社会や組織を理解するための基本を学ぶとともに、他者と協働し、自ら行動するためのコミュニケーション力、調整力、キャリア開発力を身に着ける。
総合・学際	変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力 グローバル化と技術革新の進展がもたらす現代社会の課題について、複数の学問視点や複合・学際領域など多様な視点から、さまざまなひとや組織と協働して、柔軟で斬新な解を見いだす力を身につける。そのために、分野を超えて最新の技術動向や研究成果を学ぶ授業を展開し、対話をとおして、その知識や技能を応用して発展的・創造的に思考・発想する力を養成する
健康・スポーツ科学	多様化するグローバル社会に対して、知徳体のバランスの取れた健康的な人材を育成することを目指し、スポーツの価値の中核である「楽しさ」「喜び」を享受し、スポーツの持つ価値を最大化させる「人」「社会」「世界」を様々に結びつける人間力となるコミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性、課題発見・解決能力等を身につける。

◆ 専門科目 ◆

本学部、各学科の人材養成の目的その他教育研究上の目的を実現するために必要なカリキュラムが構成されています。

詳しくは、各学科の教育課程表のページを参照してください。

専門科目	
学部共通科目	本学部で共通に開設されている科目群です。 本学部に所属する学生であれば全学生が履修することが可能です。
学科専門科目	所属学科の専門的領域を扱った科目群です。
教職科目	教育職員免許状を取得するための科目です。



学修にあたって 卒業・学位

◆卒業要件、修業年限／在学年限◆

卒業するには、修業年限4年以上在学し、各学科・専攻が定めている卒業要件をすべて充足することが必要です。

在学できる年数は最長で8年（休学期間を除く）と定められています（P.197「学籍」を参照）。

卒業要件

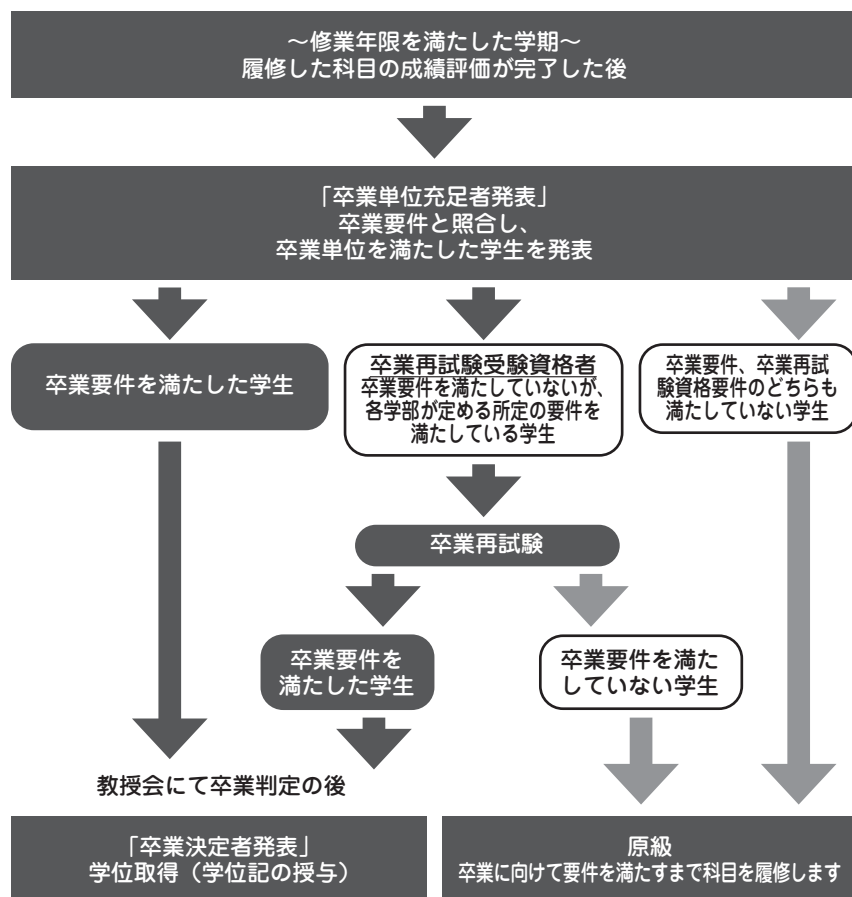
- (1) 修業年限を満たしていること。
- (2) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得していること。
- (3) 各学科・専攻の卒業要件を満たしていること。

◆卒業決定の通知◆

教授会で各学科・専攻の卒業要件と照合し、卒業可能かどうかを判定した後、卒業決定者が発表されます。

卒業単位充足者、卒業決定者の発表は、ToyoNet-G等で通知されます。

卒業決定の通知の流れ



◆学位の授与◆

卒業要件（卒業に必要な単位数）を満たし、修業年限を経過した者には、以下の学位が授与されます。

学 科	学 位
生活支援学科	学士（生活支援学）
健康スポーツ学科	学士（健康スポーツ学）
人間環境デザイン学科	学士（人間環境デザイン学）

学修にあたって 授業について

◆ 授業の期間 ◆

本学で行われる授業には、1年間を春学期・秋学期の2学期（セメスタ）に分割し、15週間単位で授業を行うセメスタ授業と、各セメスタを2分割し、8週間単位で授業を行うクォーター授業があります。また、夏季・春季休暇期間に、集中講義や実習等の授業が行われる場合があります。これをセッション授業といいます。

春学期（4月1日～9月30日）						秋学期（10月1日～3月31日）					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春セメスタ授業期間				夏セッション	秋セメスタ授業期間				春セッション		
第1クォーター			第2クォーター			第3クォーター		第4クォーター			
				夏季休暇					春季休暇		

※学則上の学期日程と実際の学年暦（授業カレンダー）は異なることがあります。

学籍異動等の取り扱いは、学則上の学期日程（春：4月1日～9月30日、秋：10月1日～3月31日）で取り扱います。

※学年暦（授業カレンダー）の詳細は、年度ごとに発行される『学生生活デジタルハンドブック』の「年度行事予定」で確認してください。

※各年度の授業時間割・開講形態・履修登録期間等は『履修登録のしおり・授業時間割表』（4月初旬にデータ配信）で確認してください。また、追加の周知事項がある場合、ToyoNet-ACEや学内掲示板で随時お知らせします。

セメスタ制

セメスタ制とは、1年を2つの学期（セメスタ）に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて学修し、卒業する制度です。年に2回（4月・9月）履修登録を行います。学期単位で授業が完結し、試験やレポート等の成績評価に基づいて単位が認定されます。

◆ 授業の開講時限・時間帯 ◆

授業科目は、春学期又は秋学期のいずれかに開講され、授業は月曜日から土曜日まで行われます。

各授業は原則週に1回で、春学期・秋学期に各15週行い、定められた曜日時限に行われます。年度初めにデータ配信される「履修登録のしおり」を参照してください。赤羽台キャンパスの授業時間帯は以下のとおりです。

時限	授業時間
1時限	9:00 ~ 10:30
2時限	10:40 ~ 12:10
昼休み	12:10 ~ 13:00
3時限	13:00 ~ 14:30
4時限	14:45 ~ 16:15
5時限	16:30 ~ 18:00

※6時限（18:15～19:45）に補講を実施する場合があります。

◆◆総合スポーツセンター（板橋区清水町）・テニスコート（北区王子）を利用する授業を履修する場合◆◆

移動に15～30分以上を要するため、昼休みを除き連続している時限では、赤羽台キャンパスと総合スポーツセンターもしくはテニスコート間を移動しての履修はできません。

下表を参照のうえ、履修可能な時間割を作成し履修登録を行ってください。

1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限
●	履修不可				
履修不可	●				
			●	履修不可	
			履修不可	●	履修不可
				履修不可	●

●…総合スポーツセンター（板橋区清水町）・テニスコート（北区王子）で履修をする場合

◆◆休講・補講／授業の欠席◆◆

休講

教員のやむを得ない理由および交通機関の混乱等により、授業を休講することがあります。休講の場合は、電光掲示板およびToyoNet-Gの「休講情報」にて通知します。

なお、電光掲示板およびToyoNet-G等に休講の掲示がされていないにもかかわらず、授業開始時刻から30分経過しても担当教員が不在の場合は、その科目は休講となり、後日補講が実施されます。赤羽台事務課教務担当窓口にて連絡の上、指示を受けてください。

休講の確認方法

- ・電光掲示板
 - ・ToyoNet-G
- ※ToyoNet-Gログイン後、トップページでも確認することができます。

The screenshot shows a student's profile page on ToyoNet-G. The 'My Profile' section displays the student's name, department, and year. Below the profile is a calendar for the current month. Two callout boxes with arrows point to the '休講情報' (Lecture Information) and '補講情報' (Makeup Information) sections. Both sections display the message '休講情報はありませぬ。' (Lecture information is not available.) and '補講情報はありませぬ。' (Makeup information is not available.)

緊急時の授業の取扱い

(1) 台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および災害等により交通機関が運行停止している場合の授業の取扱いについて

台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一般的な運行停止を除く）の授業の取扱いについては、本学のwebサイト・ToyoNet-Gにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

なお、授業中に交通機関の混乱等が確認された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

(2) 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについて

大規模な地震の発生が予想され、警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについても、本学のwebサイト・ToyoNet-Gおよび公式Twitter (@Toyo_Uni) にてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

なお、授業中に警戒宣言が発令された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※webサイトはアクセスが集中し、繋がりにくい場合がありますので、ToyoNet-Gも確認してください。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとします。

補講・集中講義

次のような場合で、補講・集中講義を実施するときは、その内容を事前に電光掲示板およびToyoNet-Gに掲示情報を配信しますので、登校した際に必ず確認してください。

(1) 授業が休講となったとき。

(2) 特に補講・集中講義を必要とするとき。

※6時限（18:15～19:45）に補講を実施する場合があります。

欠席

やむを得ない事由（病気、怪我、交通機関の遅れ、忌引）により、授業を欠席した場合は**次の授業時に担当教員へ直接申し出てください**。連絡が取れる場合は、なるべく事前に連絡してください。

ただし、以下(1)～(4)の場合は、赤羽台事務課教務担当窓口等にて所定の手続きを行ってください。

(1) 正課の学外実習のために欠席する場合

正課の学外実習のために欠席する際は、履修科目の担当教員へメール等にて連絡の上、対応の指示を仰いでください。**ただし、申し出をもって出席扱いとなるわけではありません。**

対象となる実習は下記の通りです。

（教育実習・養護実習、介護等体験、看護学実習、介護福祉実習、保育実習、ソーシャルワーク実習Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク実習（精神）、健康産業施設等現場実習、地域医療福祉専門実習、国際健康スポーツ交流）

(2) 介護福祉士コースおよび保育士養成課程の学生が、やむを得ない理由により欠席する場合

介護福祉士コースおよび保育士養成課程に所属する学生が、病気や怪我、交通機関の遅れ、忌引などやむを得ない理由で欠席した場合は、**欠席した日時と理由がわかる証拠書類**（医師の診断書や領収書等、遅延証明書、会葬案内等）を赤羽台事務課教務担当窓口にて持参してください。併せて各自担当教員へメール等にて連絡の上、対応の指示を仰いでください。**ただし、申し出をもって出席扱いとなるわけではありません。**

(3) 感染症により欠席する場合

麻疹やインフルエンザ等の感染症に罹患した場合、感染の拡大を防止するため、大学への出席は停止となります。医師により登校可能と判断されたのち、「感染症治癒証明書」を医務室に提出したうえで、担当教員に申し出てください。詳細は本学のWebサイト等で確認してください。

※介護福祉士コースおよび保育士養成課程に所属する学生は、上記(2)の欠席届の手続きを行ってください。

(4) 長期間（3ヶ月以上）欠席する場合

病気や怪我・留学等の理由で、3ヶ月以上欠席する場合は、大学の許可を得て、休学することができます（P.199参照）。詳細は、赤羽台事務課教務担当窓口にご相談してください。



部活動やサークルへの参加、試合、応援等についてはやむを得ない事由には含まれないことから、欠席届等の手続きは行いません。

◆単位のしくみ◆

授業科目には学修時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の履修基準は修得すべき単位数によって規定されています（P.39～「カリキュラムについて」を参照）。

1単位は、授業や自習をすべて含めた30～45時間の学修に対応しており、授業の占める時間は、講義・演習科目は15時間、外国語科目は30時間、実験・実技・実習科目は30～45時間と設定されています。

標準的な授業実施形態は、週1回1学期15回授業が実施されます。授業の講義時間はどの科目も、90分です。

授業科目等	単位数	授業回数 (1学期)	学修時間	
			授業時間	予習復習時間
講義・演習科目	1単位	15回	15時間	30時間
外国語科目	1単位	15回	30時間	15時間
実験・実技・実習科目	1単位	15回	30～45時間	0～15時間

◆履修計画・履修登録◆

授業を受け、単位を修得するためには事前に授業科目の登録が必要になります。これを「履修登録」といい、各学科・専攻の教育課程表に沿って履修計画を立て、授業科目の登録を学期毎に行います。

定められた期間に「履修登録」を完了しないと、履修希望する科目の受講および試験の受験ができず、単位も修得できなくなりますので注意してください。

- (1) 履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス（ToyoNet-Gを参照）、『履修登録のしおり』等を熟読のうえ、時間割を作成してください。「履修登録」はToyoNet-Gから行ってください。
- (2) 教育課程表に示された配当学年に従って履修登録してください。配当学年が自分の学年よりも下の科目は履修することができます。
- (3) **履修登録期間以降の訂正・削除は一切認めません。**
- (4) 授業時間割及び講義内容等に変更があった場合は、電光掲示板およびToyoNet-ACEに掲示します。
- (5) 履修登録後、「履修登録確認表」を必ず出力し、成績発表時まで手元に保管してください。
- (6) 資格取得を希望する学生は、「諸資格について（P.105～）」および「教職課程（P.147～）」で資格取得のための条件を確認してください。
- (7) 1セメスタで履修登録できるのは**原則24単位まで**で（P.20「履修上限単位数（CAP制）と履修科目の制限」を参照）。
- (8) 同一科目を2つ以上履修することはできません。
- (9) 一度単位を修得した科目を再度、履修登録することはできません（ただし、修得できなかった科目については、再度履修することが可能です）。

各学科・専攻の教育課程表に沿って、計画的な履修をするようにしてください。また履修計画を立てるにあたっては、教職員の履修指導を受けるほか、カリキュラムマップを参考にしながら、段階的な学修に取り組むようにしましょう。

履修計画のポイント

- ①所属学科・専攻の卒業要件をよく理解すること。
- ②『履修登録のしおり』をよく読み、当該年度の履修上のルールなどについて、きちんと把握すること。
- ③必修科目や選択必修科目など、卒業要件のうち優先度の高い科目については、配当学年において早めに履修すること。
- ④『履修登録のしおり』をよく読み、履修希望する科目同士の時間割の重複（曜日・時限・開講学期）がないか確認すること。重複があった場合には、上記③の優先度を考慮して履修すること。
- ⑤進級する際や成績発表後は、これまで履修し、単位修得した科目を振り返り、残りの必要単位数や修得が必要な科目を特定すること。
また各学科・専攻のページに記載されている『カリキュラムマップ』を参考に、これまで履修した科目やこれから履修する科目の関係性を理解するとともに、卒業までに必要な知識・能力などを踏まえ、選択科目などの必要な履修の参考にすること。
- ⑥必要に応じて、教員に相談するほか、履修ガイダンスに参加し、必要な科目をチェックすること。



定められた期間に「履修登録」を完了しないと、履修希望する科目の受講および試験の受験ができず、単位の修得もできなくなります。

◆履修登録の流れ◆

履修登録は、春学期の開始時と秋学期の開始時の年2回、ToyoNet-G を利用して行います。詳細については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

時間割の作成

『履修要覧』『シラバス』『履修登録のしおり』や前学期『成績表』等をもとに該当学期に履修する授業を決め、『履修登録のしおり』にある「時間割作成用紙」に科目名、担当教員名等を記入しておくことで履修登録がスムーズに行えます。

(※『履修要覧』は入学時のみ配付しています。また、ライフデザイン学部WebサイトからPDFデータをダウンロードすることも可能です。)



履修登録（正規登録期間）

- ・時間割作成用紙をもとに履修登録（インターネット環境を通して登録）。
- ・期間内なら何度でも追加や削除が可能（事前登録されている科目・抽選に通った科目等を除く）です。**登録期間終了後は履修登録科目の追加・削除はできません。履修登録を行う度に必ず『履修登録確認表』を出力して確認をしてください。**

※履修登録確認表は、履修登録期間中も出力することができます。

※履修登録期間の最終日はアクセスが集中する場合がありますので、時間に余裕を持って登録してください。



抽選科目の抽選結果確認

- ・抽選実施科目・抽選結果についてはToyoNet-G で確認することができます。
- ・**抽選に通った科目の履修登録期間内の変更は一切できません。**
- ・抽選で外れた科目の履修は自動的に削除されます。



履修登録（追加登録期間）

- ・この期間内であれば、履修科目の追加・削除が可能です。
- ・抽選科目は、定員に達していない場合、先着順で履修登録することができます。



履修登録完了 履修登録確認表の出力・保管

- ・ToyoNet-G で必ず『履修登録確認表』を出力して内容を確認してください。出力した『履修登録確認表』は成績発表時まで大切に保管してください。成績発表時に履修登録の事実を証明する資料となります。
- ・履修登録を証明する『履修登録確認表』の提示がない場合、履修に関するトラブルは一切受け付けません。
- ・『履修登録確認表』に記載されていない科目の講義に出席し、試験等を受験しても単位は付与されません。



履修取消期間

GPA制度に則り履修科目の取消を希望する場合は、『履修登録のしおり』に記載された期間にToyoNet-Gより手続を行ってください。

なお、この期間中に履修科目の追加・変更はできません。

◆履修上限単位数（CAP制）と履修科目の制限◆

各学期（セメスタ）に履修登録することのできる単位数に制限があります。

履修上限単位数

年次	春学期	秋学期
1～4	24単位	24単位

※介護福祉士コースの履修単位数上限

「介護福祉士コース」の学生は、1年次の秋学期以降、履修登録の上限が1セメスタあたり28単位（通常の24単位に4単位を追加できる）となります。

※セッション科目の取り扱いについて

セッション科目（P.72参照）については、履修登録の上限に含みません。
なお、履修上限単位数に含まれる科目は以下のとおりです。

卒業要件 (124単位)	区 分		履修制限
卒業要件に 含む	専門科目	学部共通科目	制限内
		学科専門科目	
		他学科・専攻開放科目	
	基盤教育	哲学・思想	
		学問の基礎	
		国際人の形成	
		キャリア・市民形成	
		健康・スポーツ科学	
	総合・学際		
卒業要件に 含まない	教職科目		制限外

◆シラバス◆

シラバス（講義要項）には、授業の内容（概要）や到達目標など、科目の履修を通じて身につけることのできる知識、能力、また各回の授業の進め方や内容、成績評価方法・基準、使用テキストや予習・復習の指示などが、学生に示されています。

履修する科目を決めるにあたっては、シラバスを熟読することももちろん、次回の授業の準備学習や復習の際の振り返りに用いるなど、シラバスを活用することによって学習効果を高めるよう努めてください。

シラバスはToyoNet-Gで公開しています。

シラバスの記載項目

主な記載項目	記載内容
科目名	履修要覧・時間割表に記載されている科目名が示されています。
担当者	担当教員名が示されています。
サブタイトル	科目のサブタイトル、サブテーマが示されています。
講義の目的・内容	科目の目的として、どのような内容を学ぶのか、またどのように教授していくかについて示されています。
学修到達目標	履修を通じて身につけることのできる知識・能力などが具体的に示されています。
講義スケジュール	各回の授業内容・テーマをもとにしたスケジュールが示されています。
指導方法	担当教員がどのように授業内容を進めていくのかについて示されています。
事前・事後学修	授業を受講するにあたって、必要な予習・復習の指示が示されています。
成績評価の方法・基準	どのような評価方法で成績評価をするのか、また評価方法ごとにどれくらいの割合で成績に反映するのかについて示されています。
受講要件	履修にあたって予め必要な条件について示されています。
テキスト	授業で使用する教科書やテキストについて示されています。
参考書	授業に関連する参考書が紹介されています。

シラバスの検索方法

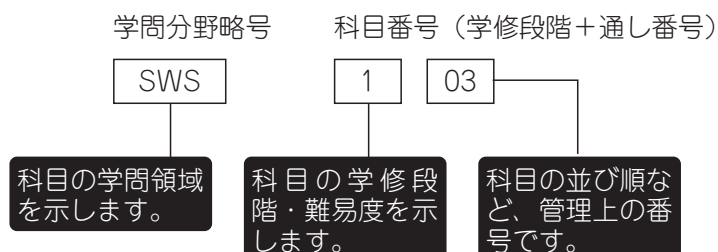
シラバスはToyoNet-Gの「学生メニュー」→「シラバス・教員プロフィール」から検索することができます。

調べたい科目名や教員名を入力

◆ 科目の記号と番号（科目ナンバリング） ◆

科目ナンバリングとは、授業科目の学問分野と学修段階（難易度）がわかるように、各種授業科目に番号を付して分類したものです。授業の難易度や専門性に応じて順次的に授業を選ぶことができます。

科目ナンバリングの体系



学問分野略号

教育課程表上の各科目に付されている学問分野略号は次のとおりです。

略号	学問分野名	略号	学問分野名	略号	学問分野名
ABE	建築学	EPM	疫学・予防医学	KOR	語学（韓国語）
AEN	建築環境・設備	ESS	教科教育学	LIN	言語学
AHD	建築史・意匠	FAS	学問の基礎	PED	小児科学
AHS	応用健康科学	FLE	外国語教育	PHT	哲学・思想
BSM	建築構造・材料	FRA	語学（フランス語）	PSS	精神神経科学
CGS	認知科学	FUN	基礎看護学	RSW	リハビリテーション科学・福祉工学
CHI	語学（中国語）	GEA	解剖学一般（含組織学・発生学）	SEM	ゼミナール基礎演習
CHS	子ども学（子ども環境学）	GER	語学（ドイツ語）	SOC	社会学
CIV	キャリアインターンシップボランティア系科目	GIM	内科学一般（含心身医学）	SOF	ソフトウェア
CLD	衣・住生活学	GPH	生理学一般	SOL	社会学
CME	商学	HII	ヒューマンインターフェース・インタラクション	SPS	スポーツ科学
DEE	設計工学・機械機能要素・トライボロジー	HPC	高性能計算	STS	統計科学
DES	デザイン学	HPH	衛生学・公衆衛生学	SUS	留学支援
DMB	身体教育学	IHR	国際人の形成	SWS	社会福祉学
ECD	キャリア・市民形成	INM	知能機械学・機械システム	THE	卒業論文卒業制作
EDP	教育心理学	ISE	情報セキュリティ	TPA	都市計画・建築計画
EDU	教育学	ITS	総合・学際	TYS	自校教育科目
ENG	語学（英語）	JLN	日本語学		

科目番号（学修段階＋通し番号）

科目番号	
100番台	主に大学1年生を対象とした授業（1年次レベル）
200番台	主に大学2年生を対象とした授業（2年次レベル）
300番台	主に大学3年生を対象とした授業（3年次レベル）
400番台	主に大学4年生を対象とした授業（4年次レベル）

※上記の科目番号は授業の難易度を示すものとして付されています。教育課程表に記載されている配当学年とは異なる場合があります。

◆ 教員との連絡 ◆

教員と連絡を取りたい場合は、次のような方法があります。

研究室を訪ねる

専任教員（教授、准教授、講師、助教）にはそれぞれ研究室があります。学生からの相談や質問を受けるために「オフィスアワー」が設けられています。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、学修の進め方、履修登録のプランなどの相談のほか、レポート指導なども行っています。その他、卒業後の進路や休学、転部・転科、留学、大学院進学などの進路に関する相談、学生生活全般の相談など、幅広い相談に対応しています。

非常勤講師の教員は、研究室を持たないため、オフィスアワーはありません。連絡を取りたい場合は、ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている連絡先を参照してください。

オフィスアワーの確認方法

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯、研究室を確認し、訪問してください。予約が必要な場合もありますので、事前に確認をしてから訪問してください。

メールを送る

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されているメールアドレスを確認し、メールをしてください。



メールで連絡をする際には、必ず学籍番号・氏名を明記し、授業科目名を書くなど、何について質問・相談するか、簡潔にまとめること。

学修にあたって 試験・レポート

◀◀ 試験について ▶▶

- (1) 履修登録した科目の単位を修得するためには、**授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。**
- (2) 試験には、授業内試験と学期末試験があります。科目によっては、レポートまたは平常点によって評価する場合があります。

試験には次の種類があります。

授業内試験	平常の授業期間に、科目担当教員によって随時行います。この場合の日程等については授業時や掲示等で確認してください。
学期末試験	春学期試験（7月～8月）および秋学期試験（1月～2月）を、全学的に一定の試験期間を設けて行います。実施期間については、授業時間割表や学生生活ハンドブックの「ライフデザイン学部学年暦」で確認してください。
レポート	試験のうち、担当教員の判断により筆記試験に替えて課す課題。
卒業再試験	卒業単位充足者発表後、所定の要件を満たした卒業を希望する4年生を対象として行われる特別試験。

※授業ごとの成績評価方法については、シラバスの「成績評価の方法・基準」を確認してください。また授業中に担当教員から指示される場合があります。

授業内・学期末試験受験上の注意

1. 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
2. 学期末試験、授業内試験ともに通常授業実施時間帯で試験が行われます。
3. **試験会場は平常授業時と異なる場合がある**ので、ToyoNet-Gで確認してください。
4. 1科目で試験会場が2カ所以上になる場合、学籍番号で試験会場を指定するので、必ず指定された試験会場で受験してください。
5. 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
6. 学期末試験では、学生証がないと受験できません。必ず学生証を携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。（授業内試験でも求められる場合がありますので、学生は必ず携帯すること。）
7. 試験会場に持ち込みできるものは、筆記用具・時計機能だけの時計・持ち込みが許可されたもののみです。携帯電話、スマートフォン等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。試験の妨げにならないよう電源を必ず切って、かばんにしまってください。なお、上記の機器、音楽プレーヤーを時計代わりに使用することはできません。
8. 筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を必ず持参してください。貸出は一切行いません。
9. 試験中の飲食は禁止します。
10. 答案用紙の、学部・学科・学年・学籍番号・氏名欄には必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください（ただし、インクが消しゴム等で消せないものに限り）。
11. 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効です。
12. 学期末試験は試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。また退室は開始後30分を経過し、監督者の指示があった後のみ許可します。途中退室した場合、再入場は認めません。
13. 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
14. 不正行為を行った場合は、学則（第57条）に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容はP.25を参照してください。授業内試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明をよく確認してください。
15. 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間に余裕をもって入場してください。

受験中の不正行為

対象試験

- (1) 学年暦に定める試験期間に行われる試験
- (2) 学年暦に定める授業期間内で、試験として実施する旨を学生に開示した、学年暦に定める試験に準ずる試験

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を試験（学期末試験期間・授業期間）において行った場合は、学則第57条に則り処分されます。

1. 処分の種類

処分は譴責、停学、無期停学とする。

2. 処分とその対象となる不正行為

(1) 譴責の対象となる行為

- ① 持ち込みが認められているものの貸借。
- ② 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せまたはそれを見る行為。
- ③ 試験監督者もしくは監督補助者からの注意を無視した行為。
- ④ その他、前各号の一つに準ずる行為。

(2) 停学1ヵ月の対象となる行為

- ① 解答用紙を交換する行為。
- ② 許可されていないものの持ち込み。
- ③ 書き込みを許可されていない持ち込み許可教材、机上、手掌等へ書き込みをしての受験、または、これに類似する行為。
- ④ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴言。
- ⑤ その他、前各号の一つに準ずる行為。

(3) 無期停学の対象となる行為

- ① 替玉受験。
- ② 在学中における再度の不正行為。
- ③ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴力行為。
- ④ その他、極めて悪質な行為。

3. 処分に伴う措置

- (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度（学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に1週を加えた16週の前半及び8週にわたる期間）において認定しない。また、上記「2. (2)」および「2. (3)」の停学の対象となる行為については、学年暦に定める当該年度（学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に1週を加えた16週の前半及び8週にわたる期間）の試験期間において実施される全ての試験科目の単位を認定しない。
- (2) 停学期間は当該学部で処分を決定した日（教授会開催日）の翌日から算定する。
- (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人および保証人と面接の上、通達する。
- (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。
- (5) 「譴責の対象となる行為①および②」、「停学1ヵ月の対象となる行為①」、「無期停学の対象となる行為①」の不正行為は、その当事者すべてが上記（1）～（4）の措置の対象となる。

4. 不服申立て

不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。

※授業内試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明を必ず確認してください。

卒業再試験

4年次8セメスタ以上の学生で卒業当該学期に卒業要件を満たしていない者について、以下の要領で「卒業再試験」を実施します。

(受験資格)

卒業再試験は4年次8セメスタ以上の学生で卒業を希望する者であり、卒業当該学期に卒業に必要な単位数で不足している科目数が3科目以内でかつ6単位以内の者に対して所定の手続きを経て行なわれます。

(対象科目)

卒業再試験の対象となる科目は以下のすべてに該当する科目とします。

- (1) 卒業当該学期に履修登録を行っている科目
- (2) 卒業単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目
- (3) 担当教員が卒業再試験を実施する科目

(対象除外科目)

以下の科目は卒業再試験対象科目から除外されます。

- (1) 演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- (2) 卒業研究、卒業論文、卒業制作
- (3) 教職科目のうち、教職に関する科目
- (4) 不正行為等により無効となった科目
- (5) 通常の評価において「E」「*（評価対象外）」と判定された科目
- (6) 科目の性質上、担当教員と学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとします。

(再試験手続)

再試験は、卒業当該学期で発表される卒業単位充足者発表時に、定められた期間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとします。

- (1) 再試験手続を行わなかった場合は、自動的に受験する権利を失います。
- (2) 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができます。
- (3) 代理人による手続きは認められません。

(再試験受験料)

再試験受験料は以下の通りです。

1科目5,000円

(再試験の評価)

卒業再試験の成績評価は以下の通りです。

- (1) 成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とします。
- (2) 再試験の結果、合格した者の成績評価は「C」評価とします。
- (3) 卒業再試験の結果、不合格が1科目でもあった場合は原級となり、全ての受験科目の成績評価は卒業再試験受験以前の「D」評価となる。

◆レポートについて◆

レポート提出方法、日時、提出先については担当教員から指示があります。授業時およびToyoNet-ACEで確認してください。



赤羽台事務課教務担当窓口では、教員の連絡先の照会に応じることはできません。各自、ToyoNet-G 教員プロフィール等にて確認して下さい。

Column

～ラーニングサポートセンター（LSC）を活用しよう～

赤羽台キャンパスLSCでは、次のような学修相談・各種講座等の支援を行っています。大学での学修をより良くするためにも、LSCを利用しましょう。

- (1) 学修上の諸問題に係る相談
- (2) レポート・論文の書き方相談、文献・資料の調べ方相談
- (3) 高校までの基礎学力向上に係る支援
- (4) 語学系資格取得に関する支援
- (5) PCの操作に係る支援
- (6) 留学希望者への事前学修および留学後の事後学修に係る支援
- (7) 留学生に対応した日本語ライティング支援、論文の書き方相談

～開室時間～

水～金 10：30～13：00、14：00～17：00
WELLB HUB-2 3階 ECZ内

※開室日時は変更になることがあります。利用の際は、webサイトで確認してください。

学修にあたって 成績

◆単位の認定◆

- (1) 単位の認定は出席・試験またはレポートなどによって評価されます。
- (2) 履修登録した科目についてのみ成績評価されます。

◆他大学での単位の認定について◆

○入学前の既修得単位等の認定について（対象：学部新入生）

本学学則第43条に基づき、単位認定を希望する者は、下記のとおり、提出書類を下記受付期間内に赤羽台事務課教務担当窓口へ提出してください。

*資格取得を目的としての認定については、認められない場合があります。

学則第43条

（他の大学の授業科目の履修）

第43条 教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目の単位については、学長は教授会の意見を聴いて、60単位を限度に卒業所要単位として認めることができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第43条の2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

2 前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて、60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第43条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第43条第2項及び第43条の2第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

[提出書類]

- ①単位認定申請書
 - *申請書用紙は赤羽台事務課教務担当窓口にて配付します
- ②成績証明書
- ③単位修得年度のシラバスの写し

[受付期間]

入学した学期（第1セメスタ）の履修登録期間内

◆成績の評価◆

成績の表示は次のとおりです。

【東洋大学成績評価基準】

合否	成績表示	点数	基準
合格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。



授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載された「成績評価の方法・基準」を確認してください。



成績は個人情報であるため、電話での照会には応じません。質問がある場合は、赤羽台事務課教務担当窓口まで来てください。

※「評価対象外」とは、授業期間を通じ出席不良（出席回数が授業回数の3分の2に満たない）、または試験の不受験・レポート未提出のため成績評価の判断ができないものを指します。

※上表のほかに、留学先機関での学修成果などを単位認定する場合、「T（Transferの略）」を合格の評価として使用する場合があります。



履修登録した科目の単位を修得するためには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験（レポート、授業内試験等含む）に合格しなければなりません。

◆成績の通知◆

- (1) 学期毎に成績を通知します。成績発表の日程については『履修登録のしおり』、掲示等で確認してください。
- (2) 成績表は定められた期間内であればToyoNet-Gにて出力が可能です。
- (3) 年2回、保証人へ成績表を送付します（休学中も含む）。



保証人への送付を希望しない学生は、定められた期間に赤羽台事務課教務担当窓口で手続きを行ってください。

◆ GPA制度 ◆

単位や成績評価、単位の質自体を保証していくことを目的としてGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.3～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{(S\text{の修得単位数} \times 4.3) + (A\text{の修得単位数} \times 4.0) + (B\text{の修得単位数} \times 3.0) + (C\text{の修得単位数} \times 2.0) + (D\text{の修得単位数} \times 1.0) + (E\text{の修得単位数} \times 0.0) + (*\text{の修得単位数} \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。

※対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。

※再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます（GPA算出の分母にあたる「総履修登録単位数」には反映されません）。

※GPAは計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2までを表示します。

ライフデザイン学部では、GPA2.0を上回ることを「卒業時の目安」として設定しています。

GPA2.0を下回ったとしても卒業は可能ですが、学生の学修の質保証の観点から、ライフデザイン学部では、全学生に対して、卒業時にGPA2.0を上回ることを推奨しています。

～「卒業の目安」の意義～

学位授与方針で求めている能力や識見にふさわしい学力を備えて卒業するためには、学生は単に決められた単位数を数字上揃えるだけの履修をするのではなく、自らの学修目的にあわせた履修と、積極的な勉学が求められます。履修する科目の体系性や順序を良く考えて厳選して履修し、より充実した学修成果を獲得できるよう自学自習に励むことが大切です。学生は、これらのことをよく考慮し、「卒業の目安」の意味をよく理解して学修に励んでください。

◆ 成績調査 ◆

(1) 成績発表後、次の①～③に該当する場合において、定められた期間に成績調査申請を行い、成績評価を確認することができます。

①履修登録をしたが、成績評価の記載がない科目

②履修登録をしていなかったが、成績評価が記載されている科目

③履修登録し、シラバスにある成績評価基準を満たしているが、成績評価が間違っていると思われる十分な理由があり、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、確認したい科目

(2) 成績調査の申請方法についてはToyoNet-ACE、ToyoNet-Gで確認してください。

※シラバスにある成績評価基準と表示されている成績評価が合わないと考え理由を具体的に入力してください。

※出席状況に関しての内容は、出席した月日を明示して説明してください。

※今後の学習方法、推薦図書・教材等の問い合わせは、成績調査では行わないでください。



成績調査は成績の再考を求めたり、個別の得点の開示を求めたりするものではありません。成績調査の趣旨に沿わない調査申請や自身の成績と無関係な申請内容と判断された場合は、申請は否決され担当教員には通知されません。十分に注意してください。

※成績と無関係な申請内容の例

・卒業に関すること ・就職に関すること ・他の履修者との比較

◆単位僅少者に対する学修指導について◆

各セメスタもしくは学年の終了後、修得単位が僅少の学生に対しては、学修計画について見直すなどの学修指導（面談）を行います。学科・専攻または赤羽台事務課からの連絡・指示に従って、学修指導を受けてください。

学修にあたって ◆ その他 ◆

◆学生アンケートについて◆

本学では、教育の改革・改善を目的として、各授業の改善を図るために学期ごとに行う授業評価アンケートや、各学年のカリキュラムや教育方法、学習支援の検証を行うための学生アンケートを実施しています。

◆学外での学習活動について◆

学外実習・フィールドワーク等は、必ず担当教員の指示のもと、行うようにしてください。また実習先等への配慮はもちろんのこと、本学学生として自覚をもった行動をするよう心がけてください。

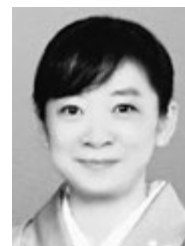
◆ 4年間の主な流れ・スケジュール ◆

	1年次	2年次	3年次	4年次
3月～4月	入学式 新入生オリエンテーション	進級手続		
	春学期履修登録・授業開始			
5～6月				
7月～9月	春学期末試験・補講			
	夏季休暇／夏セッション			
	春学期成績発表・成績調査			
				※第8セメスタ以降学生対象 卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式
	秋学期履修登録・授業開始			
10月～12月				
	大学祭			
	冬季休暇			
1月	秋学期末試験・補講			
2月	春季休暇／春セッション			
	秋学期成績発表・成績調査			
3月				卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式

※年度によって変更されることもあるので、当該年度の『学生生活デジタルハンドブック』の「行事予定等」を参照すること。

**学部長挨拶
教育研究上の目的
教育方針**

新たな時代に向けてさらなる飛躍を目指そう



ライフデザイン学部 学部長
博士（学術） 水村 容子

2021年の春にライフデザイン学部に入學される皆さん、ご入学おめでとうございます。依然として、コロナ禍の影響は続きますが、今年度はライフデザイン学部にとって新しいスタートの年でもあります。これからの4年間、赤羽台キャンパスの新生ライフデザイン学部において、教職員・友人と共に学び切磋琢磨を重ね、人間としてのより一層の成長を遂げられることを期待しています。

皆さんは、2020年から続くコロナ感染症の影響による様々な社会変化の中で、どのような時を過ごし、そして自分の将来に向けてどのような展望を持って大学に入學されたのでしょうか？50年と少し生きている私でさえ、このような感染症による社会変動は初めての経験ですので、皆さんは不安や、場合によっては絶望感などを味わいつつ1年間を過ごしていたのではないのでしょうか？

1997年に刊行されたアメリカの進化生物学者ダイヤモンドの著書「銃・病原菌・鉄」には、ペスト・麻疹・インフルエンザなどの感染症が人類史に大きな影響を及ぼしてきたことが記されています。この本を読むと、様々な感染症は単に多くの死者を出すだけではなく、人類の歴史の進歩や新たな社会制度の出現に寄与していたことが理解できます。すなわち現在、私達は歴史の節目を経験しているでしょう。私自身、今回の出来事は、これまでの経済を最優先した様々な社会システムが、本当に私達にとって必要であるか問われていると捉えています。

日本社会には、コロナ問題以外にも様々な課題が山積しています。超高齢少子化とそれに起因する深刻な人口減少、大都市圏と地方間の格差の拡大、地球環境の変動による自然災害の増加、など社会の持続可能性の確保が困難な問題に直面しています。こうした課題は日本に限らず地球上の様々な場所で出現していますが、その対応として国連は2015年9月「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択し、その実現のため17の持続可能な開発目標－SDGs－が公表されています。福祉や子育ての支援、スポーツに基づく健康の増進、誰もが利用できる建築環境や製品のデザインを学べるライフデザイン学部は、このSDGsへの貢献する人材の育成が期待されています。

皆さんは、これから4年間、自分自身の意思で選び、そして自分自身の力で合格を勝ち取ったそれぞれの学科・専攻で専門教育を学びます。ライフデザイン学部の各学科・専攻はいずれも、人間の生活や生き様に大きく関わる領域を教育しています。コロナ禍を乗り越えた皆さんには、それぞれの専門領域において、「これからの社会において何が本当に必要なのか」ということを常に考えながら学んでいただきたいと思います。

これからの皆さんの学びに期待しています！



1. 人材の養成に関する目的

- (1) 人間の生活を総合的に捉え、幅広い人間価値の受容と個人や社会のニーズに的確に応えられる人材
- (2) 専門分野のみならず、多方面にわたる分野の関係性とその必要性を理解できる人材
- (3) 専門的な職業観に基づく柔軟かつ的確な実践対応能力を発揮できる人材
- (4) 新たなライフスタイルの創造を志向できる人材
- (5) 国際的視点で判断し、表現し、コミュニケーションできる人材

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

- (1) 問題探求能力と課題の抽出及び提案能力
- (2) 課題解決のための目標と解決までの作業プロセスを的確に企画し開示できる能力
- (3) 他者とのコミュニケーションの必要性を理解し実行できる能力
- (4) 参加者の規模にかかわらず、異なる思考をもつ多様な人々との対話を重視できる能力
- (5) 失敗を恐れず継続的改善を目指して自己を検証できる能力
- (6) 母国語以外の国際的言語によるコミュニケーション能力

3. その他の教育研究上の目的

学生、教職員が一体となり、共に物事を探求し、具体的に表現できる教育研究体制の確立

◆ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）◆

学部の教育課程に定められた科目を履修し、本規程に定める卒業要件を満たした、以下の能力を備えた学生に対して、卒業を認定し、学位を授与します。

- (1) 人権を尊重する倫理観を身につけ、社会貢献を行う高い意欲を有する人材。
- (2) 体系的な知識と実践力を備えた専門家となりうる人材。
- (3) 社会的支援が必要な人を含むすべての人びとの豊かな生活を支援できる人材。
- (4) 分析力、発想力、創造力、コミュニケーション力、そして実践力を磨き、社会で求められる指導力を身につけ、社会のさまざまな分野でイノベーションの起点となる人材。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）◆

「教育目標」、「ディプロマ・ポリシー」を踏まえて、専門的な知識及び技術をもって教育を行います。また、正課内および正課外授業によって、学士および社会人として身につけるべき能力を培います。

1. 教育課程編成の体系化

- (1) 学部共通の必修科目を設定して、学部の教育内容を明解にする。
- (2) 基礎的な学力と豊かな教養を身につけるための基盤教育科目を配置する。
- (3) 幅広い知識の修得を踏まえ、各学科・専攻における特色を生かした専門分野やコースを設定する。
- (4) 実社会への適応力を養うため、諸資格取得に対応した教育課程の編成および実践的な科目を配置する。
- (5) 実践的力量形成が求められる分野・領域については演習科目を、技術修得が必要な分野・領域については実習・実技科目を、適宜配置する。
- (6) キャリア形成を支援するため、社会人基礎科目を配置する。
- (7) グローバルに活躍できる人材を育成するために、留学支援科目と海外実習科目を配置する。

2. 教育方法、教育充実の取り組み

- (1) 学部・学科の専門領域の学修を教員と学生とが一体となって行ない、その成果を積極的に社会に還元する。
- (2) アクティブラーニング等の参加・問題解決型授業を展開して、学生の自立性や創造性を培う教育を実践する。
- (3) 学科・専攻の専門領域の学修とともに、他学科・専攻への理解を持ち、広い視野と高い見識を有することができる教育を行う。
- (4) 実習・実技を踏まえた、資格養成等の実践的な教育を行う。
- (5) 実社会への適応力を養うため、インターンシップ等の社会と直結した教育方法を積極的に取り入れる。

◆アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）◆

「人材の養成に関する目的」、「教育目標」を踏まえて、専門性を修得する意欲、資質など、求める人材像等本学部の学生受け入れの基本方針を明示します。

- (1) 現代人にとっての価値あるライフ（生命、生活、人生）を探求するために、生活・健康・環境に軸足を据えて理論と実践をバランスよく学び、人間の豊かな生活の創造を目指す学生。
- (2) 専門的であり、実践的な教育を求める学生。
- (3) 人びとの暮らしをより豊かにするための基本的な考え方や技術を学び、社会に貢献したいという目標を持った学生。

カリキュラムについて

生活支援学科生活支援学専攻	： P.41～P.57
生活支援学科子ども支援学専攻	： P.59～P.74
健康スポーツ学科	： P.75～P.87
人間環境デザイン学科	： P.89～P.101

※入学年度のカリキュラムのみ適用されます。

生活支援学科生活支援学専攻

◆生活支援学科生活支援学専攻の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

生活支援学専攻では、社会福祉学を基礎とし、介護福祉、精神保健福祉、医療福祉などの関係分野に関する専門的知識や実践的技術を培い、高い見識をもって、相談やケアを必要とする人々の支援に携わる人材とともに、少子高齢化、グローバル化など、社会経済の構造変化が急速に進んでいる国内外の幅広い分野において活躍し、やがてはそれぞれの分野において指導的立場を担える人材を養成することを目指している。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

生活支援学専攻では、ライフデザイン学という新しい学問体系の中で、さまざまな人々のそれぞれのライフステージにおいて見出される生活支援に関する課題の解決に向け、課題を個人、家庭、行政など異なる水準において系統的、論理的に整理し、自ら考え、対処の方向を見出し、関係者と連携して、行動することができる能力を培うことを教育上の目標とする。

3. その他の教育研究上の目的

ライフデザイン学部の他の2学科の教育とも相俟って、自らの専門領域にとどまらず、現代社会の諸事象を深く理解し、信念と社会の一員としての自覚をもって行動できる人材を養成する。

◆生活支援学科生活支援学専攻3つのポリシー◆

1. ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）

生活支援学専攻は、地域共生社会実現の観点から、様々な生活問題を解決しコミュニティづくりを主導する福祉系専門職や国内外の多種多様な課題に対峙できる人材を育成するという教育目標のもとに、次の基準を満たす学生に卒業を認定し学位を授与します。

(1) 知識・理解

相談やケアを必要とする人々の支援、コミュニティづくり、社会資源の調整・開発などの社会福祉学に関する体系的知識を修得している。

(2) 思考・判断

様々な生活問題への鋭敏な感受性と深い洞察力を有し、課題解決に向けた支援の方策を検討することができる。

(3) 関心・意欲

少子高齢化やグローバル化により複雑化する社会構造の中で、リーダーシップをとる自覚を持ち、課題の解決に積極的に取り組む意欲を有している。

(4) 態度

ソーシャルワークの根源的思想に基づいて、人権と個人の尊厳を守る倫理観を有し、自らが立てた課題に向けて努力することができる。

(5) 技能・表現

多様な社会問題の解決に資する論理的思考力と、グローバル社会で協働していくことのできるコミュニケーション能力を有している。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

生活支援学専攻では、地域共生社会の実現に貢献するという教育目標およびディプロマ・ポリシーに求める学修成果の修得を実現するため、以下の方針でカリキュラム（教育課程）を編成します。

- (1) 社会福祉学、ソーシャルワーク、ケアワークなどの学問領域を軸に置き、専門性を高めるよう「社会福祉政策系」「福祉社会開発系」「福祉臨床系」といった3つの系（コース）を編成し、基盤教育の履修により、地域共生社会の実現に関連する幅広い知識を修得することができるよう編成します。
- (2) 外国語コミュニケーション能力の習得を目指し、英語については英語習熟度別クラスを編成し英語コミュニケーション能力の養成を目指すだけでなく、アカデミックスキル育成のための英語選択科目を配置し、英語による専門教育を実施します。
- (3) 1年次よりゼミナール科目を配置し、学問分野における基礎的な学習方法を理解させるとともに、2年次には、3つの系を設定し、さらには、3年次以降では、各系をそれぞれの分野に分けて、理論的、実践的課題について発展的な学修ができるように科目を配置します。
- (4) 「洞察力」「実践力」といった現場実践能力を高度に修得するよう、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得や医療福祉へ対応する科目を、学生の興味関心に応じて複数資格の履修も可能となるように配置します。
- (5) 自らの問題意識で物事を解明する力を身につけるために、「卒業論文」の執筆を推奨します。

3. アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

生活支援学専攻では、学士課程教育を行うにあたり、次のような学生を受け入れることとします。

- (1) 現代社会が直面する課題の解決に自ら取り組もうとする主体性と学習意欲をもつ学生。
- (2) 人間と社会について深い洞察力を持ち、思考力と表現力に富む学生。
- (3) 人間の成長・発達に深い関心を持ち、すべての人々を包摂する実践を通して地域共生社会の実現に貢献する意欲のある学生。

<入学までに修得すべき学習等への取り組み>

社会福祉の専門性を身につけようと志望する者として、特に次の4点について常に意識的に学習することを求めます。

- (1) 社会福祉の専門性は、広範な知識と教養、人間性によって裏打ちされるものであるため、机上の学習だけでなく、社会的活動、文化・芸術活動などにも自主的に取り組むこと。
- (2) 多様な考え方や意見に対して、一定の距離を置くスタンスを身につけるため、論説文などの論理的文章を十分に理解し、自らの考えを論理的に表現できるスキルの習得を目指すこと。
- (3) 現代社会における政治・経済など、地球規模の社会諸事象について、歴史的観点を含めて、関心を持ち、基礎的知識を獲得しておくこと。
- (4) グローバルな支援活動も視野に収めることを踏まえ、外国語や外国文化に興味・関心を持ち、外国語を用いた積極的なコミュニケーション能力の向上に努めること。

1. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

(1) 基盤教育科目	18単位以上
○哲学・思想	2単位以上
○学問の基礎	
(人文科学)	
(社会科学)	
(自然科学)	
○国際人の形成	8単位以上
(世界の伝統と文化)	
(グローバル社会の実際)	
(語学)	(8単位以上)
○健康・スポーツ科学	
○総合・学際	
(2) 専門科目	70単位以上
○学部共通科目	
○学科専門科目	70単位以上
(必修科目)	(20単位)
(選択科目)	(50単位以上)
総計 ((1) と (2) の合計)	124単位以上

- (1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- (2) 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成（語学）の外国語科目必修8単位を含み、基盤教育科目で18単位以上を修得すること。
また、外国人留学生入学試験入学者は、上記の他に、国際人の形成（語学）の留学生対象科目必修6単位を修得すること。
- (3) 専門科目で、学科専門科目を70単位以上（うち必修科目20単位、選択科目50単位以上）修得すること。

2. 生活支援学科生活支援学専攻 教育課程表 (2021年度入学生用)

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	哲学	1~4	2	講義	PHT1001	
		選択	人間と宗教	1~4	2	講義	PHT1002	
		選択	生命と倫理	1~4	2	講義	PHT1003	
		選択	ジェンダー論	1~4	2	講義	PHT1004	
		選択	人権と生活	1~4	2	講義	PHT1005	
	2単位以上							
	学問の基礎 (人文科学)	選択	美術一般	1~4	2	講義	FAS1001	
		選択	音楽一般	1~4	2	講義	FAS1002	
		選択	文学	1~4	2	講義	FAS1003	
		選択	文章読解	1~4	2	講義	FAS1004	
		選択	口頭表現法	1~4	2	講義	FAS1005	
		選択	レポート・論文のまとめ方	1~4	2	講義	FAS1006	
		選択	プレゼンテーション技法	1~4	2	講義	FAS1007	
選択		文化論	1~4	2	講義	FAS1008		
選択		文化人類学	1~4	2	講義	FAS1009		
選択		身体論	1~4	2	講義	FAS1010		
-								
学問の基礎 (社会科学)	選択	社会学	1~4	2	講義	FAS1011		
	選択	心理学	1~4	2	講義	FAS1012		
	選択	法学	1~4	2	講義	FAS1013		
	選択	経済学	1~4	2	講義	FAS1014		
	選択	経営学	1~4	2	講義	FAS1015		
	選択	家族の社会学	1~4	2	講義	FAS1016		
	選択	統計学	1~4	2	講義	FAS1017		
	選択	企業のしくみ	1~4	2	講義	FAS1018		
-								
学問の基礎 (自然科学)	選択	生活と栄養	1~4	2	講義	FAS1019		
	選択	物理	1~4	2	講義	FAS1020		
	選択	数学	1~4	2	講義	FAS1021		
	選択	危機管理と救急法	1~4	2	講義	FAS1022		
-								
国際人の形成 (世界の伝統と文化)	選択	グローバル化と文化A	1~4	2	講義	IHR1001		
	選択	グローバル化と文化B	1~4	2	講義	IHR1002		
	選択	グローバル化と文化C	1~4	2	講義	IHR1003		
	選択	グローバル化と文化D	1~4	2	講義	IHR1004		
	選択	グローバル化と文化E	1~4	2	講義	IHR1005		
-								
国際人の形成 (グローバル社会の実際)	選択	異文化理解概論	1~4	2	講義	IHR1006		
	選択	留学のすすめ	1~4	2	講義	IHR1007		
	選択	海外研修Ⅰ	1~4	2	講義	IHR1008		
	選択	海外研修Ⅱ	1~4	2	講義	IHR1009		
	選択	海外実習Ⅰ	1~4	2	実験・実習	IHR1010		
	選択	海外実習Ⅱ	1~4	2	実験・実習	IHR1011		
	選択	短期海外研修Ⅰ	1~4	1	講義	IHR1012		
	選択	短期海外研修Ⅱ	1~4	1	講義	IHR1013		

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法
国際人の形成 (グローバル社会の実際)	選択	短期海外研修Ⅲ	1~4	1	講義	IHR1014	
	選択	短期海外研修Ⅳ	1~4	1	講義	IHR1015	
	選択	短期海外実習Ⅰ	1~4	1	実験・実習	IHR1016	
	選択	短期海外実習Ⅱ	1~4	1	実験・実習	IHR1017	
	選択	短期海外実習Ⅲ	1~4	1	実験・実習	IHR1018	
	選択	短期海外実習Ⅳ	1~4	1	実験・実習	IHR1019	
-							
国際人の形成(語学) 基盤教育科目	必修	基礎英語演習Ⅰ	1	1	演習	ENG1001	
	必修	基礎英語演習Ⅱ	1	1	演習	ENG1002	
	必修	英語コミュニケーションⅠA	1	1	演習	ENG1003	
	必修	英語コミュニケーションⅠB	1	1	演習	ENG1004	
	必修	応用英語演習Ⅰ	2	1	演習	ENG2005	
	必修	応用英語演習Ⅱ	2	1	演習	ENG2006	
	必修	英語コミュニケーションⅡA	2	1	演習	ENG2007	
	必修	英語コミュニケーションⅡB	2	1	演習	ENG2008	
	選択	グローバルコミュニケーションⅠ	1~4	1	演習	ENG1009	
	選択	グローバルコミュニケーションⅡ	1~4	1	演習	ENG1010	
	選択	Practical EnglishⅠ	1~4	1	演習	ENG1011	
	選択	Practical EnglishⅡ	1~4	1	演習	ENG1012	
	選択	English e-LearningⅠ	1~4	1	演習	ENG1013	
	選択	English e-LearningⅡ	1~4	1	演習	ENG1014	
	選択	ドイツ語Ⅰ	1~4	1	演習	GER1001	
	選択	ドイツ語Ⅱ	1~4	1	演習	GER1002	
	選択	フランス語Ⅰ	1~4	1	演習	FRA1001	
	選択	フランス語Ⅱ	1~4	1	演習	FRA1002	
	選択	中国語Ⅰ	1~4	1	演習	CHI1001	
	選択	中国語Ⅱ	1~4	1	演習	CHI1002	
	選択	韓国語Ⅰ	1~4	1	演習	KOR1001	
	選択	韓国語Ⅱ	1~4	1	演習	KOR1002	
	必修	日本語Ⅰ	1~4	1	演習	JLN1001	外国人留学生のみ履修可
	必修	日本語Ⅱ	1~4	1	演習	JLN1002	
	必修	日本事情Ⅰ	1~4	2	講義	JLN1003	
	必修	日本事情Ⅱ	1~4	2	講義	JLN1004	
	選択	テクニカルライティング	1~4	2	講義	ENG1015	
	選択	アカデミックライティング	1~4	2	講義	ENG1016	
	選択	IELTS for Study AbroadⅠ Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1017	
	選択	IELTS for Study AbroadⅡ Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1018	
	選択	IELTS for Study AbroadⅠ Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1019	
	選択	IELTS for Study AbroadⅡ Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1020	
選択	Pre-Study Abroad Listening/Speaking	1~4	1	演習	ENG1021		
選択	Pre-Study Abroad Writing	1~4	1	演習	ENG1022		
選択	Business English Communication	1~4	2	講義	ENG1023		
外国語科目必修8単位以上							
キャリア・市民形成	選択	生活と環境	1~4	2	講義	ECD1001	
	選択	日本国憲法	1~4	2	講義	ECD1002	
	選択	基礎会計学	1~4	2	講義	ECD1003	
	選択	学校と地域(学校安全を含む)	1~4	2	講義	ECD1004	
	選択	生活と住居	1~4	2	講義	ECD1005	

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
基盤教育科目	キャリア・市民形成	選択	地域研究法	1~4	2	講義	ECD1006	
		選択	コミュニケーション&マナー	1~4	2	講義	ECD1007	
		選択	公務員論	1~4	2	講義	ECD1008	
		選択	キャリアデベロップメント	1~4	2	講義	ECD1009	
		選択	社会貢献活動入門	1~4	2	講義	ECD1010	
		選択	インターンシップ入門	1~4	2	講義	ECD1011	
	-							
	健康・スポーツ科学	選択	スポーツ健康科学実技ⅠA	1~4	1	実技	DMB1001	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅠB	1~4	1	実技	DMB1002	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅡA	1~4	1	実技	DMB1003	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅡB	1~4	1	実技	DMB1004	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅢA	1~4	1	実技	DMB1005	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅢB	1~4	1	実技	DMB1006	
		選択	スポーツ健康科学講義A	1~4	2	講義	DMB1007	
		選択	スポーツ健康科学講義B	1~4	2	講義	DMB1008	
	-							
	総合・学際	選択	全学総合A	1~4	2	講義	ITS1001	
		選択	全学総合B	1~4	2	講義	ITS1002	
		選択	総合A	1~4	2	講義	ITS1003	
		選択	総合B	1~4	2	講義	ITS1004	
		選択	総合C	1~4	2	講義	ITS1005	
選択		総合D	1~4	2	講義	ITS1006		
選択		総合E	1~4	2	講義	ITS1007		
選択		総合F	1~4	2	講義	ITS1008		
選択		全学総合F	1~4	2	講義	ITS1009		
選択		全学総合G	1~4	2	講義	ITS1010		
選択		全学総合H	1~4	2	講義	ITS1011		
選択		全学総合C	1~4	2	講義	ITS1012		
選択		全学総合L	1~4	2	講義	ITS1013		
選択		全学総合M	1~4	2	講義	ITS1014		
選択		全学総合I	1~4	2	講義	ITS1015		
選択		全学総合J	1~4	2	講義	ITS1016		
選択		全学総合K	1~4	2	講義	ITS1017		
選択		全学総合D	1~4	2	講義	ITS1018		
選択	全学総合E	1~4	2	講義	ITS1019			
-								
基盤教育科目18単位以上								

生活支援学科生活支援学専攻 専門科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
学部共通科目	選択	ライフデザイン学Ⅰ	1	2	講義	TYS101		
	選択	ライフデザイン学Ⅱ	1	2	講義	TYS102		
※他学科・専攻開放科目を含む								
-								
専攻科目 学科専門科目	必修	情報リテラシーⅠ	1	2	演習	ISE101		
	必修	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	2	講義	SWS101		
	必修	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	2	講義	SWS102		
	必修	実習の基礎	1	2	講義	SWS103		
	必修	生活支援学基礎演習Ⅰ	1	2	演習	SEM101		
	必修	生活支援学基礎演習Ⅱ	1	2	演習	SEM102		
	必修	生活支援学専門演習Ⅰ	3	2	演習	SEM301		
	必修	生活支援学専門演習Ⅱ	3	2	演習	SEM302		
	必修	生活支援学専門演習Ⅲ	4	2	演習	SEM401		
	必修	生活支援学専門演習Ⅳ	4	2	演習	SEM402		
	必修科目20単位							
	選択	情報リテラシーⅡ	1~4	2	演習	ISE102		
	選択	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1	2	講義	SWS104		
	選択	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1	2	講義	SWS105		
	選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	2	講義	SWS106		
	選択	児童・家庭福祉	1	2	講義	SWS107		
	選択	医学概論	1	2	講義	GIM101		
	選択	社会福祉発達史	1	2	講義	SWS108		
	選択	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	1	2	講義	SWS109		
	選択	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	1	2	講義	SWS110		
	選択	国際文化事情A	1~4	2	講義	FLE101		
	選択	国際文化事情B	1~4	2	講義	FLE102		
	選択	国際児童福祉	1~4	2	講義	SWS111		
	選択	Introduction to Social Work	3~4	2	講義	SWS301		
	選択	生活支援学総合演習Ⅰ	2	2	演習	SEM201		
	選択	生活支援学総合演習Ⅱ	2	2	演習	SEM202		
	選択	社会福祉調査の基礎	1	2	講義	SOC101		
	選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	講義	SWS201		
	選択	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	演習	SWS202		
	選択	ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門)	2	2	演習	SWS203		
	選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ(専門)	2	2	講義	SWS204		
	選択	福祉レクリエーション	2	2	講義	SWS205		
	選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	1	実験・実習	SWS206		
選択	精神医学と精神医療Ⅰ	2	2	講義	PSS201			
選択	精神医学と精神医療Ⅱ	2	2	講義	PSS202			
選択	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	2	講義	SWS207			
選択	精神保健福祉の原理Ⅱ	2	2	講義	SWS208			
選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ(専門)(精神)	2	2	講義	SWS209			
選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(専門)(精神)	2	2	講義	SWS210			
選択	ソーシャルワーク演習Ⅰ(専門)(精神)	3	2	演習	SWS302			
選択	ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門)(精神)	3	2	演習	SWS303			
選択	ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)(精神)	4	2	演習	SWS401			
選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(精神)	3	1	実験・実習	SWS304			

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
専門科目	学科専門科目	選択	保健医療と福祉	2	2	講義	SWS211	
		選択	高齢者福祉	1	2	講義	SWS112	
		選択	障害者福祉	1	2	講義	SWS113	
		選択	権利擁護を支える法制度	2~3	2	講義	SWS212	
		選択	貧困に対する支援	2~3	2	講義	SWS213	
		選択	刑事司法と福祉	2~3	2	講義	SWS214	
		選択	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2~3	2	講義	SWS215	
		選択	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2~3	2	講義	SWS216	
		選択	福祉サービスの組織と経営	2~3	2	講義	SWS217	
		選択	社会保障Ⅰ	2~3	2	講義	SWS218	
		選択	社会保障Ⅱ	2~3	2	講義	SWS219	
		選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ(専門)	3	2	講義	SWS305	
		選択	ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	3	2	演習	SWS306	
		選択	ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門)	3	2	演習	SWS307	
		選択	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	2	実験・実習	SWS220	
		選択	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	実験・実習	SWS308	
		選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	1	実験・実習	SWS309	
		選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	1	実験・実習	SWS310	
		選択	精神保健福祉制度論	3	2	講義	SWS311	
		選択	精神障害リハビリテーション論	3	2	講義	PSS301	
		選択	ソーシャルワーク実習(精神)	4	4	実験・実習	SWS402	
		選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(精神)	4	1	実験・実習	SWS403	
		選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(精神)	4	1	実験・実習	SWS404	
		選択	医療ソーシャルワーク論	3	2	講義	SWS312	
		選択	医療福祉演習Ⅰ	3	2	演習	SWS313	
		選択	医療福祉演習Ⅱ	3	2	演習	SWS314	
		選択	生活支援学特別講義A	3~4	2	講義	SWS315	
		選択	生活支援学特別講義B	3~4	2	講義	SWS316	
		選択	ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	4	2	演習	SWS405	
		選択	地域医療福祉専門実習A	4	2	実験・実習	SWS406	
		選択	地域医療福祉専門実習B	4	2	実験・実習	SWS407	
		選択	卒業論文	4	4	演習	THE401	
		選択	災害と福祉	3	2	講義	SWS317	
		選択	居住福祉論	3	2	講義	SWS318	
		選択	ケアマネジメント論	3	2	講義	SWS319	
		選択	ケアワーク論	2	2	講義	SWS221	
		選択	スクールソーシャルワーク論	3	2	講義	SWS320	
		選択	ジェンダーと福祉	3	2	講義	SWS321	
		選択	福祉ICT	3	2	講義	SWS322	
		選択	社会福祉国際体験演習	3	2	演習	SWS323	
		選択	国際福祉開発交流	3	2	講義	SWS324	
		選択	ソーシャルアクション論	3	2	講義	SWS325	
		選択	現代社会とメンタルヘルス	3	2	講義	SWS326	
コース科目	介護福祉士	選択	介護福祉援助概論Ⅰ	1	2	講義	SWS114	介護福祉士コース 所属学生のみ履修 可
		選択	介護福祉援助概論Ⅱ	2	2	講義	SWS222	
		選択	生活支援技術Ⅰ	1	1	演習	SWS115	
		選択	生活支援技術Ⅱ	1	1	演習	SWS116	

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法			
専門科目	介護福祉士コース科目	選択	生活支援技術Ⅲ	2	1	演習	SWS223	介護福祉士コース所属学生のみ履修可		
		選択	生活支援技術Ⅳ	2	1	演習	SWS224			
		選択	生活支援技術Ⅴ	2	1	演習	SWS225			
		選択	生活支援技術Ⅵ	2	1	演習	SWS226			
		選択	生活支援技術Ⅶ	3	1	演習	SWS327			
		選択	生活支援技術Ⅷ	3	1	演習	SWS328			
		選択	生活支援技術Ⅸ	4	1	演習	SWS408			
		選択	生活支援技術Ⅹ	3	1	演習	SWS329			
		選択	介護コミュニケーション技術Ⅰ	2	2	講義	SWS227			
		選択	介護コミュニケーション技術Ⅱ	2	2	講義	SWS228			
		選択	介護過程Ⅰ	1	1	演習	SWS117			
		選択	介護過程Ⅱ	2	1	演習	SWS229			
		選択	介護過程Ⅲ	3	1	演習	SWS330			
		選択	介護過程Ⅳ	4	1	演習	SWS409			
		選択	介護総合演習Ⅰ	1	1	演習	SWS118			
		選択	介護総合演習Ⅱ	2	1	演習	SWS230			
		選択	介護総合演習Ⅲ	2	1	演習	SWS231			
		選択	介護総合演習Ⅳ	3	1	演習	SWS331			
		選択	介護福祉実習Ⅰ	1	2	実験・実習	SWS119			
		選択	介護福祉実習Ⅱ	2	3	実験・実習	SWS232			
		選択	介護福祉実習Ⅲ	3	3	実験・実習	SWS332			
		選択	介護福祉実習Ⅳ	4	2	実験・実習	SWS410			
		選択	発達と老化の理解	1~4	2	講義	SWS120			
		選択	認知症の理解Ⅰ	1~4	2	講義	SWS121			
		選択	認知症の理解Ⅱ	1~4	2	講義	SWS122			
		選択	こころとからだのしくみⅠ	1~4	2	講義	PSS101			
		選択	こころとからだのしくみⅡ	1~4	2	講義	PSS102			
		選択	こころとからだのしくみⅢ	1~4	2	講義	PSS103			
		選択	医療的ケアⅠ	3	2	講義	SWS333			
		選択	医療的ケアⅡ	3	2	講義	SWS334			
		選択	医療的ケアⅢ	4	2	講義	SWS411			
		選択	実習指導の理論と方法	3~4	2	講義	SWS335			
		選択	介護過程の応用	3~4	1	演習	SWS336			
		選択科目50単位以上								
		専門科目70単位以上								

〈他学科・専攻開放科目〉

開講学科	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
他学科・専攻開放科目(学部共通科目も含む)	健康スポーツ学科	解剖学	1	2	講義	GEA101	
		人体組織学	1~4	2	講義	GEA102	
		公衆衛生学	1	2	講義	HPH101	
		エアロビクス基礎実習	1	1	実習	AHS101	
		健康教育学	2~4	2	講義	DMB201	
		健康科学概論	1	2	講義	DMB101	
		スポーツビジネス論	2~4	2	講義	SPS201	
		トレーニング概論	1~4	2	講義	DMB102	
		免疫と薬理	1~4	2	講義	EPM101	
		国際健康スポーツ交流A	1	2	実習	AHS102	
		エアロビクス実習	1~4	1	実習	AHS103	
		健康スポーツボランティア活動A	1~4	2	実習	SWS123	
		スポーツとコミュニケーション	2~4	2	講義	FLE201	
		スポーツ応急処置演習	2~4	2	演習	AHS201	
		運動生理学	2	2	講義	GPH201	
		スポーツ生理学	2~4	2	講義	GPH202	
		コーチング概論	2~4	2	講義	SPS202	
		レクリエーション実習	2	1	実習	AHS202	
		機能解剖学	2~4	2	講義	GEA201	
		スポーツ医学	2~4	2	講義	AHS203	
		トレーニング基礎実習	2~4	1	実習	SPS203	
		スポーツ社会学	1	2	講義	SPS101	
		スポーツ人類学	2~4	2	講義	SPS204	
		スポーツ史	2~4	2	講義	SPS205	
		レクリエーション論	1	2	講義	AHS104	
		小児保健(含学校保健)	2~4	2	講義	AHS204	
		高齢者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS206	
		障がい者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS207	
		発育・発達・加齢論	1	2	講義	DMB103	
		健康文化論	2~4	2	講義	SPS208	
		アスレティックトレーニング論	2~4	2	講義	SPS209	
		運動傷害と予防	2~4	2	講義	AHS205	
		リハビリテーション論	2~4	2	講義	RSW201	
		エアロビクス指導法	2~4	1	演習	AHS206	
スポーツマネジメント	2~4	2	講義	SPS210			
測定評価	2~4	2	講義	AHS207			
アクアビクス指導法	2~4	1	演習	AHS208			
運動疫学	2~4	2	講義	HPH201			
ヘルスプロモーション論	1	2	講義	AHS105			
トレーニングプログラミング論	2~4	2	講義	SPS211			
生涯スポーツ論	1	2	講義	AHS106			
スポーツ文化論	2~4	2	講義	SPS212			
子ども健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS213			
高齢者健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	SPS214			
スポーツと栄養	2~4	2	講義	SPS215			

開講学科	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
他学科・専攻開放科目(学部共通科目を含む)	健康スポーツ学科	スポーツ心理学	2~4	2	講義	SPS216	
		健康政策と行政	2~4	2	講義	AHS209	
		地域スポーツクラブ論	2~4	2	講義	SPS217	
		スポーツ政策論	2~4	2	講義	SPS218	
		身体文化論	2~4	2	講義	DMB202	
		子ども健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	CHS201	
		障がい者論	2~4	2	講義	AHS210	
		労働衛生Ⅰ	3~4	2	講義	HPH301	
		労働衛生Ⅱ	3~4	2	講義	HPH302	
		労働安全衛生法Ⅰ	3~4	2	講義	SOL301	
		労働安全衛生法Ⅱ	3~4	2	講義	SOL302	
		労働基準法	3~4	2	講義	SOL303	
		スポーツトレーニング指導法	2~4	2	講義	SPS219	
		障がい者健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	SPS220	
		運動処方	3~4	2	講義	AHS301	
		運動負荷試験	3~4	2	講義	AHS302	
		バイオメカニクス実習	2	1	実習	SPS221	
		健康スポーツインターンシップA	2~4	2	講義	CIV201	
		生活習慣と健康	1	2	講義	AHS107	
		スポーツ経済論	2~4	2	講義	SPS222	
	スポーツメディア論	2~4	2	講義	SPS223		
	スポーツ情報分析論	2~4	2	講義	DMB203		
	バイオメカニクス	2~4	2	講義	SPS224		
	健康栄養論	2	2	講義	AHS211		
	日本文化と武道	1~4	2	講義	DMB104		
	老年学	2~4	2	講義	DMB204		
	子ども学	2~4	2	講義	CHS202		
	国際健康スポーツ交流B	1	2	実習	AHS108		
	外国語文献講読	1~4	2	講義	FLE103		
	人間環境デザイン学科	人間工学	2	2	講義	RSW202	
		道具の歴史	1	2	講義	CLD101	
		マーケティング	2	2	講義	CME201	
		産業とプロダクトデザイン	3	2	講義	DES301	
		建築歴史意匠B	2	2	講義	AHD201	
情報メディアデザイン		3~4	2	講義	DES302		
安全工学		3~4	2	講義	TPA301		
医療福祉建築計画		3~4	2	講義	TPA302		
リハビリテーション工学		3~4	2	講義	RSW301		
福祉住環境コーディネータ論		3~4	2	講義	CLD301		
こども環境論		2	2	講義	CLD201		
建築歴史意匠A		1	2	講義	AHD101		
ヒューマンインターフェース		2	2	講義	HII201		
プロダクトデザイン基礎		1	2	講義	DES101		
International Design Practices	1~4	2	講義	DES102			
支援技術とデザイン	3~4	2	講義	RSW302			

3. 基盤教育

(1) 哲学・思想

2単位以上を修得しなければなりません。

(2) 国際人の形成（語学）

1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

4. 専門科目・学部共通科目

選択科目

単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

ただし演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に人数調整をする場合があります。詳細は「履修登録のしおり」を確認してください。

5. 専門科目・学科専門科目

(1) 必修科目

- ①20単位すべてを修得しなければなりません。
- ②クラス分けのうえ事前登録される科目があります。履修登録確認表で指定されたクラスを確認してください。
- ③「情報リテラシーⅠ」はあらかじめクラス分けがされています。指定されたクラスの授業を履修してください。
- ④卒業論文は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。

(2) 選択科目

- ①50単位以上を修得しなければなりません。
- ②科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。やむを得ず途中からの履修をしなければならない場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうかを確認してから履修登録してください。なお、科目の後ろにA・Bと記載されている科目については順を追って履修する必要はありません。
- ③「ソーシャルワーク実習Ⅰ、Ⅱ」及び「ソーシャルワーク実習（精神）」は、それぞれ履修するための条件があります。「諸資格について（P.107～）」を参照してください。
- ④介護福祉士コース科目は、介護福祉士コースに所属する学生のみ履修することができます。
- ⑤「生活支援学基礎演習Ⅰ」（春学期）・「生活支援学基礎演習Ⅱ」（秋学期）の履修について
この科目は、生活支援学専攻2年次の、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士のいずれの資格も希望していない学生を対象に開講しています。これらの学生については、国家資格取得を目指す学生に比べ、2年次における社会福祉分野の基礎的な学修機会が少なく、それを補うために履修する必要があります。必修科目という位置づけではありませんが、3年次に「生活支援学専門演習Ⅰ」・「生活支援学専門演習Ⅱ」を履修するにあたっての基礎的な教育をする授業となります。この科目を履修しない場合、3年次以降の学修に支障が生じることがありますので履修修得してください。

※社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の資格取得を希望していない学生は、履修登録の際、大学で一括して事前に履修登録します。当該学生の履修登録画面には、登録済みとなつて表示されます。

なお、この科目の単位を修得していない学生については、3年次以降も演習担当教員から継続して履修を勧奨します。

(3) 介護福祉士コースの履修単位数上限

「介護福祉士コース」の学生は、1年次秋学期以降、履修登録の上限が1セメスタあたり28単位（通常の24単位に4単位を追加できる）となります。

(4) 介護福祉士コースの科目「実習指導の理論と方法」（2単位）は、法令上、介護福祉士の養成指定科目ではなく、本学において独自に開講している科目であり必修として位置づけています。

(5) 学外実習スケジュール

P.56を確認してください。

6. 4年次 地域医療福祉専門実習A・Bについて

生活支援学専攻では、卒業後、地域における保健・医療・福祉の領域で、援助専門職として働く意志のある学生を対象にして、実践的な問題意識を深め、より高度な専門性を身につけるための専門実習科目として、「地域医療福祉専門実習A・B」を設けています。

本科目で想定している専門実習領域は次の通りです。

- ・生活支援領域
- ・医療福祉領域
- ・精神保健福祉領域
- ・介護福祉領域

以上の専門実習領域は、履修登録後、担当教員との相談を通じて、学生自身が自らの問題意識に応じて、主体的に選択するものです（但し、3年次までの先行履修要件があるものもあります）。

また、春学期開講の「地域医療福祉専門実習A」と秋学期開講の「地域医療福祉専門実習B」はそれぞれ独立した科目ですので、春学期開講のAのみ、もしくは秋学期開講のBのみ、さらにA・B両方を履修することもできます。また、春学期、秋学期と異なった領域で履修することも可能です（介護福祉領域を除く）。

- ・就職を希望している種別の施設で実習をしたい
- ・内定した法人や施設でインターンシップをしたい
- ・就職活動にあたって自分の適性や力量を確認したい
- ・卒業論文執筆に向けての問題意識を体験的に検証したい

といった学生は、積極的に履修してください。

(1) 実習料について

実習料は学生の自己負担となります。金額は各実習施設の定めによります。

また、実習にあたっては交通費等の実費負担が発生します。

※なお、実習費は、大学が徴収し、実習終了後に大学から各実習施設に振り込みます。大学の指示に従って納入してください。

(2) 実習施設の選択と契約について

実習施設は、学生自身の自己開拓が原則です。学生の申し出により大学が実習施設との契約を交わします。実習施設の選定には、適宜、担当教員と相談し決定します。

(3) 実習時期や日数の設定について

実習の時期や日数は、学生と各実習施設が相談の上、決定します。

【生活支援領域】

社会福祉施設をはじめとする市民の生活支援に関わる広範な機関・施設で働く、福祉専門職を目指す学生を想定した領域です。実習は、社会福祉法に定められている社会福祉施設の他、NPO法人など、幅広い生活支援事業を行っている機関・施設での実習も可能です。（但し実習施設の選択は、教員と相談の上、行ってください）

例えば、認知症に特化した支援を学びたい、虐待対応について学びたいなど、3年次の実習よりも一歩進んだ課題に取り組みたいという学生はぜひ履修してください。また、3年次に社会福祉士等の実習を行っていない学生でも、介護サービス企業の内定者などがインターンシップとして、履修する

ことも可能です。

【医療福祉領域】

保健・医療分野のソーシャルワーカー（MSW=Medical Social Worker）を目指す学生のための専門領域です。生活支援学専攻では、地域医療・地域包括ケア現場からのより高度な医療福祉の専門性への要求に応えるべく、学外研修を含めた独自の高度専門職養成課程を運営しています。

医療福祉領域の機関・施設で実習を行うには、以下のすべての要件を満たしていることが必要です。

- ①生活支援学専攻の4年生であること
- ②社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習を終了していること
- ③将来、保健医療福祉の相談援助職になることを希望していること
- ④2年次に「保健医療と福祉」の単位を修得していること
- ⑤3年次に「医療福祉演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること
- ⑥卒業までに「医療ソーシャルワーク論」の単位を修得すること

※但し④～⑥については、履修登録上の理由により、要件を満たしていない場合でも、担当教員の判断で履修を認める場合があります。

資格について：医療ソーシャルワーカー自体の資格はありません。医療ソーシャルワーカーは、社会福祉士、精神保健福祉士が就職のための資格要件となっています。但し、社会福祉士の養成課程だけでは、医療に関する内容がほとんどないため、医療機関での実習や就職活動にあたっては、本コースの受講は不可欠です。

【精神保健福祉領域】

精神障害者の保健福祉領域での福祉専門職を目指す学生のための専門実習領域です。

対象は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ、Ⅱ」「ソーシャルワーク実習（精神）」を終了し、卒業後の就職・進路希望がこの分野である学生です。

具体的には、精神保健福祉領域の医療機関や施設などにおいて4年次にさらなる実習を行い、専門的な知識や実践能力を身につけるもので、それに必要な事前・事後指導も行います。

また、実習先は原則自己開拓となります。この実習でどのようなことを学びたいのかよく考え、担当教員と綿密な事前相談をするようにしてください。

実習の形態、期間についても受講生の希望をもとに、実習機関との相談のうえ確定します。その際、自分の将来計画と併せて考えるようにしてください。

【介護福祉領域】

介護福祉士として、高齢者・障がい者の生活支援を高いレベルで行うことのできる専門職を目指す学生のための専門実習領域です。

実習は、介護保険法や障害者総合支援法に定められている事業所・施設のほか、地域で独自の取り組みを行っているNPO法人など、多様な機関での実習も可能です。ただし、実習先は、教員と相談のうえで選択・決定をしてください。

例えば、介護予防のための支援を学びたい、サービス提供責任者やサービス管理責任者の役割を学びたい、福祉用具や医療的ケアに関する知識を深めたい、地域のなかでの住民組織による介護サービスの実際を学びたいなど、3年次までの実習から一層掘り下げたテーマに取り組んでみたいという学生はぜひ履修をしてください。

なお、介護福祉領域の施設で実習を行うには、以下の2つをすべて満たしていることが必要です。

- ①介護福祉士コースに所属している4年生であること
- ②将来介護・福祉・医療分野の援助専門職として従事することを希望していること

7. 生活支援学科生活支援学専攻 学外実習スケジュール

各資格には、法令に定められた学外実習が必要となります。資格別の学外実習スケジュールは以下のとおりです。

それぞれの実習には、必要な手続き、ガイダンス、参加条件等が定められていますので、履修要覧やガイダンス資料、掲示等をよく確認し、漏れのないようにしてください。なお、学外実習スケジュールは関連法令改正等の理由により変更となる場合があります。

		社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士
1年次	春学期			
	秋学期			介護福祉実習Ⅰ 11月のうち計10日
2年次	春学期	ソーシャルワーク実習Ⅰ 8日間		
	秋学期			介護福祉実習Ⅱ 11月連続18日間
3年次	春学期	ソーシャルワーク実習Ⅱ 6～11月のうち 計24日間		介護福祉実習Ⅲ 5月連続18日間
	秋学期			
4年次	春学期		ソーシャルワーク実習(精神) (※1) 6～11月のうち 計28日間	
		地域医療福祉専門実習A		
	秋学期			介護福祉実習Ⅳ 5月連続12日間
	秋学期	地域医療福祉専門実習B		

◆生活支援学科生活支援学専攻のカリキュラム◆

生活支援学科生活支援学専攻のカリキュラムマップ

- DP1：知識・理解 相談やケアを必要とする人々の支援、コミュニティづくり、社会資源の調整・開発などの社会福祉学に関する体系的知識を修得している。
- DP2：思考・判断 様々な生活問題への鋭敏な感受性と深い洞察力を有し、課題解決に向けた支援の方策を検討することができる。
- DP3：関心・意欲 少子高齢化やグローバル化により複雑化する社会構造の中で、リーダーシップをとる自覚を持ち、課題の解決に積極的に取り組む意欲を有している。
- DP4：態度 ソーシャルワークの根源的思想に基づいて、人権と個人の尊厳を守る倫理観を有し、自らがたてた課題に向けて努力することができる。
- DP5：技能・表現 多様な社会問題の解決に資する論理的思考力と、グローバル社会で協働していくことのできるコミュニケーション能力を有している。

学年/DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
4年			生活支援技術Ⅹ	生活支援学専門演習Ⅲ	
			ソーシャルワーク演習Ⅰ(専門)(精神)	生活支援学専門演習Ⅳ	
			ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	卒業論文	ソーシャルワーク実習(精神)
				ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(精神)	介護過程Ⅳ
				ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(精神)	介護福祉実習Ⅳ
				医療的ケアⅢ	地域医療福祉専門実習A
					地域医療福祉専門実習B
3年	精神保健福祉制度論	ソーシャルワーク演習Ⅰ(専門)(精神)	生活支援学専門演習Ⅰ		Introduction to Social Work
	精神障害リハビリテーション論	ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門)(精神)	生活支援学専門演習Ⅱ		ソーシャルワーク実習Ⅱ
	医療ソーシャルワーク論	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ(専門)	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(精神)	生活支援学特別講義A	介護福祉実習Ⅲ
		現代社会とメンタルヘルス	ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	生活支援学特別講義B	災害と福祉
		生活支援技術Ⅶ	ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	居住福祉論
		生活支援技術Ⅷ	医療福祉演習Ⅰ	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	社会福祉国際体験演習
		生活支援技術Ⅹ	医療福祉演習Ⅱ	ケアマネジメント論	国際福祉開発交流
			介護過程Ⅲ	介護過程の応用	スクールソーシャルワーク論
			介護総合演習Ⅳ	医療的ケアⅠ	ジェンダーと福祉
				医療的ケアⅡ	福祉ICT
				ソーシャルアクション論	実習指導の理論と方法
2年	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	介護過程Ⅱ	生活支援学総合演習Ⅰ	精神保健福祉の原理Ⅰ	介護コミュニケーション技術Ⅰ
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(専門)	介護総合演習Ⅱ	生活支援学総合演習Ⅱ	精神保健福祉の原理Ⅱ	介護コミュニケーション技術Ⅱ
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ(精神)	介護総合演習Ⅲ	ソーシャルワーク演習Ⅰ	介護福祉援助概論Ⅱ	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ(専門)(精神)	介護福祉実習Ⅱ	ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門)		
	保健医療と福祉	精神医学と精神医療Ⅰ	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		
	権利擁護を支える法制度	精神医学と精神医療Ⅱ	福祉サービスの組織と経営		
	刑事司法と福祉	貧困に対する支援	ソーシャルワーク実習Ⅰ		
	社会保障Ⅰ	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	ケアワーク論		
	社会保障Ⅱ	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	福祉レクリエーション		
		生活支援技術Ⅲ			
		生活支援技術Ⅳ			
1年	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ	生活支援学基礎演習Ⅰ	ライフデザイン学Ⅰ	社会福祉の原理と政策Ⅰ	国際文化事情A
	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	生活支援学基礎演習Ⅱ	ライフデザイン学Ⅱ	社会福祉の原理と政策Ⅱ	国際文化事情B
	実習の基礎	介護過程Ⅰ			国際児童福祉
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	介護総合演習Ⅰ			
	児童・家庭福祉	介護福祉実習Ⅰ			
	医学概論	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ			
	社会福祉発達史	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ			
	高齢者福祉	認知症の理解Ⅱ			
	障害者福祉	発達と老化の理解			
	介護福祉援助概論Ⅰ	こころとからだのしくみⅡ			
	生活支援技術Ⅰ	こころとからだのしくみⅢ			
	生活支援技術Ⅱ	社会福祉調査の基礎			
	認知症の理解Ⅰ				
	こころとからだのしくみⅠ				
情報リテラシーⅠ					
情報リテラシーⅡ					

生活支援学科子ども支援学専攻

◆生活支援学科子ども支援学専攻の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

子ども支援学専攻では、子どもと保護者を支援するための専門的知識や技術の習得を基本とし、グローバルな視点を持ちながら地域社会の保育・幼児教育・子ども家庭福祉をリードしていく人材を養成することを目的とする。合わせて多文化共生保育・教育に関わる理解と実践力、保育等の質向上に向けた情報機器活用能力を備えた人材を養成することを目的とする。

専門職の資格としては、幼稚園教諭1種免許状、保育士資格を得ることができる。希望者は、社会福祉士国家試験受験資格も得ることができる。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

子ども支援学専攻では、保育・幼児教育・子ども家庭福祉などの分野に関する高い専門的知識を学び、子どもを支援するために必要な具体的な技術の修得と関連づけていくことのできる能力を養うことを目標とする。そして、さまざまな分野において課題に直面した際に、自らで考えてそれらの課題を解決していける能力を培うことを教育の目標とする。

3. その他の教育研究上の目的

子ども支援学専攻で養成する人材は、その専門性から、子どものみならず、子育てをしている保護者を支援する力量も必要とされている。そのためには、さらに、社会的に広い知識と、人間への尊敬を基本とする深い思慮が必要であり、それらの育成も目的とする。

◆生活支援学科子ども支援学専攻3つのポリシー◆

1. ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）

子ども支援学専攻では、子どもと保護者を支援するための専門的知識や技術の習得を基本として、グローバルな視点を持ちながら地域社会の保育・幼児教育・子ども家庭福祉をリードしていく力の習得、合わせて多文化共生保育・教育に関わる理解と実践力、保育等の質向上に向けた情報機器活用能力の習得を教育目標として、以下の要件を満たす学生に対して学位を授与します。

(1) 知識・理解

保育学、幼児教育学、子ども家庭福祉学に関する基礎的知識を体系的に習得していること。

(2) 問題解決能力・協同性

保育・幼児教育・子ども家庭福祉の課題に対する科学的探究心を持ち、他者と協同しながら主体的に問題を解決する能力を身につけていること。

(3) 子どもの人権、主体性

子どもの人権や主体性を尊重し、多様な育ちや幸福を支えていくための倫理観を基盤とした保育・教育を行う姿勢と技能を身につけていること。

(4) 多文化共生理解

多様な価値観や文化への関わりを通して、ローカル及びグローバルな視点から保育・幼児教育・子ども家庭福祉における多文化共生の意義や方法を理解していること。

(5) ICT活用能力

保育・幼児教育・子ども家庭福祉の質の向上に向け、ICTを活用して情報を共有、管理、分析する能力を身につけていること。

(6) 幅広い教養

多角的な視野から幅広い教養を身につけ、さまざまな知見を活用・統合する能力を身につけて

いること。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- (1) 基礎的な学力と豊かな教養を身につけるための基盤教育科目を配置する。
- (2) さまざまな子どもや保護者を支援する力を備えるための専門科目を配置する。保育士・幼稚園教諭の資格取得に必要な専門科目を配置する。保育士・幼稚園教諭の資格取得に必要な専門科目を必修・選択として設定し、学びの系統性に配慮しながら順次履修できるよう配置する。
- (3) 諸資格取得のための学外実習は、実習毎に事前・事後学習を徹底し、専門科目との関連に配慮して教育課程を編成する。
- (4) 子ども支援学専攻に関連する今日的課題を主体的に見出し、問題解決能力の育成を図るために1年次から4年次のゼミナール配置を行う。
- (5) 幼稚園教諭1種免許・保育士資格取得のみならず、社会福祉士受験資格取得が可能なカリキュラムを編成し、高度なソーシャルワーク技能を併せ持つ人材育成をはかる。
- (6) グローバルに活躍できる人材を育成するために語学・文化教育にも力を入れ、海外研修に関する科目を設定する。
- (7) 多文化共生社会を実現する力を持った人材養成を目指し、1年次から継続的なカリキュラムを編成する。
- (8) 保育・幼児教育・子ども家庭福祉の分野におけるICT活用能力の習得を目指し、実践的な学びを実現する科目配置を行う。

3. アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

以下のような点を入学者の条件として求めます。

- (1) 子どもの成長発達や保育・教育の問題に深い関心を持ち、それを学ぼうとする知的好奇心と強い意志があること。
- (2) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有していること。
- (3) 対人援助専門職者は援助の過程で他者との連携が求められる。よって、積極的に他者とかわり、対話を成立させ、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有していること

1. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

(1) 基盤教育科目	18単位以上
○哲学・思想	2単位以上
○学問の基礎	
(人文科学)	
(社会科学)	
(自然科学)	
○国際人の形成	8単位以上
(世界の伝統と文化)	
(グローバル社会の実際)	
(語学)	(8単位以上)
○健康・スポーツ科学	
○総合・学際	
(2) 専門科目	66単位以上
○学部共通科目	
○学科専門科目	66単位以上
(必修科目)	(18単位)
(選択必修科目)	(4単位もしくは6単位)
(選択科目)	(44単位以上)
総計 ((1) と (2) の合計)	124単位以上

- (1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- (2) 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成（語学）の外国語科目必修8単位を含み、基盤教育科目で18単位以上を修得すること。
また、外国人留学生入学試験入学者は、上記の他に、国際人の形成（語学）の留学生対象科目必修6単位を修得すること。
- (3) 専門科目で、学科専門科目から66単位以上（うち必修科目18単位、選択必修科目4単位もしくは6単位、選択科目44単位以上）を修得すること。

2. 生活支援学科子ども支援学専攻 教育課程表 (2021年度入学生用)

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	哲学	1～4	2	講義	PHT1001	
		選択	人間と宗教	1～4	2	講義	PHT1002	
		選択	生命と倫理	1～4	2	講義	PHT1003	
		選択	ジェンダー論	1～4	2	講義	PHT1004	
		選択	人権と生活	1～4	2	講義	PHT1005	
	2単位以上							
	学問の基礎 (人文科学)	選択	美術一般	1～4	2	講義	FAS1001	
		選択	音楽一般	1～4	2	講義	FAS1002	
		選択	文学	1～4	2	講義	FAS1003	
		選択	文章読解	1～4	2	講義	FAS1004	
		選択	口頭表現法	1～4	2	講義	FAS1005	
		選択	レポート・論文のまとめ方	1～4	2	講義	FAS1006	
		選択	プレゼンテーション技法	1～4	2	講義	FAS1007	
		選択	文化論	1～4	2	講義	FAS1008	
		選択	文化人類学	1～4	2	講義	FAS1009	
		選択	身体論	1～4	2	講義	FAS1010	
	-							
	学問の基礎 (社会科学)	選択	社会学	1～4	2	講義	FAS1011	
		選択	心理学	1～4	2	講義	FAS1012	
		選択	法学	1～4	2	講義	FAS1013	
		選択	経済学	1～4	2	講義	FAS1014	
		選択	経営学	1～4	2	講義	FAS1015	
		選択	家族の社会学	1～4	2	講義	FAS1016	
		選択	統計学	1～4	2	講義	FAS1017	
		選択	企業のしくみ	1～4	2	講義	FAS1018	
-								
学問の基礎 (自然科学)	選択	生活と栄養	1～4	2	講義	FAS1019		
	選択	物理	1～4	2	講義	FAS1020		
	選択	数学	1～4	2	講義	FAS1021		
	選択	危機管理と救急法	1～4	2	講義	FAS1022		
-								
国際人の形成 (世界の伝統と文化)	選択	グローバリゼーションと文化A	1～4	2	講義	IHR1001		
	選択	グローバリゼーションと文化B	1～4	2	講義	IHR1002		
	選択	グローバリゼーションと文化C	1～4	2	講義	IHR1003		
	選択	グローバリゼーションと文化D	1～4	2	講義	IHR1004		
	選択	グローバリゼーションと文化E	1～4	2	講義	IHR1005		
-								
国際人の形成 (グローバル社会の実際)	選択	異文化理解概論	1～4	2	講義	IHR1006		
	選択	留学のすすめ	1～4	2	講義	IHR1007		
	選択	海外研修Ⅰ	1～4	2	講義	IHR1008		
	選択	海外研修Ⅱ	1～4	2	講義	IHR1009		
	選択	海外実習Ⅰ	1～4	2	実験・実習	IHR1010		
	選択	海外実習Ⅱ	1～4	2	実験・実習	IHR1011		
	選択	短期海外研修Ⅰ	1～4	1	講義	IHR1012		
	選択	短期海外研修Ⅱ	1～4	1	講義	IHR1013		

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法
国際人の形成 (グローバル社会の実践)	選択	短期海外研修Ⅲ	1~4	1	講義	IHR1014	
	選択	短期海外研修Ⅳ	1~4	1	講義	IHR1015	
	選択	短期海外実習Ⅰ	1~4	1	実験・実習	IHR1016	
	選択	短期海外実習Ⅱ	1~4	1	実験・実習	IHR1017	
	選択	短期海外実習Ⅲ	1~4	1	実験・実習	IHR1018	
	選択	短期海外実習Ⅳ	1~4	1	実験・実習	IHR1019	
-							
国際人の形成(語学)	必修	基礎英語演習Ⅰ	1	1	演習	ENG1001	
	必修	基礎英語演習Ⅱ	1	1	演習	ENG1002	
	必修	英語コミュニケーションⅠA	1	1	演習	ENG1003	
	必修	英語コミュニケーションⅠB	1	1	演習	ENG1004	
	必修	応用英語演習Ⅰ	2	1	演習	ENG2005	
	必修	応用英語演習Ⅱ	2	1	演習	ENG2006	
	必修	英語コミュニケーションⅡA	2	1	演習	ENG2007	
	必修	英語コミュニケーションⅡB	2	1	演習	ENG2008	
	選択	グローバルコミュニケーションⅠ	1~4	1	演習	ENG1009	
	選択	グローバルコミュニケーションⅡ	1~4	1	演習	ENG1010	
	選択	Practical EnglishⅠ	1~4	1	演習	ENG1011	
	選択	Practical EnglishⅡ	1~4	1	演習	ENG1012	
	選択	English e-LearningⅠ	1~4	1	演習	ENG1013	
	選択	English e-LearningⅡ	1~4	1	演習	ENG1014	
	選択	ドイツ語Ⅰ	1~4	1	演習	GER1001	
	選択	ドイツ語Ⅱ	1~4	1	演習	GER1002	
	選択	フランス語Ⅰ	1~4	1	演習	FRA1001	
	選択	フランス語Ⅱ	1~4	1	演習	FRA1002	
	選択	中国語Ⅰ	1~4	1	演習	CHI1001	
	選択	中国語Ⅱ	1~4	1	演習	CHI1002	
	選択	韓国語Ⅰ	1~4	1	演習	KOR1001	
	選択	韓国語Ⅱ	1~4	1	演習	KOR1002	
	必修	日本語Ⅰ	1~4	1	演習	JLN1001	外国人留学生のみ履修可
	必修	日本語Ⅱ	1~4	1	演習	JLN1002	
	必修	日本事情Ⅰ	1~4	2	講義	JLN1003	
	必修	日本事情Ⅱ	1~4	2	講義	JLN1004	
	選択	テクニカルライティング	1~4	2	講義	ENG1015	
	選択	アカデミックライティング	1~4	2	講義	ENG1016	
	選択	IELTS for Study AbroadⅠ Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1017	
	選択	IELTS for Study AbroadⅡ Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1018	
	選択	IELTS for Study AbroadⅠ Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1019	
	選択	IELTS for Study AbroadⅡ Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1020	
選択	Pre-Study Abroad Listening/Speaking	1~4	1	演習	ENG1021		
選択	Pre-Study Abroad Writing	1~4	1	演習	ENG1022		
選択	Business English Communication	1~4	2	講義	ENG1023		
外国語科目必修8単位以上							
キャリア・市民形成	選択	生活と環境	1~4	2	講義	ECD1001	
	選択	日本国憲法	1~4	2	講義	ECD1002	
	選択	基礎会計学	1~4	2	講義	ECD1003	
	選択	学校と地域(学校安全を含む)	1~4	2	講義	ECD1004	
	選択	生活と住居	1~4	2	講義	ECD1005	

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
基盤教育科目	キャリア・市民形成	選択	地域研究法	1～4	2	講義	ECD1006	
		選択	コミュニケーション&マナー	1～4	2	講義	ECD1007	
		選択	公務員論	1～4	2	講義	ECD1008	
		選択	キャリアデベロップメント	1～4	2	講義	ECD1009	
		選択	社会貢献活動入門	1～4	2	講義	ECD1010	
		選択	インターンシップ入門	1～4	2	講義	ECD1011	
	-							
	健康・スポーツ科学	選択	スポーツ健康科学実技ⅠA	1～4	1	実技	DMB1001	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅠB	1～4	1	実技	DMB1002	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅡA	1～4	1	実技	DMB1003	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅡB	1～4	1	実技	DMB1004	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅢA	1～4	1	実技	DMB1005	
		選択	スポーツ健康科学実技ⅢB	1～4	1	実技	DMB1006	
		選択	スポーツ健康科学講義A	1～4	2	講義	DMB1007	
		選択	スポーツ健康科学講義B	1～4	2	講義	DMB1008	
	-							
	総合・学際	選択	全学総合A	1～4	2	講義	ITS1001	
		選択	全学総合B	1～4	2	講義	ITS1002	
		選択	総合A	1～4	2	講義	ITS1003	
選択		総合B	1～4	2	講義	ITS1004		
選択		総合C	1～4	2	講義	ITS1005		
選択		総合D	1～4	2	講義	ITS1006		
選択		総合E	1～4	2	講義	ITS1007		
選択		総合F	1～4	2	講義	ITS1008		
選択		全学総合F	1～4	2	講義	ITS1009		
選択		全学総合G	1～4	2	講義	ITS1010		
選択		全学総合H	1～4	2	講義	ITS1011		
選択		全学総合C	1～4	2	講義	ITS1012		
選択		全学総合L	1～4	2	講義	ITS1013		
選択		全学総合M	1～4	2	講義	ITS1014		
選択		全学総合I	1～4	2	講義	ITS1015		
選択		全学総合J	1～4	2	講義	ITS1016		
選択		全学総合K	1～4	2	講義	ITS1017		
選択		全学総合D	1～4	2	講義	ITS1018		
選択	全学総合E	1～4	2	講義	ITS1019			
-								
基盤教育科目18単位以上								

生活支援学科子ども支援学専攻 専門科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
学部共通科目	選択	ライフデザイン学Ⅰ	1	2	講義	TYS101		
	選択	ライフデザイン学Ⅱ	1	2	講義	TYS102		
※他学科・専攻開放科目を含む								
専門科目	必修	情報リテラシーⅠ	1	2	講義	ISE101		
	必修	子ども支援学概論	1	2	講義	CHS101		
	必修	子ども支援学演習Ⅰ	1	1	演習	SEM101		
	必修	子ども支援学演習ⅡA	2	1	演習	SEM201		
	必修	子ども支援学演習ⅡB	2	1	演習	SEM202		
	必修	多文化共生保育・教育	3	1	講義	CHS301		
	必修	子ども支援学演習ⅢA	3	1	演習	SEM301		
	必修	子ども支援学演習ⅢB	3	1	演習	SEM302		
	必修	子ども支援学演習ⅣA	4	1	演習	SEM401		
	必修	子ども支援学演習ⅣB	4	1	演習	SEM402		
	必修	教育制度論	1	2	講義	EDU101		
	必修	幼児教育論	1	2	講義	EDU102		
	必修	発達心理学	1	2	講義	EDP101		
	必修科目18単位							
	選択必修	子どもソーシャルワーク	3	2	講義	CHS302	1科目選択必修 ソーシャルワーク 演習Ⅳは社会福祉士 コースのみ履修可	
	選択必修	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	3	2	演習	SWS301		
	選択必修	卒業論文	4	4	演習	THE401	1科目選択必修	
	選択必修	卒業制作	4	2	演習	THE402		
	選択必修科目4単位もしくは6単位							
	選択	情報リテラシーⅡ	1~4	2	講義	ISE102		
	選択	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	2	講義	SWS101		
	選択	保育原理	1	2	講義	CHS102		
	選択	児童・家庭福祉	1	2	講義	SWS102		
	選択	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1	2	講義	SWS103		
	選択	保育者論	2	2	講義	CHS201		
	選択	社会的養護	1	2	講義	SOC101		
	選択	子ども家庭支援論	4	2	講義	CHS401		
	選択	教育基礎論	1	2	講義	EDU103		
	選択	子どもと健康	1	1	演習	CHS103		
	選択	子どもと人間関係	1	1	演習	CHS104		
選択	子どもと環境	2	1	演習	CHS202			
選択	子どもと言葉	1	1	演習	CHS105			
選択	子どもと表現Ⅰ	1	1	演習	CHS106			
選択	子どもと表現Ⅱ	1	1	演習	CHS107			
選択	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1	2	講義	SWS104			
選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	2	講義	SWS105			
選択	医学概論	1	2	講義	GIM101			
選択	社会福祉発達史	1	2	講義	SWS106			
選択	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	2	講義	SWS107			
選択	子どもの権利と教育	1~4	2	講義	CHS108			
選択	子育て支援実践	1~4	1	講義	CHS109			
選択	子どもと文学	1~4	2	講義	CHS110			

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法
専門科目 学科専門科目	選択	国際文化事情A	1～4	2	講義	FLE101	
	選択	国際文化事情B	1～4	2	講義	FLE102	
	選択	生活と総合学習	1～4	2	講義	SWS108	
	選択	多文化共生保育・教育実践	1～4	1	講義	CHS111	
	選択	国語表現法	1～4	2	講義	LIN101	
	選択	国際児童福祉	1～4	2	講義	SWS109	
	選択	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	演習	SWS201	※
	選択	子どもの保健	2	2	講義	CHS203	
	選択	子どもの健康と安全	3	1	演習	CHS303	
	選択	子どもの理解と援助	3	1	演習	CHS304	
	選択	子どもの食と栄養（実習含む）	1	2	演習	CHS112	
	選択	社会的養護内容	2	1	演習	SOC201	
	選択	乳児保育Ⅰ	2	2	講義	CHS204	
	選択	乳児保育Ⅱ	4	1	演習	CHS402	
	選択	保育実習ⅠA（施設）	2	2	実習	CHS205	
	選択	保育実習指導ⅠA（施設）	2	1	演習	CHS206	
	選択	教育心理学	2	1	講義	EDP201	
	選択	子ども家庭支援の心理学	3	2	講義	CHS305	
	選択	保育内容の指導法（言葉）	2	1	演習	CHS207	
	選択	保育内容の指導法（健康）	2	1	演習	CHS208	
	選択	保育内容の指導法（人間関係）	2	1	演習	CHS209	
	選択	保育内容の指導法（環境）	3	1	演習	CHS306	
	選択	保育内容の指導法（音楽表現）	3	1	演習	CHS307	
	選択	保育内容の指導法（造形表現）	2	1	演習	CHS210	
	選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	講義	SWS202	
	選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	2	2	講義	SWS203	
	選択	社会福祉調査の基礎	1	2	講義	SOC102	
	選択	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2	2	演習	SWS204	※
	選択	福祉レクリエーション	2	2	講義	SWS205	
	選択	保健医療と福祉	2	2	講義	SWS206	
	選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	1	演習	SWS207	社会福祉士コースのみ履修可
	選択	高齢者福祉	1	2	講義	SWS110	
	選択	障害者福祉	1	2	講義	SWS111	
	選択	権利擁護を支える法制度	2～3	2	講義	SWS208	
	選択	貧困に対する支援	2～3	2	講義	SWS209	
	選択	刑事司法と福祉	2～3	2	講義	SWS210	
	選択	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2～3	2	講義	SWS211	
	選択	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2～3	2	講義	SWS212	
	選択	福祉サービスの組織と経営	2～3	2	講義	SWS213	
	選択	社会保障Ⅰ	2～3	2	講義	SWS214	
選択	社会保障Ⅱ	2～3	2	講義	SWS215		
選択	特別支援教育・保育Ⅰ	1	1	演習	CHS113		
選択	特別支援教育・保育Ⅱ	2	1	演習	SOC202		
選択	保育実習ⅠB（保育所）	3	2	実習	CHS308		
選択	保育実習指導ⅠB（保育所）	3	1	演習	CHS309		
選択	保育・教育相談	3	2	講義	CHS310		

※演習科目のため履修者数に上限があります。担当教員に履修前に必ず相談すること。

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
専門科目	学科専門科目	選択	幼児教育方法(情報機器の活用を含む)	3	2	講義	ESS301	
		選択	保育指導法	3	2	講義	CHS311	
		選択	保育カリキュラム論	2	2	講義	CHS211	
		選択	保育内容総論	1	1	演習	CHS114	
		選択	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ(専門)	3	2	演習	SWS302	
		選択	ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	3	2	演習	SWS303	社会福祉士コースのみ履修可
		選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	1	演習	SWS304	社会福祉士コースのみ履修可
		選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	1	演習	SWS305	社会福祉士コースのみ履修可
		選択	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	2	実験・実習	SWS216	社会福祉士コースのみ履修可
		選択	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	実習	SWS306	社会福祉士コースのみ履修可
		選択	子育て支援	4	1	演習	CHS403	
		選択	保育実習指導Ⅱ(保育所)	4	1	演習	CHS404	
		選択	保育実習指導Ⅲ(施設)	4	1	演習	CHS405	
		選択	保育実習Ⅱ(保育所)	4	2	実習	CHS406	
		選択	保育実習Ⅲ(施設)	4	2	実習	CHS407	
		選択	教育実習Ⅲ(事前・事後指導を含む)	3	5	演習	ESS302	
		選択	保育・教職実践演習	4	2	演習	ESS401	
		選択	音楽表現専門演習	2~4	2	演習	ESS201	
		選択	発達心理学専門演習	2~4	2	演習	ESS202	
		選択	保育音楽表現技術	2~4	2	講義	CHS212	
		選択	音楽あそびの実践	2~4	2	講義	ESS203	
		選択	体育あそびの実践	2~4	2	講義	ESS204	
		選択	造形あそびの実践	2~4	2	講義	ESS205	
		選択	ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	4	2	演習	SWS401	社会福祉士コースのみ履修可
選択科目44単位以上								
専門科目66単位以上								

〈他学科・専攻開放科目〉

開講学科	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
他学科・専攻開放科目(学部共通科目も含む)	健康スポーツ学科	解剖学	1	2	講義	GEA101	
		人体組織学	1~4	2	講義	GEA102	
		公衆衛生学	1	2	講義	HPH101	
		エアロビクス基礎実習	1	1	実習	AHS101	
		健康教育学	2~4	2	講義	DMB201	
		健康科学概論	1	2	講義	DMB101	
		スポーツビジネス論	2~4	2	講義	SPS201	
		トレーニング概論	1~4	2	講義	DMB102	
		免疫と薬理	1~4	2	講義	EPM101	
		国際健康スポーツ交流A	1	2	実習	AHS102	
		エアロビクス実習	1~4	1	実習	AHS103	
		健康スポーツボランティア活動A	1~4	2	実習	SWS112	
		スポーツとコミュニケーション	2~4	2	講義	FLE201	
		スポーツ応急処置演習	2~4	2	演習	AHS201	
		運動生理学	2	2	講義	GPH201	
		スポーツ生理学	2~4	2	講義	GPH202	
		コーチング概論	2~4	2	講義	SPS202	
		レクリエーション実習	2	1	実習	AHS202	
		機能解剖学	2~4	2	講義	GEA201	
		スポーツ医学	2~4	2	講義	AHS203	
		トレーニング基礎実習	2~4	1	実習	SPS203	
		スポーツ社会学	1	2	講義	SPS101	
		スポーツ人類学	2~4	2	講義	SPS204	
		スポーツ史	2~4	2	講義	SPS205	
		レクリエーション論	1	2	講義	AHS104	
		小児保健(含学校保健)	2~4	2	講義	AHS204	
		高齢者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS206	
		障がい者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS207	
		発育・発達・加齢論	1	2	講義	DMB103	
		健康文化論	2~4	2	講義	SPS208	
		アスレティックトレーニング論	2~4	2	講義	SPS209	
		運動傷害と予防	2~4	2	講義	AHS205	
		リハビリテーション論	2~4	2	講義	RSW201	
		エアロビクス指導法	2~4	1	演習	AHS206	
		スポーツマネジメント	2~4	2	講義	SPS210	
		測定評価	2~4	2	講義	AHS207	
		アクアビクス指導法	2~4	1	演習	AHS208	
		運動疫学	2~4	2	講義	HPH201	
		ヘルスプロモーション論	1	2	講義	AHS105	
		トレーニングプログラミング論	2~4	2	講義	SPS211	
生涯スポーツ論	1	2	講義	AHS106			
スポーツ文化論	2~4	2	講義	SPS212			
子ども健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS213			
高齢者健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	SPS214			
スポーツと栄養	2~4	2	講義	SPS215			

開講学科	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
他学科・専攻開放科目 (学部共通科目に含む)	スポーツ心理学	2~4	2	講義	SPS216		
	健康政策と行政	2~4	2	講義	AHS209		
	地域スポーツクラブ論	2~4	2	講義	SPS217		
	スポーツ政策論	2~4	2	講義	SPS218		
	身体文化論	2~4	2	講義	DMB202		
	子ども健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	CHS213		
	障がい者論	2~4	2	講義	AHS210		
	労働衛生Ⅰ	3~4	2	講義	HPH301		
	労働衛生Ⅱ	3~4	2	講義	HPH302		
	労働安全衛生法Ⅰ	3~4	2	講義	SOL301		
	労働安全衛生法Ⅱ	3~4	2	講義	SOL302		
	労働基準法	3~4	2	講義	SOL303		
	スポーツトレーニング指導法	2~4	2	講義	SPS219		
	障がい者健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	SPS220		
	運動処方	3~4	2	講義	AHS301		
	運動負荷試験	3~4	2	講義	AHS302		
	バイオメカニクス実習	2	1	実習	SPS221		
	健康スポーツインターンシップA	2~4	2	講義	CIV201		
	生活習慣と健康	1	2	講義	AHS107		
	スポーツ経済論	2~4	2	講義	SPS222		
	スポーツメディア論	2~4	2	講義	SPS223		
	スポーツ情報分析論	2~4	2	講義	DMB203		
	バイオメカニクス	2~4	2	講義	SPS224		
	健康栄養論	2	2	講義	AHS211		
	日本文化と武道	1~4	2	講義	DMB104		
	老年学	2~4	2	講義	DMB204		
	子ども学	2~4	2	講義	CHS214		
	国際健康スポーツ交流B	1	2	実習	AHS108		
	外国語文献講読	1~4	2	講義	FLE103		
	人間環境デザイン学科	人間工学	2	2	講義	RSW202	
		道具の歴史	1	2	講義	CLD101	
		マーケティング	2	2	講義	CME201	
		産業とプロダクトデザイン	3	2	講義	DES301	
建築歴史意匠B		2	2	講義	AHD201		
情報メディアデザイン		3~4	2	講義	DES302		
安全工学		3~4	2	講義	TPA301		
医療福祉建築計画		3~4	2	講義	TPA302		
リハビリテーション工学		3~4	2	講義	RSW301		
福祉住環境コーディネート論		3~4	2	講義	CLD301		
こども環境論		2	2	講義	CLD201		
建築歴史意匠A		1	2	講義	AHD101		
ヒューマンインターフェース		2	2	講義	HII201		
プロダクトデザイン基礎		1	2	講義	DES101		
International Design Practices		1~4	2	講義	DES102		
支援技術とデザイン		3~4	2	講義	RSW302		
生活支援学専攻		Introduction to Social Work	3	2	講義	SWS307	

3. 基盤教育

(1) 哲学・思想

2単位以上を修得しなければなりません。

(2) 国際人の形成（語学）

1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

4. 専門科目・学部共通科目

選択科目

単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

ただし演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に人数調整をする場合があります。詳細は「履修登録のしおり」を確認してください。

5. 専門科目・学科専門科目

(1) 必修科目

①18単位すべてを修得しなければなりません。

②クラス分けのうえ事前登録される科目があります。履修登録確認表で指定されたクラスを確認してください。

(2) 選択必修科目

①「子どもソーシャルワーク」（2単位）もしくは「ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）」（2単位）のいずれかを修得しなければなりません。なお、「ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）」は社会福祉士コース学生のみ履修可能です。

②「子どもソーシャルワーク」、「ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）」は6セメスタ以降に履修できます。

③「卒業論文」（4単位）もしくは「卒業制作」（2単位）のいずれかを修得しなければなりません。

④「卒業論文」・「卒業制作」は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。

(3) 選択科目

①44単位以上を修得しなければなりません。

②科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。やむを得ず途中からの履修をしなければならない場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうかを確認してから履修登録してください。

③「ソーシャルワーク実習Ⅰ、Ⅱ」及び「保育実習ⅠA（施設）」「保育実習ⅠB（保育所）」「保育実習Ⅱ（保育所）」「保育実習Ⅲ（施設）」はそれぞれ履修するための条件があります。「諸資格について（P.105～）」を参照してください。

(4) セッション科目

以下の科目は、セッションの期間に実施される学外実習のため履修上限単位数（24単位）に加えて履修することができます。

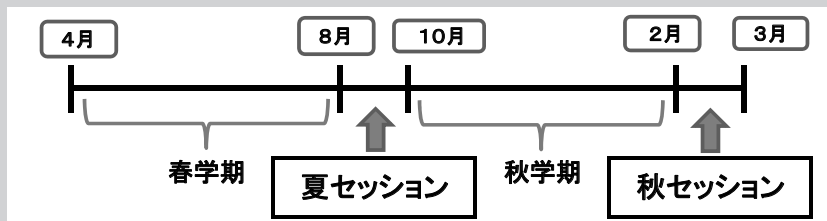
- ・「保育実習ⅠA（施設）」
- ・「保育実習ⅠB（保育所）」
- ・「保育実習Ⅱ（保育所）」
- ・「保育実習Ⅲ（施設）」

上記の科目は、履修登録期間に登録をする必要はありません。大学で一括して登録を行います。
また、以下の科目については、セッション科目ではないので、必ず自身で履修登録を行ってください。

- ・「保育実習指導ⅠA（施設）」
- ・「保育実習指導ⅠB（保育所）」
- ・「保育実習指導Ⅱ（保育所）」
- ・「保育実習指導Ⅲ（施設）」

セッション科目とは

セッションとは、学期（セメスタ）と学期の間に設定されている期間のことを言います（学期についてはP.13参照）。



セッション科目とは、セッションの期間の開講される科目のことです。

セッション科目は、学期の科目として位置づけられていないことから、履修上限単位数（1学期24単位：P.20参照）の制限外の科目になります。

(5) 学外実習スケジュール

P.73を確認してください。

6. 生活支援学科子ども支援学専攻 学外実習スケジュール

各資格には、法令に定められた学外実習が必要となります。資格別の学外実習スケジュールは以下のとおりです。

それぞれの実習には、必要な手続き、ガイダンス、参加条件等が定められていますので、履修要覧やガイダンス資料、掲示等をよく確認し、漏れのないようにしてください。なお、学外実習スケジュールは関連法令改正等の理由により変更となる場合があります。

		社会福祉士	保育士	幼稚園教諭
1年次	春学期	幼児教育・保育施設見学 (幼稚園・保育所・児童養護施設など)		
	秋学期			
2年次	春学期	ソーシャルワーク実習Ⅰ 8日間		
	秋学期		保育実習ⅠA (施設) 2・3月 (12日間)	
3年次	春学期	ソーシャルワーク実習Ⅱ 6～11月のうち (計24日間)	保育実習ⅠB (保育所) 8・9月 (12日間)	
	秋学期			教育実習Ⅲ 10～3月 (4週間)
4年次	春学期		保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(施設) 8・9月 (12日間) ※保育実習Ⅱ(保育所)及 び保育実習Ⅲ(施設)は どちらかを選択	
	秋学期			

生活支援学科子ども支援学専攻のカリキュラム

生活支援学科子ども支援学専攻のカリキュラムマップ

- DP1：知識・理解 保育学、幼児教育学、子ども家庭福祉学に関する基礎的知識を体系的に習得していること。
 DP2：問題解決能力・協同性 保育・幼児教育・子ども家庭福祉の課題に対する科学的探究心を持ち、他者と協同しながら主体的に問題を解決する能力を身につけていること。
 DP3：子どもの人権、主体性 子どもの人権や主体性を尊重し、多様な育ちや幸福を支えていくための倫理観を基盤とした保育・教育を行う姿勢と技能を身につけていること。
 DP4：多文化共生理解 多様な価値観や文化への関わりを通して、ローカル及びグローバルな視点から保育・幼児教育・子ども家庭福祉における多文化共生の意義や方法を理解していること。
 DP5：ICT活用能力 保育・幼児教育・子ども家庭福祉の質の向上に向け、ICTを活用して情報を共有、管理、分析する能力を身につけていること。
 DP6：幅広い教養 多角的な視野から幅広い教養を身につけ、さまざまな知見を活用・統合する能力を身につけていること。

学年/DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
4年	卒業論文・卒業制作						
		子ども支援学演習MA				子ども支援学演習MA	
		子ども支援学演習MB				子ども支援学演習MB	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		保育実習指導Ⅱ（保育所）				
	保育実習指導Ⅲ（施設）		保育実習指導Ⅲ（施設）				
	乳児保育Ⅱ	子育て支援			子育て支援		
		子ども家庭支援論					
		保育実習Ⅱ（保育所）					
		保育実習Ⅲ（施設）					
		保育・教職実践演習					
	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）						
	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）						
3年		子ども支援学演習ⅡA				子ども支援学演習ⅡA	
		子ども支援学演習ⅡB				子ども支援学演習ⅡB	
	多文化共生保育・教育						
		教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）					
		保育実習指導ⅠB（保育所）			保育実習ⅠB（保育所）		
	子どもソーシャルワーク	保育内容の指導法（環境）	子どもソーシャルワーク			子どもソーシャルワーク	
	子どもの健康と安全	保育内容の指導法（音楽表現）				子どもの健康と安全	
	子どもの理解と援助	保育・教育相談				子どもの理解と援助	
	子ども家庭支援の心理学	保育指導法	子ども家庭支援の心理学				
		幼児教育方法（情報機器の活用を含む）			幼児教育方法（情報機器の活用を含む）		
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）						
	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ						
	ソーシャルワーク実習Ⅱ						
2年	子ども支援学演習ⅡA			子ども支援学演習ⅡA			
	子ども支援学演習ⅡB			子ども支援学演習ⅡB			
	保育者論		保育者論				
	子どもと環境	社会的養護内容	特別支援教育・保育Ⅱ				
	子どもの保健	保育実習ⅠA（施設）				子どもの保健	
	乳児保育Ⅰ	保育実習指導ⅠA（施設）					
	教育心理学		教育心理学				
		保育内容の指導法（言葉）					
		保育内容の指導法（健康）		保育内容の指導法（健康）			
		保育内容の指導法（人間関係）					
	保育内容の指導法（造形表現）						
	発達心理学専門演習						
	音楽表現専門演習		音楽表現専門演習				
	保育音楽表現技術						
	音楽あそびの実践						
	体育あそびの実践						
	造形あそびの実践						
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ						
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）						
	福祉レクリエーション	権利擁護を支える法制度	貧困に対する支援				
	ソーシャルワーク演習Ⅰ		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ				
	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ						
	ソーシャルワーク実習Ⅰ						
1年	子ども支援学概論			子ども支援学概論			
	子ども支援学演習Ⅰ			国際文化事情A	情報リテラシーⅠ		
	社会的養護		国際児童福祉	国際文化事情B	情報リテラシーⅡ	国際児童福祉	
	保育原理		保育原理	高齢者福祉	情報リテラシーⅡ		
	児童・家庭福祉	生活と総合学習	社会福祉の原理と政策Ⅰ	障害者福祉	社会福祉調査の基礎		
	保育内容総論		特別支援教育・保育Ⅰ	保育内容総論			
	教育基礎論		教育基礎論			教育基礎論	
	教育制度論		教育制度論			教育制度論	
	発達心理学		発達心理学				
	医学概論					医学概論	
幼児教育論		国語表現法			国語表現法		
子どもと健康	子育て支援実践		子育て支援実践				
子どもと人間関係		多文化共生保育・教育実践					
子どもと言葉							
子どもと表現Ⅰ							
子どもと表現Ⅱ							
子どもの権利と教育		子どもの権利と教育			子どもの権利と教育		
子どもと文学					子どもと文学		
子どもの食と栄養（実習含む）					子どもの食と栄養（実習含む）		
社会福祉発達史					社会福祉発達史		
社会福祉の原理と政策Ⅱ		社会福祉の原理と政策Ⅱ					
ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ							
ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ							
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ					ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ		

健康スポーツ学科

◆健康スポーツ学科の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

少子・高齢社会、福祉社会に生きる現代人の「生活の質（Quality of Life）」の向上を目指し、身体活動やスポーツの機能的、社会・文化的側面に関する教育研究を行う。健康、身体、福祉に関する幅広い知識や技術の修得を通して、子どもから高齢者、障がい者の健康の維持・増進の支援に寄与できる人材を育成する。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

理論と実践を有機的に連携させた健康やスポーツに関わる知見を総合的かつ系統的に教授することにより、健康に関わる幅広い理論的根拠や実践的能力を身に付け、子どもから高齢者、障がい者の身体活動能力の確保や健康の維持増進を実現する能力、各種施設や地域社会において健康づくりをマネジメント、プロモートする管理能力などを修得させる。

3. その他の教育研究上の目的

ライフデザイン学部他学科の教育を横断的に組み合わせることにより、既存のスポーツ指導者に「福祉」、「保育」、「まちづくり」などの概念を加えた新しい健康スポーツ人材の育成を目指す。

◆健康スポーツ学科3つのポリシー◆

1. ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）

健康スポーツ学科の教育課程に定められた科目を履修し、本学学則に定める卒業要件を満たした以下の能力を備えた学生に対して、卒業を認定し、学位を授与します。

- (1) 健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識のうえに思考判断できる。
- (2) 健康づくりの専門家として指導力、実践力を有し社会貢献できる。
- (3) 全てのライフステージや生活状況にある人々を理解して健康づくりを支援する意欲がある。
- (4) 文化・社会と自然に関する学術的・実践的な基本知識を身につけ、世界の多様性を尊重し、異文化・多文化を理解する態度を身につけている。
- (5) 社会のグローバル化に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、論理的思考力からなる汎用的技能を身につけている。
- (6) 身体活動、スポーツに携わる（「する」、「みる」、「ささえる」）専門家として、健康科学、スポーツ科学、身体教育学に関連する基本知識を体系的に身につけている。
- (7) 身体活動、スポーツに関する基本知識のうえにすべてのライフステージや生活状況にある人々の健康課題やスポーツに携わるための専門知識を身につけている。
- (8) 上記の基本知識、専門知識をもとに主体的に課題を把握し、課題の解決策を見つけ、他者と協働してそれを実行し、解決することができる。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

健康スポーツ学科では身体活動やスポーツを通じて人々の健康づくりに貢献できる人材を育成するために、以下のカリキュラムポリシーに従い教育内容を構成しています。

- (1) 身体活動やスポーツを通じた健康づくりを企画し実践できる専門家として必要な科目を必修として設定する。
- (2) 指導力、実践力を養成するために講義と演習または実習を組み合わせ設定する。
- (3) 社会貢献の基盤づくりのため、ボランティア、フィールドワーク、インターンシップなどア

- クティブラーニング科目を設定する。
- (4) 全てのライフステージや生活状況にある人々の健康づくりを実践できるよう専門性に応じた5つのコース制（ヘルスプロモーション・スポーツサイエンス・グローバルスポーツ・ユニバーサルスポーツ・アスリートサポート）を取り入れ、対象者別の幅の広い専門科目を設定する。
 - (5) グローバルに活躍する発想を持つ人材を育成するため、海外の健康やスポーツを実践的に学ぶ科目を設定する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

健康スポーツ学科では乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層かつ健常者から障がい者まで様々な人々を対象とした健康づくりに貢献できる人材を育成するために、以下のようなことを考え、実行できる学生を受け入れます。

- (1) 身体活動やスポーツを通じた健康づくりを熟知し、世の中に広めていく意欲をもっている。
- (2) 人に対する愛情と関心を持ち、コミュニケーション能力をそなえている。
- (3) 全てのライフステージや生活状況にある人々に対する関心や理解をもっている。
- (4) 健康スポーツ学を学ぶための十分な基礎的学力を有する。

1. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

(1) 基盤教育科目	22単位以上
○哲学・思想	2単位以上
○学問の基礎	
(人文科学)	
(社会科学)	
(自然科学)	
○国際人の形成	8単位以上
(世界の伝統と文化)	
(グローバル社会の実際)	
(語学)	(8単位以上)
○健康・スポーツ科学	選択必修2単位以上
○総合・学際	
(2) 専門科目	77単位以上
○学部共通科目	
○学科専門科目	77単位以上
(必修科目)	(32単位)
(選択必修A)	(2単位)
(選択必修B)	(1単位)
(選択科目)	(30単位以上)
総計 ((1) と (2) の合計)	124単位以上

- (1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- (2) 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成（語学）の外国語科目必修8単位、健康・スポーツ科学実技科目から選択必修2単位以上を含み、22単位以上を修得すること。
また、外国人留学生入学試験入学者は、上記の他に、国際人の形成（語学）の留学生対象科目必修6単位を修得すること。
- (3) 専門科目で、学科専門科目を77単位以上（うち必修科目32単位、選択必修科目Aのうちから2単位、選択必修科目Bのうちから1単位、選択科目30単位以上）修得すること。

2. 健康スポーツ学科 教育課程表 (2021年度入学生用)

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	哲学	1~4	2	講義	PHT1001	
		選択	人間と宗教	1~4	2	講義	PHT1002	
		選択	生命と倫理	1~4	2	講義	PHT1003	
		選択	ジェンダー論	1~4	2	講義	PHT1004	
		選択	人権と生活	1~4	2	講義	PHT1005	
	2単位以上							
	学問の基礎 (人文科学)	選択	美術一般	1~4	2	講義	FAS1001	
		選択	音楽一般	1~4	2	講義	FAS1002	
		選択	文学	1~4	2	講義	FAS1003	
		選択	文章読解	1~4	2	講義	FAS1004	
		選択	口頭表現法	1~4	2	講義	FAS1005	
		選択	レポート・論文のまとめ方	1~4	2	講義	FAS1006	
		選択	プレゼンテーション技法	1~4	2	講義	FAS1007	
		選択	文化論	1~4	2	講義	FAS1008	
		選択	文化人類学	1~4	2	講義	FAS1009	
		選択	身体論	1~4	2	講義	FAS1010	
	-							
	学問の基礎 (社会科学)	選択	社会学	1~4	2	講義	FAS1011	
		選択	心理学	1~4	2	講義	FAS1012	
		選択	法学	1~4	2	講義	FAS1013	
		選択	経済学	1~4	2	講義	FAS1014	
		選択	経営学	1~4	2	講義	FAS1015	
選択		家族の社会学	1~4	2	講義	FAS1016		
選択		統計学	1~4	2	講義	FAS1017		
選択		企業のしくみ	1~4	2	講義	FAS1018		
-								
学問の基礎 (自然科学)	選択	生活と栄養	1~4	2	講義	FAS1019		
	選択	物理	1~4	2	講義	FAS1020		
	選択	数学	1~4	2	講義	FAS1021		
	選択	危機管理と救急法	1~4	2	講義	FAS1022		
-								
世界の伝統と文化 国際人の形成	選択	グローバリゼーションと文化A	1~4	2	講義	IHR1001		
	選択	グローバリゼーションと文化B	1~4	2	講義	IHR1002		
	選択	グローバリゼーションと文化C	1~4	2	講義	IHR1003		
	選択	グローバリゼーションと文化D	1~4	2	講義	IHR1004		
	選択	グローバリゼーションと文化E	1~4	2	講義	IHR1005		
-								
グローバル社会の実際 国際人の形成	選択	異文化理解概論	1~4	2	講義	IHR1006		
	選択	留学のすすめ	1~4	2	講義	IHR1007		
	選択	海外研修 I	1~4	2	講義	IHR1008		
	選択	海外研修 II	1~4	2	講義	IHR1009		
	選択	海外実習 I	1~4	2	実験・実習	IHR1010		
	選択	海外実習 II	1~4	2	実験・実習	IHR1011		
	選択	短期海外研修 I	1~4	1	講義	IHR1012		
	選択	短期海外研修 II	1~4	1	講義	IHR1013		

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法
国際人の形成 (グローバル社会の実践)	選択	短期海外研修Ⅲ	1~4	1	講義	IHR1014	
	選択	短期海外研修Ⅳ	1~4	1	講義	IHR1015	
	選択	短期海外実習Ⅰ	1~4	1	実験・実習	IHR1016	
	選択	短期海外実習Ⅱ	1~4	1	実験・実習	IHR1017	
	選択	短期海外実習Ⅲ	1~4	1	実験・実習	IHR1018	
	選択	短期海外実習Ⅳ	1~4	1	実験・実習	IHR1019	
-							
国際人の形成(語学) 基盤教育科目	必修	基礎英語演習Ⅰ	1	1	演習	ENG1001	
	必修	基礎英語演習Ⅱ	1	1	演習	ENG1002	
	必修	英語コミュニケーションⅠA	1	1	演習	ENG1003	
	必修	英語コミュニケーションⅠB	1	1	演習	ENG1004	
	必修	応用英語演習Ⅰ	2	1	演習	ENG2005	
	必修	応用英語演習Ⅱ	2	1	演習	ENG2006	
	必修	英語コミュニケーションⅡA	2	1	演習	ENG2007	
	必修	英語コミュニケーションⅡB	2	1	演習	ENG2008	
	選択	グローバルコミュニケーションⅠ	1~4	1	演習	ENG1009	
	選択	グローバルコミュニケーションⅡ	1~4	1	演習	ENG1010	
	選択	Practical EnglishⅠ	1~4	1	演習	ENG1011	
	選択	Practical EnglishⅡ	1~4	1	演習	ENG1012	
	選択	English e-LearningⅠ	1~4	1	演習	ENG1013	
	選択	English e-LearningⅡ	1~4	1	演習	ENG1014	
	選択	ドイツ語Ⅰ	1~4	1	演習	GER1001	
	選択	ドイツ語Ⅱ	1~4	1	演習	GER1002	
	選択	フランス語Ⅰ	1~4	1	演習	FRA1001	
	選択	フランス語Ⅱ	1~4	1	演習	FRA1002	
	選択	中国語Ⅰ	1~4	1	演習	CHI1001	
	選択	中国語Ⅱ	1~4	1	演習	CHI1002	
	選択	韓国語Ⅰ	1~4	1	演習	KOR1001	
	選択	韓国語Ⅱ	1~4	1	演習	KOR1002	
	必修	日本語Ⅰ	1~4	1	演習	JLN1001	外国人留学生のみ履修可
	必修	日本語Ⅱ	1~4	1	演習	JLN1002	
	必修	日本事情Ⅰ	1~4	2	講義	JLN1003	
	必修	日本事情Ⅱ	1~4	2	講義	JLN1004	
	選択	テクニカルライティング	1~4	2	講義	ENG1015	
	選択	アカデミックライティング	1~4	2	講義	ENG1016	
	選択	IELTS for Study AbroadⅠ Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1017	
	選択	IELTS for Study AbroadⅡ Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1018	
	選択	IELTS for Study AbroadⅠ Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1019	
	選択	IELTS for Study AbroadⅡ Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1020	
選択	Pre-Study Abroad Listening/Speaking	1~4	1	演習	ENG1021		
選択	Pre-Study Abroad Writing	1~4	1	演習	ENG1022		
選択	Business English Communication	1~4	2	講義	ENG1023		
外国語科目必修8単位以上							
キャリア・市民形成	選択	生活と環境	1~4	2	講義	ECD1001	
	選択	日本国憲法	1~4	2	講義	ECD1002	
	選択	基礎会計学	1~4	2	講義	ECD1003	
	選択	学校と地域(学校安全を含む)	1~4	2	講義	ECD1004	
	選択	生活と住居	1~4	2	講義	ECD1005	

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
キャリア・市民形成	選択	地域研究法	1~4	2	講義	ECD1006		
	選択	コミュニケーション&マナー	1~4	2	講義	ECD1007		
	選択	公務員論	1~4	2	講義	ECD1008		
	選択	キャリアデベロップメント	1~4	2	講義	ECD1009		
	選択	社会貢献活動入門	1~4	2	講義	ECD1010		
	選択	インターンシップ入門	1~4	2	講義	ECD1011		
-								
健康・スポーツ科学	選択必修	スポーツ健康科学実技ⅠA	1~4	1	実技	DMB1001	2単位選択必修	
	選択必修	スポーツ健康科学実技ⅠB	1~4	1	実技	DMB1002		
	選択必修	スポーツ健康科学実技ⅡA	1~4	1	実技	DMB1003		
	選択必修	スポーツ健康科学実技ⅡB	1~4	1	実技	DMB1004		
	選択必修	スポーツ健康科学実技ⅢA	1~4	1	実技	DMB1005		
	選択必修	スポーツ健康科学実技ⅢB	1~4	1	実技	DMB1006		
	選択	スポーツ健康科学講義A	1~4	2	講義	DMB1007		
	選択	スポーツ健康科学講義B	1~4	2	講義	DMB1008		
実技から2単位選択必修								
基盤教育科目	総合・学際	選択	全学総合A	1~4	2	講義	ITS1001	
		選択	全学総合B	1~4	2	講義	ITS1002	
		選択	総合A	1~4	2	講義	ITS1003	
		選択	総合B	1~4	2	講義	ITS1004	
		選択	総合C	1~4	2	講義	ITS1005	
		選択	総合D	1~4	2	講義	ITS1006	
		選択	総合E	1~4	2	講義	ITS1007	
		選択	総合F	1~4	2	講義	ITS1008	
		選択	全学総合F	1~4	2	講義	ITS1009	
		選択	全学総合G	1~4	2	講義	ITS1010	
		選択	全学総合H	1~4	2	講義	ITS1011	
		選択	全学総合C	1~4	2	講義	ITS1012	
		選択	全学総合L	1~4	2	講義	ITS1013	
		選択	全学総合M	1~4	2	講義	ITS1014	
		選択	全学総合I	1~4	2	講義	ITS1015	
		選択	全学総合J	1~4	2	講義	ITS1016	
		選択	全学総合K	1~4	2	講義	ITS1017	
		選択	全学総合D	1~4	2	講義	ITS1018	
		選択	全学総合E	1~4	2	講義	ITS1019	
-								
基盤教育科目22単位以上								

健康スポーツ学科 専門科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
学部共通科目	選択	ライフデザイン学Ⅰ	1	2	講義	TYS101		
	選択	ライフデザイン学Ⅱ	1	2	講義	TYS102		
※他学科・専攻開放科目を含む								
専門科目	必修	情報リテラシーⅠ	1	2	演習	ISE101		
	必修	情報リテラシーⅡ	1	2	演習	ISE102		
	必修	健康スポーツ学基礎演習Ⅰ	1	2	演習	SEM101		
	必修	健康科学概論	1	2	講義	DMB101		
	必修	解剖学	1	2	講義	GEA101		
	必修	生理学	1	2	講義	GPH101		
	必修	公衆衛生学	1	2	講義	HPH101		
	必修	エアロビクス基礎実習	1	1	実習	AHS101		
	必修	健康スポーツ学基礎演習Ⅱ	2	2	演習	SEM201		
	必修	運動生理学	2	2	講義	GPH201		
	必修	健康栄養論	2	2	講義	AHS201		
	必修	レクリエーション実習	2	1	実習	AHS202		
	必修	健康スポーツ学演習ⅠA	3	2	演習	SEM301		
	必修	健康スポーツ学演習ⅠB	3	2	演習	SEM302		
	必修	生涯スポーツ論	1	2	講義	AHS102		
	必修	健康スポーツ学演習ⅡA	4	2	演習	SEM401		
	必修	健康スポーツ学演習ⅡB	4	2	演習	SEM402		
	必修科目32単位							
	選択必修A	解剖学実習	2	1	実習	GEA201	} 2単位選択必修	
	選択必修A	生理・生化学実習	2	1	実習	GPH202		
	選択必修A	運動生理学実習	2	1	実習	GPH203		
	選択必修A	公衆衛生学実習	2	1	実習	HPH201		
	選択必修A	フィールドワーク実習	2	1	実習	DMB201		
	選択必修A	バイオメカニクス実習	2	1	実習	SPS201		
	選択必修A 2単位							
	選択必修B	フィットネス実習	1~4	1	実習	DMB102	} 1単位選択必修	
	選択必修B	レクリエーションスポーツ実習	1~4	1	実習	AHS103		
	選択必修B	エスニックスポーツ実習	1~4	1	実習	AHS104		
	選択必修B	ウインタースポーツ実習	1~4	1	実習	AHS105		
	選択必修B	アウトドアスポーツ実習	1~4	1	実習	DMB103		
	選択必修B	アダプテッドスポーツ実習	1~4	1	実習	AHS106		
	選択必修B 1単位							
選択	人体組織学	1~4	2	講義	GEA102			
選択	生化学	1	2	講義	GPH102			
選択	スポーツ生理学	2~4	2	講義	GPH204			
選択	コーチング概論	2~4	2	講義	SPS202			
選択	健康心理学	2~4	2	講義	DMB202			
選択	健康教育学	2~4	2	講義	DMB203			
選択	健康社会学	2~4	2	講義	DMB204			
選択	機能解剖学	2~4	2	講義	GEA202			
選択	スポーツ医学	2~4	2	講義	AHS203			
選択	トレーニング基礎実習	2~4	1	実習	SPS203			

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
専門科目	学科専門科目	選択	スポーツと栄養	2~4	2	講義	SPS204	
		選択	運動処方	3~4	2	講義	AHS301	
		選択	運動負荷試験	3~4	2	講義	AHS302	
		選択	スポーツ心理学	2~4	2	講義	SPS205	
		選択	スポーツトレーニング指導法	2~4	2	講義	SPS206	
		選択	スポーツ社会学	1	2	講義	SPS101	
		選択	スポーツ人類学	2~4	2	講義	SPS207	
		選択	スポーツ史	2~4	2	講義	SPS208	
		選択	健康文化論	2~4	2	講義	SPS209	
		選択	健康政策と行政	2~4	2	講義	AHS204	
		選択	地域スポーツクラブ論	2~4	2	講義	SPS210	
		選択	スポーツ政策論	2~4	2	講義	SPS211	
		選択	身体文化論	2~4	2	講義	DMB205	
		選択	スポーツ文化論	2~4	2	講義	SPS212	
		選択	発育・発達・加齢論	1	2	講義	DMB104	
		選択	レクリエーション論	1	2	講義	AHS107	
		選択	小児保健(含学校保健)	2~4	2	講義	AHS205	
		選択	子ども健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	CHS201	
		選択	子ども健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS213	
		選択	高齢者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS214	
		選択	障がい者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS215	
		選択	障がい者論	2~4	2	講義	AHS206	
		選択	高齢者健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	SPS216	
		選択	障がい者健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	SPS217	
		選択	スポーツビジネス論	2~4	2	講義	SPS218	
		選択	医学概論	1~4	2	講義	GIM101	
		選択	スポーツ応急処置演習	2~4	2	演習	AHS207	
		選択	免疫と薬理	1~4	2	講義	EPM101	
		選択	国際健康スポーツ交流A	1	2	実習	AHS108	
		選択	国際健康スポーツ交流B	1	2	実習	AHS109	
		選択	国際文化事情A	1	2	講義	FLE101	
		選択	国際文化事情B	1	2	講義	FLE102	
		選択	エアロビクス実習	1~4	1	実習	AHS110	
		選択	トレーニング概論	1~4	2	講義	DMB105	
		選択	健康スポーツボランティア活動A	1~4	2	実習	SWS101	
		選択	健康スポーツボランティア活動B	1~4	2	実習	SWS102	
		選択	スポーツとコミュニケーション	2~4	2	講義	FLE201	
		選択	リハビリテーション論	2~4	2	講義	RSW201	
		選択	測定評価	2~4	2	講義	AHS208	
		選択	エアロビクス指導法	2~4	1	演習	AHS209	
		選択	アクアビクス指導法	2~4	1	演習	AHS210	
		選択	ヘルスプロモーション論	1	2	講義	AHS111	
		選択	生活習慣と健康	1	2	講義	AHS112	
選択	運動傷害と予防	2~4	2	講義	AHS211			
選択	トレーニングプログラミング論	2~4	2	講義	SPS219			
選択	スポーツマネジメント	2~4	2	講義	SPS220			
選択	運動疫学	2~4	2	講義	HPH202			

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
専門科目	学科専門科目	選択	アスレティックトレーニング論	2~4	2	講義	SPS221	
		選択	労働衛生Ⅰ	3~4	2	講義	HPH301	
		選択	労働衛生Ⅱ	3~4	2	講義	HPH302	
		選択	労働基準法	3~4	2	講義	SOL301	
		選択	労働安全衛生法Ⅰ	3~4	2	講義	SOL302	
		選択	労働安全衛生法Ⅱ	3~4	2	講義	SOL303	
		選択	健康スポーツインターンシップA	2~4	2	講義	CIV201	
		選択	健康スポーツインターンシップB	2~4	2	講義	CIV202	
		選択	スポーツ情報分析論	2~4	2	講義	DMB206	
		選択	バイオメカニクス	2~4	2	講義	SPS222	
		選択	スポーツ経済論	2~4	2	講義	SPS223	
		選択	スポーツメディア論	2~4	2	講義	SPS224	
		選択	老年学	2~4	2	講義	DMB207	
		選択	子ども学	2~4	2	講義	CHS202	
		選択	外国語文献講読	1~4	2	講義	FLE103	
		選択	日本文化と武道	1~4	2	講義	DMB106	
		選択	健康産業施設等現場実習	4	1	実習	SPS401	
		選択	卒業論文	4	4	演習	THE401	
		選択	運動学（運動方法学を含む）	1	2	講義	DMB107	
		選択	精神保健Ⅰ	1	2	講義	SWS103	
		選択	精神保健Ⅱ	1	2	講義	SWS104	
選択科目30単位以上								
専門科目77単位以上								
教職科目		選択	スポーツ実習・指導法（水泳）	2	1	演習	ESS201	卒業要件 外科目
		選択	スポーツ実習・指導法（ダンス）	2	1	演習	ESS202	
		選択	スポーツ実習・指導法（柔道）	2	1	演習	ESS203	
		選択	スポーツ実習・指導法（剣道）	2	1	演習	ESS204	
		選択	スポーツ実習・指導法（サッカー）	2	1	演習	ESS205	
		選択	スポーツ実習・指導法（バレーボール）	2	1	演習	ESS206	
		選択	スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	2	1	演習	ESS207	
		選択	スポーツ実習・指導法（テニス）	2	1	演習	ESS208	
		選択	スポーツ実習・指導法（バドミントン）	2	1	演習	ESS209	
		選択	スポーツ実習・指導法（陸上）	3	1	演習	ESS301	
		選択	スポーツ実習・指導法（器械運動）	3	1	演習	ESS302	
		選択	養護概説	1	2	講義	EDU101	
		選択	看護学Ⅰ	1	2	講義	FUN101	
		選択	看護学Ⅱ	2	2	講義	FUN201	
		選択	看護学Ⅲ	2	2	講義	FUN202	
		選択	看護学実習	3	2	実習	FUN301	

〈他学科・専攻開放科目〉

開講学科	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
他学科・専攻開放科目（学部共通科目を含む）	生活支援学科	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	2	講義	SWS105	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	2	講義	SWS106	
		児童・家庭福祉	1	2	講義	SWS107	
		社会福祉調査の基礎	1	2	講義	SOC101	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	講義	SWS201	
		高齢者福祉	1	2	講義	SWS108	
		社会保障Ⅰ	2～3	2	講義	SWS202	
		社会保障Ⅱ	2～3	2	講義	SWS203	
		障害者福祉	1	2	講義	SWS109	
		国際児童福祉	1～4	2	講義	SWS110	
		Introduction to Social Work	3～4	2	講義	SWS301	
	人間環境デザイン学科	人間工学	2	2	講義	RSW202	
		道具の歴史	1	2	講義	CLD101	
		マーケティング	2	2	講義	CME201	
		産業とプロダクトデザイン	3	2	講義	DES301	
		建築歴史意匠B	2	2	講義	AHD201	
		情報メディアデザイン	3～4	2	講義	DES302	
		安全工学	3～4	2	講義	TPA301	
		医療福祉建築計画	3～4	2	講義	TPA302	
		リハビリテーション工学	3～4	2	講義	RSW301	
		福祉住環境コーディネート論	3～4	2	講義	CLD301	
		こども環境論	2	2	講義	CLD201	
		建築歴史意匠A	1	2	講義	AHD101	
		ヒューマンインターフェース	2	2	講義	HII201	
		プロダクトデザイン基礎	1	2	講義	DES101	
		International Design Practices	1～4	2	講義	DES102	
		支援技術とデザイン	3～4	2	講義	RSW302	

3. 基盤教育

(1) 哲学・思想

2単位以上を修得しなければなりません。

(2) 国際人の形成（語学）

1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(3) 健康・スポーツ科学

①「スポーツ健康科学実技Ⅰ～Ⅲ」の中から、2単位以上を修得しなければなりません。

②授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。

またスポーツ健康科学実技は、できる限り、A・B各1単位以上を履修してください。

科目の後ろに記載されているⅠ・Ⅱ・Ⅲ及びA・Bの順を追って履修する必要はありません。

4. 専門科目・学部共通科目

選択科目

単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

5. 専門科目・学科専門科目

(1) 必修科目

- ①32単位すべてを修得しなければなりません。
- ②クラス分けのうえ事前登録される科目があります。履修登録確認表で指定されたクラスを確認してください。
- ③「エアロビクス基礎実習」「レクリエーション実習」「健康スポーツ学演習」のクラス分けについては、別途ガイダンスにて周知します。

(2) 選択必修科目

①選択必修科目A

2年次に「解剖学実習」「生理・生化学実習」「運動生理学実習」「公衆衛生学実習」「フィールドワーク実習」「バイオメカニクス実習」の6科目のうち、2科目を選択し、履修・修得しなければなりません。科目の選択方法は、別途ガイダンスにて周知します。

②選択必修科目B

1～3年次に「フィットネス実習」「レクリエーションスポーツ実習」「エスニックスポーツ実習」「ウインタースポーツ実習」「アウトドアスポーツ実習」「アダプテッドスポーツ実習」の6科目のうち、1科目を選択し、履修・修得しなければなりません。なお履修科目により、別途費用が発生します。

(3) 選択科目

- ①30単位以上を修得しなければなりません。
- ②「健康産業施設等現場実習」については、健康運動指導士の資格の取得を希望する学生を対象としていますので、それ以外の学生は履修を制限する場合があります。
- ③「卒業論文」は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。

※演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。詳細は「履修登録のしおり」を確認してください。

※科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。やむを得ず途中からの履修をしなければならない場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうかを確認してから履修登録してください。なお、科目の後ろにA・Bと記載されている科目についてはこの限りではありません。

6. その他の科目

教育職員免許状取得のための科目について

以下の科目は、教職の専門科目となります。単位を修得しても卒業要件単位とすることはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

- ①健康スポーツ学科教育課程表の「教職科目」区分にある科目
- ②教育職員免許状取得のための「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」(P.162～171参照)で、健康スポーツ学科の教育課程表にない科目

◆健康スポーツ学科のカリキュラムマップ◆

- DP1：健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識のうえに思考判断できる。
 DP2：健康づくりの専門家として指導力、実践力を有し社会貢献できる。
 DP3：全てのライフステージや生活状況にある人々を理解して健康づくりを支援する意欲がある。
 DP4：文化・社会と自然に関する学術的・実践的な基本知識を身につけ、世界の多様性を尊重し、異文化・多文化を理解する態度を身につけている。
 DP5：社会のグローバル化に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、論理的思考力からなる汎用的技能を身に付けている。
 DP6：身体活動、スポーツに携わる（「する」、「みる」、「ささえる」）専門家として、健康科学、スポーツ科学、身体教育学に関連する基本知識を体系的に身につけている。
 DP7：身体活動、スポーツに関する基本知識のうえにすべてのライフステージや生活状況にある人々の健康課題やスポーツに携わるための専門知識を身につけている。
 DP8：上記の基本知識、専門知識をもとに主体的に課題を把握し、課題の解決策を見つけ、他者と協働してそれを実行し、解決することができる。

学年/DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
4年		健康産業施設等現場実習 労働衛生Ⅱ 労働安全衛生法Ⅱ				健康スポーツ学演習ⅡA 健康スポーツ学演習ⅡB 卒業論文		
	3年	労働基準法 労働衛生Ⅰ 労働安全衛生法Ⅰ			観スポーツインテグレーション	運動処方 スポーツ応急処置演習 測定評価	健康スポーツ学演習ⅠA 健康スポーツ学演習ⅠB	観スポーツインテグレーション
2年	コーチング概論 健康心理学 健康教育学 スポーツと栄養 スポーツ心理学 スポーツ史 小児保健(含学校保健) リハビリテーション論	バイオメカニクス実習 トレーニング基礎実習 スポーツトレーニング指導法 地域スポーツクラブ論 スポーツ政策論 子ども健康スポーツ指導法 子ども健康スポーツ論 高齢者健康スポーツ論 障がい者健康スポーツ論 エアロビクス指導法 アクアビクス指導法	レクリエーション実習 健康社会学 フィールドワーク実習 高齢者健康スポーツ指導法 障がい者健康スポーツ指導法 バイオメカニクス 老年学 子ども学 障がい者論	スポーツ人類学 健康文化論 身体文化論 スポーツ文化論	スポーツビジネス論 スポーツとコミュニケーション スポーツマネジメント スポーツ経済論 スポーツメディア論	解剖学実習 生理・生化学実習 機能解剖学 運動傷害と予防 トレーニングプログラム論 アスレティックトレーニング論 スポーツ情報分析論	運動生理学 健康栄養論 スポーツ生理学 運動生理学実習 公衆衛生学実習 スポーツ医学 健康政策と行政 運動疫学	健康スポーツ学基礎演習Ⅰ
	1年	エアロビクス基礎実習 生涯スポーツ論 フィットネス実習 スポーツ社会学 トレーニング概論 運動学(運動方法学を含む) 精神保健Ⅰ 精神保健Ⅱ	レクリエーション論 健康スポーツボランティア活動A 健康スポーツボランティア活動B	ライフデザイン学Ⅰ ライフデザイン学Ⅱ レクリエーションスポーツ実習 アダプテッドスポーツ実習 発育・発達・加齢論	エスニックスポーツ実習 ウインタースポーツ実習 アウトドアスポーツ実習 国際健康スポーツ交流A 国際健康スポーツ交流B 外国語文献講読 日本文化と武道	情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ 国際文化事情A 国際文化事情B	健康科学概論 解剖学 国際文化事情A 生理学 生化学 免疫と薬理 エアロビクス実習	公衆衛生学 医学概論 ヘルスポモーション論 生活習慣と健康

人間環境デザイン学科



◆人間環境デザイン学科の教育研究上の目的◆

1. 人材の養成に関する目的

ユニバーサルデザインの考え方を根底にした教育研究を行い、建築、まちづくりからプロダクトデザイン、生活支援機器デザインに至る知識、技術の修得を通じて「幅広い分野の知識を持ったデザイナー」「多様なデザインの企画及び運営に関わる人材」「デザイナーと使用者双方の支援者もしくは理解者」として、次代の社会的役割を担うことの出来る人材を育成する。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

講義と演習を通じた教育により、理論を理解した上で実践に反映できる力、さまざまな考え方をつなぐことができるコミュニケーション力を修得させる。

1～2年次では基礎力の養成のため、デザインに関する幅広い知識を得るとともに、スケッチ、モックアップ、模型、CAD、CG等の制作を通して、デザイン及びそのプレゼンテーション等に関する基本的な技術を身につける。

3～4年次はコース別カリキュラムに分かれて、それぞれの分野の専門知識・技術を修得する。

3. その他の教育研究上の目的

人間環境デザインに関わるあらゆる可能性を探求する。

ユニバーサルデザインの考え方を背景として、地域・関連分野の諸施設・他大学等との共同研究を積極的に進めると共に、建築・まちづくり・生活支援機器・住宅改善・プロダクト・インタラクション等に関する教育研究を通して社会に貢献する。

また、インターンシップを活用した、より実践的、実務的な教育を進める。

◆人間環境デザイン学科3つのポリシー◆

私たち人間は、道具をつくり、住まいをつくり、道をつくり、町をつくってきた。私たちの周りには、そのような人間がつくったもので満たされており、それが私たちの暮らしを支えている。人間環境デザイン学科は、そのような、私たちを取り巻く人間自身がつくってきた環境を考え直し、デザインの視点で新たな提案を行うという目標を掲げている。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）

人間環境デザイン学科では、身の回りの製品のデザインから、私たちの暮らしの基盤となるまちづくりまでの幅広い分野を対象に、当学科で得た知識や能力を生かして、私たちを取り巻く環境をより良いものに変えていくという意欲を持った、以下のような能力を備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授けます。

(1) 知識の修得

デザインや構想に関する広範かつ専門的な知識を修得した学生。

(2) デザインに関わる技術の修得

デザインや構想を表現する具体的な技術や方法を修得した学生。

(3) 発想力の獲得

デザインや構想に関する着想を発見し、それを形にする能力を獲得した学生。

(4) コミュニケーション能力の修得

デザインや構想を検討する際に他者と議論を交わしたり、あるいは自分のデザイン（や構想）を伝えるためのコミュニケーション能力を修得した学生。

(5) 表現力の獲得

デザインや構想を精度の高い作品として表現したり、プレゼンテーションする能力を獲得した学生。

(6) 哲学の確立

社会情勢や地球環境を理解し、デザイナーとしての哲学をもって社会と関わる能力を獲得した学生。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

人間環境デザイン学科では4年間を通して以下の3点を重視したカリキュラム構成とします。

1. デザイン演習を主軸とした基礎の徹底から専門への展開

2. モノとコトのデザインスキルの修得

3. 理論（講義）と実践（演習）を関連付けた学修内容の深化

各学年での学修段階については以下のように設定する。

(1) 1年次は、モノとコトのデザインをするために必要となる基礎知識・スキルを、講義・演習を通じて徹底して学ぶ。

(2) 2年次は、講義を通じてより幅広いデザイン対象（プロダクト、生活支援機器から建築・都市まで）の基礎知識を深めると共に、1年次に学んだデザインの基礎スキルをもとにしたデザイン手法を修得する。

(3) 3年次以降は、より専門的な知識と実践的な技術を学ぶ。学生の希望を尊重しつつ、設定された三つのコース、空間デザインコース（※1）、生活環境デザインコース（※2）、プロダクトデザインコース（※3）の各分野で、より高度なデザイン表現と、その背後にある理念や知識について学ぶ。

(4) 3年生秋学期からプレゼミに所属し、4年生春学期から研究室に配属することで、さらに高度なレベルの学びを深める。

（※1）空間デザインコース：私たちを取り巻く環境を建築やまちという視点で考えるコースである。建築意匠、建築計画、建築構法など建物のデザイン、さらには都市計画、まちづくり、バリアフリーなど、人々を取り巻くすべての生活空間にまで視野を広げて、豊かな暮らしの環境を考えていく。

（※2）生活環境デザインコース：私たちを取り巻く環境をさまざまな人の暮らしという視点で考えるコースである。住居学、福祉住環境計画、子ども環境、障害のある方のための道具のデザインなど、利用者の参加による使い手の顔が見える人間中心設計や、ユニバーサルデザインによる、生活者の視点に立ったデザインを学ぶ。

（※3）プロダクトデザインコース：私たちを取り巻く環境を製品や情報という視点で考えるコースである。製品のデザイン、情報デザイン、メカトロニクスなど広い分野にわたって、「モノ」や「コト」のデザインから人々の暮らしを考えていく。

3. アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

人間環境デザイン学科は、人間を取り巻く環境を「デザイン」という視点から学びを深める学科である。

デザインに関わる分野は幅広く多様な人材が参加している世界であり、知識と意志があれば、誰でもデザインの世界の中で活動できる可能性がある。

特に、これからの社会ではモノを生み出す行為と共に、コトを創り出す能力も求められ、モノ・コトのデザインは人の暮らしを取り巻く環境のすべてに影響を及ぼす行為だと柔軟に理解した上で、

(1) 自分の可能性を信じ、探求する意欲を持つ学生

(2) 自分のデザイン能力を磨こうとする意欲のある学生

(3) 問題の本質を探り、柔軟な解決方法を発想しようとする熱意をもった学生を受け入れる。

1. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。
下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

(1) 基盤教育科目	18単位以上
○哲学・思想	2単位以上
○学問の基礎	
(人文科学)	
(社会科学)	
(自然科学)	
○国際人の形成	8単位以上
(世界の伝統と文化)	
(グローバル社会の実際)	
(語学)	(8単位以上)
○健康・スポーツ科学	
○総合・学際	
(2) 専門科目	77単位以上
○学部共通科目	
○学科専門科目	77単位以上
(必修科目)	(24単位)
(コース別必修科目)	(10単位)
(選択科目)	(43単位以上)
総計 ((1) と (2) の合計)	124単位以上

- (1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。
- (2) 基盤教育で、哲学・思想で必修2単位以上、国際人の形成（語学）の外国語科目必修8単位を含み、18単位以上を修得すること。
また、外国人留学生入学試験入学者は、上記の他に、国際人の形成（語学）の留学生対象科目必修6単位を修得すること。
- (3) 専門科目で、学科専門科目を77単位以上（うち必修科目24単位、コース別必修科目10単位、選択科目43単位以上）修得すること。

人間環境デザイン学科 教育課程表 (2021年度入学生用)

ライフデザイン学部 基盤教育科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当学年	単位数	開講形態	科目ナンバリング	履修方法	
基盤教育科目	哲学・思想	選択	哲学	1~4	2	講義	PHT1001	
		選択	人間と宗教	1~4	2	講義	PHT1002	
		選択	生命と倫理	1~4	2	講義	PHT1003	
		選択	ジェンダー論	1~4	2	講義	PHT1004	
		選択	人権と生活	1~4	2	講義	PHT1005	
	2単位以上							
	学問の基礎 (人文科学)	選択	美術一般	1~4	2	講義	FAS1001	
		選択	音楽一般	1~4	2	講義	FAS1002	
		選択	文学	1~4	2	講義	FAS1003	
		選択	文章読解	1~4	2	講義	FAS1004	
		選択	口頭表現法	1~4	2	講義	FAS1005	
		選択	レポート・論文のまとめ方	1~4	2	講義	FAS1006	
		選択	プレゼンテーション技法	1~4	2	講義	FAS1007	
選択		文化論	1~4	2	講義	FAS1008		
選択		文化人類学	1~4	2	講義	FAS1009		
選択		身体論	1~4	2	講義	FAS1010		
-								
学問の基礎 (社会科学)	選択	社会学	1~4	2	講義	FAS1011		
	選択	心理学	1~4	2	講義	FAS1012		
	選択	法学	1~4	2	講義	FAS1013		
	選択	経済学	1~4	2	講義	FAS1014		
	選択	経営学	1~4	2	講義	FAS1015		
	選択	家族の社会学	1~4	2	講義	FAS1016		
	選択	統計学	1~4	2	講義	FAS1017		
	選択	企業のしくみ	1~4	2	講義	FAS1018		
-								
学問の基礎 (自然科学)	選択	生活と栄養	1~4	2	講義	FAS1019		
	選択	物理	1~4	2	講義	FAS1020		
	選択	数学	1~4	2	講義	FAS1021		
	選択	危機管理と救急法	1~4	2	講義	FAS1022		
-								
国際人の形成 (世界の伝統と文化)	選択	グローバリゼーションと文化A	1~4	2	講義	IHR1001		
	選択	グローバリゼーションと文化B	1~4	2	講義	IHR1002		
	選択	グローバリゼーションと文化C	1~4	2	講義	IHR1003		
	選択	グローバリゼーションと文化D	1~4	2	講義	IHR1004		
	選択	グローバリゼーションと文化E	1~4	2	講義	IHR1005		
-								
国際人の形成 (グローバル社会の実際)	選択	異文化理解概論	1~4	2	講義	IHR1006		
	選択	留学のすすめ	1~4	2	講義	IHR1007		
	選択	海外研修Ⅰ	1~4	2	講義	IHR1008		
	選択	海外研修Ⅱ	1~4	2	講義	IHR1009		
	選択	海外実習Ⅰ	1~4	2	実験・実習	IHR1010		
	選択	海外実習Ⅱ	1~4	2	実験・実習	IHR1011		
	選択	短期海外研修Ⅰ	1~4	1	講義	IHR1012		
	選択	短期海外研修Ⅱ	1~4	1	講義	IHR1013		

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法
(グローバル社会の実践)	選択	短期海外研修Ⅲ	1~4	1	講義	IHR1014	
	選択	短期海外研修Ⅳ	1~4	1	講義	IHR1015	
	選択	短期海外実習Ⅰ	1~4	1	実験・実習	IHR1016	
	選択	短期海外実習Ⅱ	1~4	1	実験・実習	IHR1017	
	選択	短期海外実習Ⅲ	1~4	1	実験・実習	IHR1018	
	選択	短期海外実習Ⅳ	1~4	1	実験・実習	IHR1019	
-							
国際人の形成(語学)	必修	基礎英語演習Ⅰ	1	1	演習	ENG1001	
	必修	基礎英語演習Ⅱ	1	1	演習	ENG1002	
	必修	英語コミュニケーションⅠA	1	1	演習	ENG1003	
	必修	英語コミュニケーションⅠB	1	1	演習	ENG1004	
	必修	応用英語演習Ⅰ	2	1	演習	ENG2005	
	必修	応用英語演習Ⅱ	2	1	演習	ENG2006	
	必修	英語コミュニケーションⅡA	2	1	演習	ENG2007	
	必修	英語コミュニケーションⅡB	2	1	演習	ENG2008	
	選択	グローバルコミュニケーションⅠ	1~4	1	演習	ENG1009	
	選択	グローバルコミュニケーションⅡ	1~4	1	演習	ENG1010	
	選択	Practical English I	1~4	1	演習	ENG1011	
	選択	Practical English II	1~4	1	演習	ENG1012	
	選択	English e-Learning I	1~4	1	演習	ENG1013	
	選択	English e-Learning II	1~4	1	演習	ENG1014	
	選択	ドイツ語Ⅰ	1~4	1	演習	GER1001	
	選択	ドイツ語Ⅱ	1~4	1	演習	GER1002	
	選択	フランス語Ⅰ	1~4	1	演習	FRA1001	
	選択	フランス語Ⅱ	1~4	1	演習	FRA1002	
	選択	中国語Ⅰ	1~4	1	演習	CHI1001	
	選択	中国語Ⅱ	1~4	1	演習	CHI1002	
	選択	韓国語Ⅰ	1~4	1	演習	KOR1001	
	選択	韓国語Ⅱ	1~4	1	演習	KOR1002	
	必修	日本語Ⅰ	1~4	1	演習	JLN1001	外国人留学生のみ履修可
	必修	日本語Ⅱ	1~4	1	演習	JLN1002	
	必修	日本事情Ⅰ	1~4	2	講義	JLN1003	
	必修	日本事情Ⅱ	1~4	2	講義	JLN1004	
	選択	テクニカルライティング	1~4	2	講義	ENG1015	
	選択	アカデミックライティング	1~4	2	講義	ENG1016	
	選択	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1017	
	選択	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1~4	2	演習	ENG1018	
選択	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1019		
選択	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1~4	2	演習	ENG1020		
選択	Pre-Study Abroad Listening/Speaking	1~4	1	演習	ENG1021		
選択	Pre-Study Abroad Writing	1~4	1	演習	ENG1022		
選択	Business English Communication	1~4	2	講義	ENG1023		
外国語科目必修8単位以上							
キャリア・市民形成	選択	生活と環境	1~4	2	講義	ECD1001	
	選択	日本国憲法	1~4	2	講義	ECD1002	
	選択	基礎会計学	1~4	2	講義	ECD1003	
	選択	学校と地域(学校安全を含む)	1~4	2	講義	ECD1004	
	選択	生活と住居	1~4	2	講義	ECD1005	

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
キャリア・市民形成	選択	地域研究法	1~4	2	講義	ECD1006		
	選択	コミュニケーション&マナー	1~4	2	講義	ECD1007		
	選択	公務員論	1~4	2	講義	ECD1008		
	選択	キャリアデベロップメント	1~4	2	講義	ECD1009		
	選択	社会貢献活動入門	1~4	2	講義	ECD1010		
	選択	インターンシップ入門	1~4	2	講義	ECD1011		
-								
健康・スポーツ科学	選択	スポーツ健康科学実技ⅠA	1~4	1	実技	DMB1001		
	選択	スポーツ健康科学実技ⅠB	1~4	1	実技	DMB1002		
	選択	スポーツ健康科学実技ⅡA	1~4	1	実技	DMB1003		
	選択	スポーツ健康科学実技ⅡB	1~4	1	実技	DMB1004		
	選択	スポーツ健康科学実技ⅢA	1~4	1	実技	DMB1005		
	選択	スポーツ健康科学実技ⅢB	1~4	1	実技	DMB1006		
	選択	スポーツ健康科学講義A	1~4	2	講義	DMB1007		
	選択	スポーツ健康科学講義B	1~4	2	講義	DMB1008		
-								
基盤教育科目	総合・学際	選択	全学総合A	1~4	2	講義	ITS1001	
		選択	全学総合B	1~4	2	講義	ITS1002	
		選択	総合A	1~4	2	講義	ITS1003	
		選択	総合B	1~4	2	講義	ITS1004	
		選択	総合C	1~4	2	講義	ITS1005	
		選択	総合D	1~4	2	講義	ITS1006	
		選択	総合E	1~4	2	講義	ITS1007	
		選択	総合F	1~4	2	講義	ITS1008	
		選択	全学総合F	1~4	2	講義	ITS1009	
		選択	全学総合G	1~4	2	講義	ITS1010	
		選択	全学総合H	1~4	2	講義	ITS1011	
		選択	全学総合C	1~4	2	講義	ITS1012	
		選択	全学総合L	1~4	2	講義	ITS1013	
		選択	全学総合M	1~4	2	講義	ITS1014	
		選択	全学総合I	1~4	2	講義	ITS1015	
		選択	全学総合J	1~4	2	講義	ITS1016	
		選択	全学総合K	1~4	2	講義	ITS1017	
		選択	全学総合D	1~4	2	講義	ITS1018	
		選択	全学総合E	1~4	2	講義	ITS1019	
-								
基盤教育科目18単位以上								

人間環境デザイン学科 専門科目

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
学部共通科目	選択	ライフデザイン学Ⅰ	1	2	講義	TYS101		
	選択	ライフデザイン学Ⅱ	1	2	講義	TYS102		
※他学科・専攻開放科目を含む								
学科専門科目	必修	情報リテラシーⅠ	1	2	演習	ISE101		
	必修	情報リテラシーⅡ	1	2	演習	ISE102		
	必修	CAD演習Ⅰ	1	2	演習	DEE101		
	必修	人間環境デザイン学概論	1	2	講義	TYS103		
	必修	ユニバーサルデザイン概論	1	2	講義	DES101		
	必修	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1	3	演習	ABE101		
	必修	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1	3	演習	ABE102		
	必修	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2	3	演習	ABE201		
	必修	人間環境デザイン総合演習	2	3	演習	ABE202		
	必修	卒業研究	4	2	演習	THE401		
	必修科目24単位							
	必修	空間デザイン演習ⅠA	3	3	演習	BSM301	空間デザインコースのみ必修 他コースでは選択	
	必修	空間デザイン演習ⅠB	3	3	演習	BSM302		
	必修	空間デザイン演習ⅡA	4	2	演習	BSM401		
	必修	空間デザイン演習ⅡB	4	2	演習	BSM402		
	必修	生活環境デザイン演習ⅠA	3	3	演習	RSW301	生活環境デザインコースのみ必修 他コースでは選択	
	必修	生活環境デザイン演習ⅠB	3	3	演習	RSW302		
	必修	生活環境デザイン演習ⅡA	4	2	演習	RSW401		
	必修	生活環境デザイン演習ⅡB	4	2	演習	RSW402		
	必修	プロダクトデザイン演習ⅠA	3	3	演習	DES301	プロダクトデザインコースのみ必修 他コースでは選択	
	必修	プロダクトデザイン演習ⅠB	3	3	演習	DES302		
	必修	プロダクトデザイン演習ⅡA	4	2	演習	DES401		
	必修	プロダクトデザイン演習ⅡB	4	2	演習	DES402		
	コース別必修科目10単位							
	選択	製品と情報のUD	1	2	講義	DES102		
	選択	人間工学	2	2	講義	RSW201		
	選択	建築歴史意匠A	1	2	講義	AHD101		
	選択	プロダクトデザイン基礎	1	2	講義	DES103		
	選択	発達と障害	1	2	講義	RSW101		
	選択	生活支援デザイン概論	1	2	講義	RSW102		
	選択	材料・素材一般	1	2	講義	BSM101		
	選択	建築生産	1	2	講義	TPA101		
選択	色彩論	1	2	講義	CLD101			
選択	マーケティング	2	2	講義	CME201			
選択	CAD演習Ⅱ	2	2	演習	DEE201			
選択	住居計画	2	2	講義	CLD201			
選択	建築・都市法規	2	2	講義	TPA201			
選択	建築歴史意匠B	2	2	講義	AHD201			
選択	生活空間計画	2	2	講義	TPA202			
選択	コンピュータ・グラフィックス	2	2	講義	HPC201			
選択	産業とプロダクトデザイン	3	2	講義	DES303			
選択	福祉デザイン工学概論	2	2	講義	RSW202			
選択	構造力学	2	2	講義	BSM201			

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法	
専門科目	学科専門科目	選択	都市・まちのデザイン	1	2	講義	TPA102	
		選択	道具の歴史	1	2	講義	CLD102	
		選択	デザイン工学基礎	2	2	講義	DEE202	
		選択	デザイン工学応用	2	2	講義	SOF201	
		選択	ヒューマンインターフェース	2	2	講義	HII201	
		選択	インテリアデザイン	2	2	講義	CLD202	
		選択	環境計画	2	2	講義	TPA203	
		選択	デザイン思考法	2	2	講義	DES201	
		選択	まちづくり	2	2	講義	TPA204	
		選択	認知科学	3~4	2	講義	CGS301	
		選択	ランドスケープデザイン	3~4	2	講義	DES304	
		選択	デザイン特別講義	3~4	2	講義	DES305	
		選択	安全工学	3~4	2	講義	TPA301	
		選択	調査分析のデザイン	3~4	2	講義	STS301	
		選択	建築とまちのUD	3~4	2	講義	DES306	
		選択	情報メディアデザイン	3~4	2	講義	DES307	
		選択	インターンシップA	3~4	2	実習	CIV301	
		選択	インターンシップB	3~4	2	実習	CIV302	
		選択	インターンシップC	3~4	2	実習	CIV303	
		選択	インターンシップD	3~4	2	実習	CIV304	
		選択	建築空間構成論	3~4	2	講義	TPA302	
		選択	建築設計論	3~4	2	講義	TPA303	
		選択	設備計画	3~4	2	講義	AEN301	
		選択	材料力学	3~4	2	講義	BSM303	
		選択	構法計画	3~4	2	講義	TPA304	
		選択	木造住宅設計論	3~4	2	講義	TPA305	
		選択	構法計画演習A	3~4	1	演習	TPA306	
		選択	構法計画演習B	3~4	1	演習	TPA307	
		選択	都市計画論	3~4	2	講義	TPA308	
		選択	福祉デザイン工学各論	3~4	2	講義	RSW303	
		選択	リハビリテーション工学	3~4	2	講義	RSW304	
		選択	医療福祉建築計画	3~4	2	講義	TPA309	
		選択	支援技術とデザイン	3~4	2	講義	RSW305	
		選択	福祉住環境コーディネータ論	3~4	2	講義	CLD301	
		選択	こども環境論	2	2	講義	CLD203	
		選択	情報デザインⅠ	2	2	講義	DES202	
		選択	情報デザインⅡ	3~4	2	講義	DES308	
		選択	プロダクトデザインⅠ	3~4	2	講義	DES309	
		選択	プロダクトデザインⅡ	3~4	2	講義	DES310	
		選択	グラフィックデザイン論	3~4	2	講義	DES311	
		選択	メカトロニクス・デザイン	3~4	2	講義	INM301	
		選択	表現手法	3~4	2	講義	DES312	
		選択	国際文化事情A	1~4	2	講義	FLE101	
		選択	国際文化事情B	1~4	2	講義	FLE102	
		選択	International Design Practices	1~4	2	講義	DES104	
選択科目43単位以上								
専門科目から77単位以上								

区分	必修・選択の別	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法
教職科目	選択	職業指導Ⅰ	3~4	2	講義	ESS301	卒業要件外
	選択	職業指導Ⅱ	3~4	2	講義	ESS302	卒業要件外

〈他学科・専攻開放科目〉

開講学科	科目名	配当 学年	単位数	開講 形態	科目 ナンバリング	履修方法
生活支援学科	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	2	講義	SWS101	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	2	講義	SWS102	
	児童・家庭福祉	1	2	講義	SWS103	
	社会福祉調査の基礎	1	2	講義	SOC101	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	講義	SWS201	
	高齢者福祉	1	2	講義	SWS104	
	障害者福祉	1	2	講義	SWS105	
	社会保障Ⅰ	2~3	2	講義	SWS202	
	社会保障Ⅱ	2~3	2	講義	SWS203	
	国際児童福祉	1~4	2	講義	SWS106	
	Introduction to Social Work	3~4	2	講義	SWS301	
他学科・専攻開放科目（学部共通科目）を含む） 健康スポーツ学科	解剖学	1	2	講義	GEA101	
	人体組織学	1~4	2	講義	GEA102	
	スポーツビジネス論	2~4	2	講義	SPS201	
	医学概論	1~4	2	講義	GIM101	
	運動生理学	2	2	講義	GPH201	
	スポーツ生理学	2~4	2	講義	GPH202	
	スポーツ社会学	1	2	講義	SPS101	
	発育・発達・加齢論	1	2	講義	DMB101	
	高齢者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS202	
	障がい者健康スポーツ論	2~4	2	講義	SPS203	
	リハビリテーション論	2~4	2	講義	RSW203	
	生涯スポーツ論	1	2	講義	AHS101	
	健康教育学	2~4	2	講義	AHS201	
	生活習慣と健康	1	2	講義	AHS102	
	スポーツ経済論	2~4	2	講義	SPS204	
	スポーツメディア論	2~4	2	講義	SPS205	
	スポーツ情報分析論	2~4	2	講義	DMB201	
	バイオメカニクス	2~4	2	講義	SPS206	
	健康栄養論	2	2	講義	AHS202	
	日本文化と武道	1~4	2	講義	DMB102	
	老年学	2~4	2	講義	DMB202	
	子ども学	2~4	2	講義	CHS201	
	国際健康スポーツ交流B	1	2	実習	AHS103	
外国語文献講読	1~4	2	講義	FLE103		
障がい者論	2~4	2	講義	AHS203		
障がい者健康スポーツ指導法	2~4	1	演習	SPS207		

3. 基盤教育

(1) 哲学・思想

2単位以上を修得しなければなりません。

(2) 国際人の形成（語学）

1年次に「英語コミュニケーションⅠA」「英語コミュニケーションⅠB」「基礎英語演習Ⅰ」「基礎英語演習Ⅱ」を、2年次に「英語コミュニケーションⅡA」「英語コミュニケーションⅡB」「応用英語演習Ⅰ」「応用英語演習Ⅱ」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

4. 専門科目・学部共通科目

選択科目

単位数の指定はありません。他学科・専攻開講科目で履修できるのは、「他学科・専攻開放科目」のみです。各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

5. 専門科目・学科専門科目

(1) 必修科目

24単位すべてを修得しなければなりません。

(2) コース別必修科目・選択科目

- ① 3・4年次に所属するコースの、コース別必修科目は10単位を修得しなければなりません。他コースの科目は、コース別必修科目を除き、「学科専門科目」の「選択科目」として履修することができます。
- ② 選択科目は43単位以上を修得しなければなりません。
- ③ 4年次の必修科目・コース別必修科目は、以下の条件を満たしていないと、履修することができません。従って条件を満たせなかった段階で、卒業も延期になりますので注意してください。

〈4年次の選択必修・コース別必修科目の履修条件〉

ライフデザイン学部規程 別表第5

対象科目	時期	条件
・空間デザイン演習ⅡA ・生活環境デザイン演習ⅡA ・プロダクトデザイン演習ⅡA ・空間デザイン演習ⅡB ・生活環境デザイン演習ⅡB ・プロダクトデザイン演習ⅡB	3年6セメスタ 終了時まで	以下1)と2)の両方の条件を満たすこと。 1)「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」「人間環境デザイン学概論」「ユニバーサルデザイン概論」「CAD演習Ⅰ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅰ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅱ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅲ」「人間環境デザイン総合演習」の9科目の単位をすべて修得していること。 2) 卒業要件の科目を100単位以上修得していること。
・卒業研究	4年7セメスタ 終了時まで	「空間デザイン演習ⅡA」「生活環境デザイン演習ⅡA」「プロダクトデザイン演習ⅡA」「空間デザイン演習ⅡB」「生活環境デザイン演習ⅡB」「プロダクトデザイン演習ⅡB」のいずれかを修得していること。

6. 3・4年次コース分けと各コースの特徴について

人間環境デザイン学科では、より高度な知識・技術の修得を目指した専門教育・職業人養成を行うために、3・4年次は「空間デザインコース」「生活環境デザインコース」「プロダクトデザインコース」の3つのコースに分かれて教育を行います。コース分けは本人希望を原則としますが、各コースの定数を超える場合は成績を加味してコース分けを行います。各コースの定数及びコース分けのガイダンスについては2年次の秋学期を予定しています。

各コースの内容は下記のとおりです。

空間デザインコース（※1）、生活環境デザインコース（※2）、プロダクトデザインコース（※3）のそれぞれの分野で、より高度なデザイン表現を学ぶと共に、それらの背後にある理念や知識について学ぶ。

（※1）空間デザインコース：私たちを取り巻く環境を建築やまちという視点で考えるコースである。建築意匠、建築計画、建築構法など建物のデザイン、さらには都市計画、まちづくり、バリアフリーなど、人々を取り巻くすべての生活空間にまで視野を広げて、豊かな暮らしの環境を考えていく。

（※2）生活環境デザインコース：私たちを取り巻く環境をさまざまな人の暮らしという視点で考えるコースである。住居学、福祉住環境計画、子ども環境、障害のある方のための道具のデザインなど、利用者の参加による使い手の顔が見える人間中心設計や、ユニバーサルデザインによる、生活者の視点に立ったデザインを学ぶ。

（※3）プロダクトデザインコース：私たちを取り巻く環境を製品や情報という視点で考えるコースである。製品のデザイン、情報デザイン、インタラクションデザイン、メカトロニクスなど広い分野にわたって、「モノ」や「コト」のデザインから人々の暮らしを考えていく。

7. その他の科目

教育職員免許状取得のための科目について

以下の科目は、教職の専門科目となります。単位を修得しても卒業単位とすることはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

- ①人間環境デザイン学科教育課程表の「教職科目」区分にある科目（「職業指導Ⅰ」、「職業指導Ⅱ」）。
- ②教育職員免許状取得のための「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」（P.172～175参照）で、人間環境デザイン学科の教育課程表にない科目。

◆人間環境デザイン学科のカリキュラム◆

人間環境デザイン学科のカリキュラムマップ

- DP1：知識の修得：デザインや構想に関する広範かつ専門的な知識を修得した学生。
 DP2：デザインに関わる技術の修得：デザインや構想を表現する具体的な技術や方法を修得した学生。
 DP3：発想力の獲得：デザインや構想に関する着想を発見し、それを形にする能力を獲得した学生。
 DP4：コミュニケーション能力の修得：デザインや構想を検討する際に他者と議論を交わしたり、あるいは自分のデザイン（や構想）を伝えるためのコミュニケーション能力を修得した学生。
 DP5：表現力の獲得：デザインや構想を精度の高い作品として表現したり、プレゼンテーションする能力を獲得した学生。
 DP6：哲学の確立：社会情勢や地球環境を理解し、デザイナーとしての哲学をもって社会と関わる能力を獲得した学生。

学年/DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					卒業研究	
				空間デザイン演習ⅡA		
				空間デザイン演習ⅡB		
				生活環境デザイン演習ⅡA		
				生活環境デザイン演習ⅡB		
				プロダクトデザイン演習ⅡA		
				プロダクトデザイン演習ⅡB		
3年	産業とプロダクトデザイン	調査分析のデザイン	空間デザイン演習ⅠA			
	認知科学	情報メディアデザイン	空間デザイン演習ⅠB			
	ランドスケープデザイン	インターンシップA	生活環境デザイン演習ⅠA			
	デザイン特別講義	インターンシップB	生活環境デザイン演習ⅠB			
	建築とまちのUD	インターンシップC	プロダクトデザイン演習ⅠA			
	安全工学	インターンシップD	プロダクトデザイン演習ⅠB			
		建築空間構成論	福祉住環境コーディネート論			
		材料力学	プロダクトデザインⅠ			
	構法計画	構法計画演習A				
	都市計画論	情報デザインⅡ				
	福祉デザイン工学各論	グラフィックデザイン論				
	リハビリテーション工学	表現手法				
	医療福祉建築計画					
	支援技術とデザイン					
	プロダクトデザインⅡ					
メカトロニクス・デザイン						
2年	マーケティング	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	住居計画			
	建築歴史意匠B	人間環境デザイン総合演習	デザイン思考法			
	生活空間計画	CAD演習Ⅱ	こども環境論			
	福祉デザイン工学概論	コンピュータ・グラフィックス		コンピュータ・グラフィックス		
		構造力学				
	デザイン工学基礎	インテリアデザイン				
	デザイン工学応用					
		環境計画				
	まちづくり					
	情報デザインⅠ					
1年	人間環境デザイン学概論	情報リテラシーⅠ		国際文化事情A		
	ユニバーサルデザイン概論	情報リテラシーⅡ		国際文化事情B		
	製品と情報のUD	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ				
	プロダクトデザイン基礎	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ				
	生活支援デザイン概論	CAD演習Ⅰ				
	材料・素材一般					
	建築生産					
	色彩論					
	都市・まちのデザイン					
	道具の歴史					

ライフデザイン学部共通

大学院開講科目の先行履修制度について

ライフデザイン学部では、大学院ライフデザイン学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対し、学部の中から専門的な学修の継続を図ることを目的として、ライフデザイン学研究科が開講する修士・博士前期課程の授業科目を、学部在学中に履修できる「先行履修制度」を導入しています。

本制度利用の要件

以下の①～③全ての項目を満たす者としてします。

- ①ライフデザイン学部4学年に在学し、当該年度で卒業の見込みがあること。
- ②ライフデザイン学部卒業後、ライフデザイン学研究科修士・博士前期課程（生活支援学専攻・健康スポーツ学専攻・人間環境デザイン専攻）に進学の意思があること。
- ③先行履修を希望する時点の成績が、ライフデザイン学研究科修士・博士前期課程学内推薦の前年度の出願基準を満たしていること。

制度詳細

(1) 履修単位数の取扱い

先行履修する授業科目の単位数は、セメスタごとの履修上限単位数（24単位）には含まれません。

(2) 履修単位数の上限

先行履修できる授業科目の単位数は、最大で10単位です。

(3) 修得単位の取扱い

先行履修で修得した授業科目の単位は、ライフデザイン学部の卒業要件単位には算入されません。

(4) 履修可能な科目

対象となる授業科目は、当該年度にライフデザイン学研究科修士・博士前期課程で開講する科目のうち以下の科目で、かつ指導教員ならびに履修希望科目担当教員の許可を得た科目となります。

- ・生活支援学専攻および健康スポーツ学専攻・・・研究指導を除く科目
- ・人間環境デザイン専攻・・・特別演習および研究指導を除く科目

(5) 履修登録の方法

先行履修を希望する学生は、大学院の履修登録期間に、定められた手続きに則って履修登録を行ってください。

(6) 単位認定の上限

先行履修し、修得した授業科目の単位は、ライフデザイン学研究科修士・博士前期課程に進学後、申請することにより、当該の専攻会議およびライフデザイン学研究科委員会が教育上有益と認める場合に、10単位を超えない範囲で修了要件単位数の一部に算入することができます。

(7) 単位認定の方法

単位認定を希望する場合は、大学院進学後最初のセメスタにおける履修登録期間に、定められた手続きに則って申請を行ってください。ただし、カリキュラムの改廃等の理由により、修了要件単位とならないことがあります。

諸資格について

◆ライフデザイン学部で取得できる資格◆

ライフデザイン学部では、下記の表に記載されている資格（または資格の受験資格）を取得することができます。資格の取得に関しては資格登録（※1）、所定の手続、指定された科目の単位修得等、条件を満たすことが必須です。この履修要覧をよく確認してください。また、必要な科目の履修については、科目履修が可能な学年で早めに履修し、一度で単位を修得してください。再履修になると他の必須科目と時間割が重複する等、履修に支障が生じ、4年間で資格を取得できない可能性があります。不明な点がある場合は、赤羽台事務課教務担当窓口にご相談してください。

※1 資格取得希望者は、ToyoNet-Gにて資格登録が必須です。詳細は学期初めに配布される『履修登録のしおり』で確認してください。

	生活支援学科 生活支援学専攻	生活支援学科 子ども支援学専攻	健康スポーツ 学科	人間環境デザイン 学科	ページ
社会福祉士※2	受験資格取得	受験資格取得	—	—	P.108
精神保健福祉士	受験資格取得	—	—	—	P.112
介護福祉士※3	受験資格取得	—	—	—	P.116
保育士	—	資格取得	—	—	P.120
GFI	受験資格取得	受験資格取得	受験資格取得	—	P.124
健康運動指導士	—	—	受験資格取得	—	P.126
健康運動実践指導者	受験資格取得	受験資格取得	受験資格取得	—	P.130
障がい者スポーツ指導員	資格取得	資格取得	資格取得	—	P.132
レクリエーション・ インストラクター	資格取得	資格取得	資格取得	—	P.134
第一種衛生管理者	—	—	資格取得	—	P.136
トレーニング指導者	—	—	受験資格取得	—	P.138
公認スポーツ指導者	—	—	資格取得	—	P.140
一級建築士	—	—	—	受験資格取得	P.142
二級建築士	—	—	—	受験資格取得	
木造建築士	—	—	—	受験資格取得	
社会福祉主事	任用資格取得	任用資格取得	任用資格取得	任用資格取得	P.145

※2 生活支援学科子ども支援学専攻学生は、社会福祉コース所属学生のみ取得可能（P.108～111参照）

※3 生活支援学科生活支援学専攻介護福祉士コース所属学生のみ取得可能（P.116～119参照）

◆◆ 〈1〉 社会福祉士（生活支援学科） ◆◆

◆◆資格概要◆◆

社会福祉士は、1987（昭和62）年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」によって認定されるソーシャルワーカーの国家資格です。

今後、地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉ニーズに対応するため、ソーシャルワークの専門職としての役割を担って行ける実践能力を有する社会福祉士を養成することを目的として、2021年度より社会福祉士養成課程のカリキュラム、実習教育のあり方が大幅に見直されました。新カリキュラムでは、これまで以上に実習教育で「実践力」を身につけることが求められており、実習生にも一定程度の知識と技術が求められています。

社会福祉士は社会福祉サービスの質を高めるため、社会福祉の様々な分野で活躍することが期待されています。国家試験の難易度は低くはないので、入学時から真剣に学習することが必要です。また、指定科目が多いため入学時から計画的、かつ効率的に履修しなければ4年次で受験資格を取得できないこともあるので注意してください。

(1) 業務

「専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行う。」（社会福祉士及び介護福祉士法第2条）

(2) 資格

社会福祉士の資格は、国家試験に合格し、所定の登録をすることによって得られます。国家試験を受験するには、国家試験受験資格を取得する必要があるため、生活支援学専攻では法令で定められた社会福祉士指定科目（p.110参照）を修得し、卒業時に受験資格を得ることができます。

(3) 社会福祉士指定科目

社会福祉士国家試験は、毎年2月上旬に実施され、3月に合格発表があります。在学中の受験は4年次の2月に社会福祉士国家試験受験資格取得見込みで受験することができます。国家試験の科目はp.110の科目一覧にある通りです。

◆◆ソーシャルワーク実習参加条件等◆◆

(1) 実習関連科目の概要

社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する者は、指定科目の修得とともに、取得要件の一つである、実習に関する科目（以下、実習関連科目）を全て履修しなければなりません。実習関連科目は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」です。本学では、これらの科目は「ソーシャルワーク実習スケジュール」（p.111参照）に則り開講されます。

社会福祉士資格・履修ガイダンスは適宜開催します。日頃からToyoNet-ACEの掲示板等を見て見て開催時期を確認し、必ず受講してください。

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」では、社会福祉施設・機関において60時間以上（8日程度）、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」では、社会福祉施設・機関において180時間以上（24日程度）の現場実習を行います。実習は単なる施設見学ではなく、学内で身に付けた知識と技術を現場で実践するものであることから、実習関連科目には次項の履修要件が設定されています。

(2) 実習関連科目の履修条件

① ソーシャルワーク実習指導Ⅰの履修条件

課題レポートを実習指導室に提出し、登録する必要があります。この登録により「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」のクラス分けを行います。登録を行わないと「ソーシャルワーク実習Ⅰ」

を履修できません。また、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」履修前年度末の段階で次の科目が原則として履修済みでなければなりません。

- ・社会福祉の原理と政策Ⅰ
- ・社会福祉の原理と政策Ⅱ
- ・ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ
- ・ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ
- ・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ

②ソーシャルワーク実習Ⅰの履修条件

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修するには、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修済みまたは履修中でなければなりません。

③ソーシャルワーク実習指導Ⅱの履修条件

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の履修前年度末の段階で、次の科目が原則として履修済みでなければなりません。

- ・ソーシャルワーク実習Ⅰ
- ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
- ・ソーシャルワーク演習Ⅰ
- ・ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）
- ・ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ
- ・ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）

④ソーシャルワーク実習Ⅱの履修条件

「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を履修するには、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」を履修済みまたは履修中でなければなりません。

⑤ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの履修年次の特例

実習関連科目の履修については、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」は2年次、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」は3年次に履修することを原則としています。なお、留学などの合理的事由として学科・専攻が認めた場合はその限りではありません。

■注意事項

- ・社会福祉士指定科目や実習関連科目の履修等の相談は、実習指導室にて受け付けます。
- ・資格取得や実習等については、説明会やガイダンスを適宜開催するとともに、ToyoNet-ACEの掲示板等で掲示を行うので、掲示には常に注意をして下さい。

■子ども支援学専攻所属学生について

- ・子ども支援学専攻在籍の学生で社会福祉士国家試験の受験資格取得を希望する者は、「社会福祉士コース」の所属が必要です。
- コースへの所属方法は、子ども支援学専攻の指示に従って下さい。

◆◆資格取得に必要な科目◆◆

ライフデザイン学部規程 別表第7

国家試験科目名	本学開講科目	配当 学年	単位数	履修 方法	ソーシャルワーク 実習指導Ⅰ 履修条件科目	ソーシャルワーク 実習指導Ⅱ 履修条件科目
医学概論	医学概論	1	2	必修		
心理学と心理的支援	社会学	1～4	2	必修		
社会学と社会システム	心理学	1～4	2	必修		
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1	2	必修	○	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1	2	必修	○	
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	1	2	必修		
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	2	必修	○	
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	2	必修	○	
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	2	必修	○	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	必修		○
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ(専門)	2	2	必修		○
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ(専門)	3	2	必修		
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2～3	2	必修		
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2～3	2	必修		
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2～3	2	必修		
社会保障	社会保障Ⅰ	2～3	2	必修		
	社会保障Ⅱ	2～3	2	必修		
高齢者福祉	高齢者福祉	1	2	必修		
障害者福祉	障害者福祉	1	2	必修		
児童・家庭福祉	児童・家庭福祉	1	2	必修		
貧困に対する支援	貧困に対する支援	2～3	2	必修		
保健医療と福祉	保健医療と福祉	2	2	必修		
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2～3	2	必修		
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	2～3	2	必修		
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	必修		○
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門)	2	2	必修		○
	ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	3	2	必修		
	ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門)	3	2	必修		
	ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	4	2	必修		
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	1	必修		○
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	1	必修		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	1	必修		
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	2	必修		○
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	必修		
本学における必要単位合計数			67			

社会福祉士の受験資格取得のためには、多くの科目を履修します。また、2年次には60時間（8日間）、3年次には180時間（24日間）の社会福祉施設・機関での実習が課せられます。その上で、4年次の2月上旬に実施される国家試験に合格してはじめて社会福祉士の資格を取得することができます。社会福祉士国家試験の合格率は全国平均で3割程度のため、在学中にかなり幅広い領域の勉強をすることが求められます。簡単に取得できる資格ではないため、将来の進路などを考えながら取得を希望するかどうか検討してください。

◆◆科目スケジュール◆◆

◆ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの実習配属について◆

ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの実習施設・機関の配属先は、実習関連科目それぞれの履修状況やそれまでの成績等を勘案して決定します。また必要があれば個別面接を行う場合もあります。実習施設・機関は実習施設希望票をもとに決定します。なお、実習施設の種別には限りがあるため、自分の希望と一致しない施設や機関に配属される場合もあります。

1年	春学期	・ 諸資格ガイダンス（概要説明）
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士受験資格取得ガイダンス ・ 社会福祉士受験資格取得希望票及び課題の提出 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆課題レポートの提出：レポート課題「社会福祉士の資格取得を目指す理由」◆ A4用紙・2,000字以上（文字・行数等の書式は特に問いません）。提出期日及び場所等については、社会福祉士受験資格取得ガイダンス時及びToyoNet-ACEを通じて連絡します。本課題は社会福祉士資格取得希望票付属書類であり、次年度にソーシャルワーク演習Ⅰ及びソーシャルワーク実習指導Ⅰの履修を希望する方は必ず期日までに提出して下さい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習Ⅰ 実習施設希望票提出
2年	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習Ⅰ 実習施設配属決定 ・ ソーシャルワーク実習Ⅰ（8日間）
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習の振り返り、実習報告書の作成 ・ 実習報告書の提出
3年	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実習Ⅱ 実習施設配属決定 ・ ソーシャルワーク実習Ⅱ（24日間）
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習報告書の提出 ・ 実習報告会の開催
4年	春学期	・ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 事例発表会の開催
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士国家試験受験申し込み（9月下旬～10月上旬） ・ 社会福祉士国家試験

※詳細については、ガイダンス等で説明します。

◆ 〈2〉 精神保健福祉士（生活支援学科生活支援学専攻） ◆

高ストレス社会といわれる現代において、こころの健康に関する関心が高まっています。特に、わが国では欧米諸国に比べ、精神疾患に罹患し、生活に困難を抱えた人々に対する社会復帰や社会参加の取り組みが立ち遅れた状況が続いてきました。こうした状況を改善するための関係法整備の一環として、1997年「精神保健福祉士法」の制定により従来精神科ソーシャルワーカー（Psychiatric Social Worker：PSW）という名称で知られてきた精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの国家資格として精神保健福祉士が誕生しました。精神保健福祉士は、精神障害者が直面する生活問題や社会問題の解決に向けた援助や、社会参加に向けた支援活動を行う専門職として、多方面での活躍が期待されています。

（1）業務

精神保健福祉士の業務として、精神科医療機関や保健所、その他行政機関、障害福祉サービス事業所などで、社会復帰に関する相談、助言、指導、日常生活への適応訓練、その他の援助を行うことが、法律（精神保健福祉士法）で定められています。

（2）資格

精神保健福祉士の資格は、国家試験に合格し、所定の登録をすることによって得られます。国家試験を受験するためには、国家試験受験資格を取得しなければなりません。ライフデザイン学部では、次頁（4）精神保健福祉士指定科目を修得し、かつ、卒業見込みとなった場合に受験資格を得ることができます（定員40名。超過した場合は選抜を行う。選抜方法については、ガイダンスにて指示します）。

—精神保健福祉士国家試験について—

精神保健福祉士国家試験は、毎年1回、2月上旬の土曜日と日曜日に実施され、3月に合格者発表が行われます。

国家試験の科目は、p.113の科目一覧にある通りです。

（3）科目履修スケジュール

① 1年次9月下旬～10月上旬：精神保健福祉士受験資格取得希望登録票の提出

精神保健福祉士の資格取得を希望する者は、「精神保健福祉士受験資格取得希望登録票」を実習指導室に提出し、登録する必要があります。登録を行わないと「ソーシャルワーク演習（専門）」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク実習（精神）」を履修できません。「ソーシャルワーク実習（精神）」は、精神保健福祉士国家試験の受験資格要件の1つで、原則として4年次に、精神科医療機関、障害福祉サービス事業所などにおいて、28日間の現場実習を行います。

② 3年次：実習配属先の決定

③ 4年次：ソーシャルワーク実習（精神）の実施

(4) 精神保健福祉士指定科目

以下の本学開講科目すべてを修得済みまたは履修中でなければ、精神保健福祉士の受験資格は得られません。指定科目や実習参加条件は、入学年度ごとに異なります。

〈実習参加条件〉

4年次にソーシャルワーク実習（精神）を履修するには、以下の条件を満たさなければなりません。

- ソーシャルワーク実習（精神）（4年次春学期開講）の履修条件として、2年次秋学期終了までに下表「実習参加条件科目（ア）・（イ）」の必要科目をすべて修得していること。

（ア）は13科目を必修、（イ）は12科目の中から6科目を選択必修となります。

ライフデザイン学部規程 別表第8

指定科目	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法	実習参加条件科目 2年次秋学期まで	
					（ア）	（イ）
					13科目	6科目
医学概論	医学概論	1年	2	必修		選必
心理学と心理的支援	心理学	1～4年	2	必修		選必
社会学と社会システム	社会学	1～4年	2	必修		選必
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1年	2	必修	必	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1年	2	必修	必	
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2～3年	2	必修		選必
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2～3年	2	必修		選必
社会保障	社会保障Ⅰ	2～3年	2	必修		選必
	社会保障Ⅱ	2～3年	2	必修		選必
障害者福祉	障害者福祉	1年	2	必修	必	
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2～3年	2	必修		選必
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	2～3年	2	必修		選必
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	1年	2	必修		選必
精神医学と精神医療	精神医学と精神医療Ⅰ	2年	2	必修	必	
	精神医学と精神医療Ⅱ	2年	2	必修	必	
現代の精神保健の課題と支援	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	1年	2	必修	必	
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	1年	2	必修	必	
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1年	2	必修	必	
精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理Ⅰ	2年	2	必修	必	
	精神保健福祉の原理Ⅱ	2年	2	必修	必	
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1年	2	必修		選必
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2年	2	必修		選必
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神）	2年	2	必修	必	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神）	2年	2	必修	必	
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	3年	2	必修		
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	3年	2	必修		
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2年	2	必修	必	
ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神）	3年	2	必修		
	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神）	3年	2	必修		
	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神）	4年	2	必修		
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神）	3年	1	必修		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神）	4年	1	必修		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	4年	1	必修		
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習（精神）	4年	4	必修		
本学における必要単位数合計			67			

(5) 精神保健福祉士受験資格取得スケジュール

下記のスケジュールはあくまでも予定であり、日程が前後することがあります。詳細は掲示や授業時の指示に従ってください。

<1年次>

4月上旬 諸資格ガイダンス（概要説明）



9月下旬 資格ガイダンス



10月上旬 精神保健福祉士受験資格取得希望票提出



※課題レポートの提出

レポート課題「精神保健福祉士の資格取得を目指す理由」

レポート課題「精神保健福祉士の資格取得を目指す理由」
A4用紙を使用してください。文字数は2,000字以上とします（行数等の書式は特に問いません）。提出期日及び場所等については第1回資格ガイダンス時及びToyoNet-ACEを通じて連絡します。本課題の提出は精神保健福祉士の資格取得のためにコース教員が定めた必須条件です。未提出の人、又は期日に間に合わない人は2年次以降の演習科目履修を認めることはできません。取得を希望する人は必ず期日までに提出してください。



10月中旬～ 事前学習会（第1～4回）（10月～1月予定）



2月上旬 個人連絡票提出・締切



2月中旬 春休み施設見学（～3月）

<2年次>

4月中旬 第5回事前学習会

<3年次>

4月上旬 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神）履修



1月下旬 実習先配属面接指導（予定）



3月上旬 実習の参加予定者発表

<4年次>

4月上旬 国家試験対策スタート



ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神）履修



7月中旬 ソーシャルワーク実習（精神）実施（7月～11月予定）



9月下旬 ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）履修



国家試験受験申込（9月下旬～10月上旬）



2月上旬 精神保健福祉士国家試験受験



3月 精神保健福祉士国家試験合格発表

◆ (3) 介護福祉士（生活支援学科生活支援学専攻※介護福祉士コース所属学生のみ） ◆

介護福祉士は、名称独占の国家資格です。1987年5月「社会福祉士及び介護福祉士法」制定、1988年4月施行によって誕生しました。介護福祉士とは、「身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき、心身の状況に応じた介護（喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であって医師の指示の下に行われるもの（厚生労働省令で定めるものに限る：以下略））を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」（社会福祉士及び介護福祉士法）をいいます。

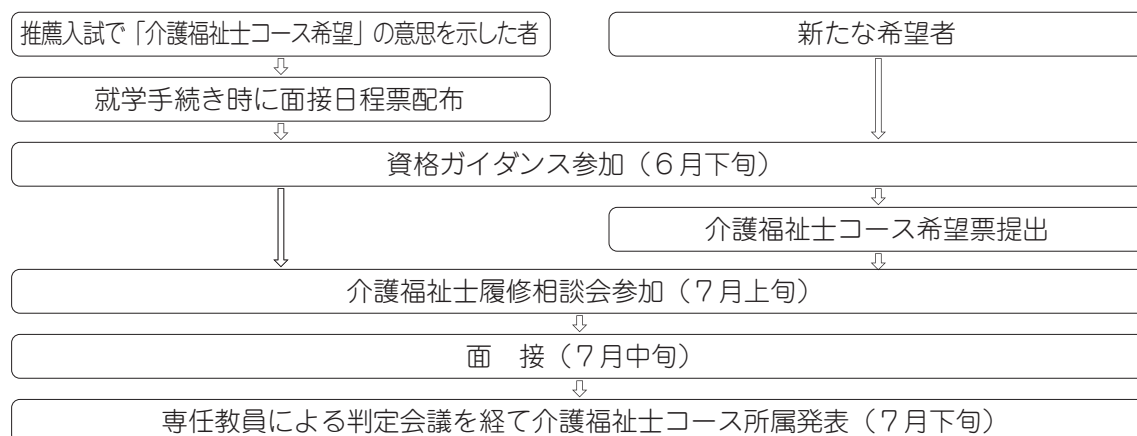
(1) はじめに

本学では、「リーダーとしての介護福祉士（介護総合職）」の育成をめざしています。介護福祉士になるルートにはいくつもありますが、東洋大学では、厚生労働省から介護福祉士養成施設として指定を受け、4年制大学で介護福祉士を養成しています。自立支援や個人の権利の尊重など社会福祉の基礎的な理念をベースとして、介護の知識や技術を基本から丁寧に学びます。介護を組み立てて判断できるように、理論を学びます。例えば、食事介護について、その人が食べたいものを自分で食べられるように支援する方法を学びます。どのように座位姿勢を整えテーブルの高さを調整したらよいか、食器や自助具の選択、嚥下体操、見守りと声のかけ方、観察ポイントを含んで、計画を立案し、チームで、多職種と連携し、総合的な支援を展開していくことのできる介護福祉士の育成をめざしています。食べさせる介護技術を学ぶだけではありません。

(2) 介護福祉士コース所属方法（定員40名）

介護福祉士コースは東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻におかれた特別コースです。介護福祉士コースの定員は40名です。対象となるのは生活支援学科生活支援学専攻の1年生のみとし、その他の学生は選抜対象にはなりません。介護福祉士コース履修者の決定は1年次、入学初年度に行われます。入学初年度以降はコースの履修が認められません。

コース所属方法は下記の通りです。推薦入試で介護福祉コース希望の意思を示した学生は、面接時に意思を再確認します。新たな希望者は希望票を提出してください。



(3) 資格

ライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻介護福祉士コースに所属し、指定された科目の単位を修得して、卒業した者は、介護福祉士国家試験の受験資格を取得できます。本コースでは、卒業時に介護福祉士国家試験を受験し、介護福祉士資格を取得することを支援しています。

(4) 他の資格の取得について

社会福祉士の資格と併せて取得を目指すことは推奨します。ただし、介護福祉士コースに所属する場合、この資格取得のために必要となる単位数が大変多くなるため、他の資格取得等に支障が生じることがあります。特に、精神保健福祉士の資格取得を併せて目指すことは時間割編成上困難です。

(5) 実習・演習

本学の介護福祉士コースの特徴は、1年次から4年次まで毎年積み上げていく介護福祉実習です。小規模多機能・デイサービス・グループホーム・高齢者施設・障害者施設・訪問介護などの多様な実習施設で延べ58日間の実習を行います。実習で担当する「受け持ち事例」を学内で検討し、個別の支援計画を作成し、実践する教育を重視しています。介護福祉士コース授業科目は幅広く、演習や実習は介護福祉士コースの学生だけが履修可能です。介護技術については、技術テストを行って習得をめざします。医療的ケア演習・手話や点字などの授業もあります。

(6) 卒業後の進路

介護福祉士コースの卒業生のうち、80%以上が介護現場に就職しています。介護現場以外では、公務員として福祉職や行政職・警察や消防の分野に、毎年複数名が就職しています。病院の医療ソーシャルワーカー・社会福祉協議会・ホテル・服飾関係の店舗・サービス業・事務職として卒業生が活躍しています。超高齢社会の中で、介護福祉を学んでいる人材は、就職活動にも強いです。介護現場に就職した場合、3年～5年経過すると、サブリーダーや主任となり、新人職員研修担当や、実習指導者となっていきます。相談員に配属され、家族との調整や関係機関調整も担うようになります。新施設の立ち上げや事業の柱として期待される人もいます。5年～7年経過すると、地域包括支援センターへの配属、ケアマネージャーになる人もいます。大学院に進学し、介護福祉学の教員や研究者をめざす人もいます。

(7) コース選択時の注意事項

- 「介護福祉士コース」の学生は、1年次秋学期以降、履修登録単位数の上限が1セメスタあたり28単位（通常の24単位に4単位を追加できる）となります。
- 「介護福祉実習Ⅰ～Ⅳ」は、それぞれ別途履修するための条件があります。
- 介護福祉実習料が別途必要となります。
- 介護福祉士コースの科目「実習指導の理論と方法」（2単位）は法令上、介護福祉士の養成指定科目ではなく、本学において独自に開講している科目です。隔年開講、集中講義、2024年度8月～9月の予定です。
- 介護福祉士コース履修学生はライフデザイン学部生活支援学科の卒業要件（124単位）を満たすだけでなく、介護福祉士養成課程の資格要件の科目も併せて履修が必要です。そのため、通常の卒業単位より30単位以上多くの科目を履修し、また学外実習も、介護実習だけでも450時間以上実施することになります。

(8) 介護福祉実習

介護福祉士国家試験の受験資格を取得するためには、1年次から4年次まで、社会福祉施設・事業所における450時間以上の実習が必要になります。科目の履修にあたっては、下記の履修条件を満たさなければなりません。

科目名	時期	日数	履修条件
介護福祉実習Ⅰ	1年次秋学期	10日間	なし
介護福祉実習Ⅱ	2年次秋学期	18日間	介護福祉実習Ⅰを修得していること
介護福祉実習Ⅲ	3年次春学期	18日間	介護福祉実習Ⅱを修得していること
介護福祉実習Ⅳ	4年次春学期	12日間	介護福祉実習Ⅲを修得していること

(9) 介護総合演習・介護過程

「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」と「介護過程Ⅰ～Ⅳ」は、各科目ひとつひとつの積み上げが必要となる内容となっています。そのため、科目の履修にあたっては、下記の履修条件を満たさなければなりません。

科目名	時期	履修条件
介護総合演習Ⅰ	1年次秋学期	なし
介護総合演習Ⅱ	2年次春学期	介護総合演習Ⅰを修得していること
介護総合演習Ⅲ	2年次秋学期	介護総合演習Ⅱを修得していること
介護総合演習Ⅳ	3年次秋学期	介護総合演習Ⅲを修得していること
科目名	時期	履修条件
介護過程Ⅰ	1年次秋学期	なし
介護過程Ⅱ	2年次秋学期	介護過程Ⅰを修得していること
介護過程Ⅲ	3年次春学期	介護過程Ⅱを修得していること
介護過程Ⅳ	4年次春学期	介護過程Ⅲを修得していること

(6) 介護福祉士コース指定科目

ライフデザイン学部規程 別表第9

介護福祉士国家試験の受験資格を取得するためには、①②の条件をすべて満たさなければなりません。

①下記の科目16単位をすべて修得すること。

領域	教育内容	本学開講科目	配当学年	単位数
人間と社会	人間の尊厳と自立	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1年	2
		心理学	1～4年	2
	人間関係とコミュニケーション	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ(専門)	2年	2
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1年	2
	社会の理解	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1年	2
		社会学	1～4年	2
	人間と社会に関する選択科目	社会保障Ⅰ	2・3年	2
社会保障Ⅱ		2・3年	2	
本学における必要単位数合計				16

②下記の科目をすべて修得すること。

領域	教育内容	本学開講科目	配当学年	単位数	
介護	介護の基本	介護福祉援助概論Ⅰ	1年	2	
		介護福祉援助概論Ⅱ	2年	2	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1年	2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1年	2	
		ケアワーク論	2年	2	
		福祉サービスの組織と経営	2・3年	2	
		介護コミュニケーション技術Ⅰ	2年	2	
	コミュニケーション技術	介護コミュニケーション技術Ⅱ	2年	2	
		生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	1年	1
	生活支援技術Ⅱ		1年	1	
	生活支援技術Ⅲ		2年	1	
	生活支援技術Ⅳ		2年	1	
	生活支援技術Ⅴ		2年	1	
	生活支援技術Ⅵ		2年	1	
	生活支援技術Ⅶ		3年	1	
	生活支援技術Ⅷ		3年	1	
	生活支援技術Ⅸ		4年	1	
	生活支援技術Ⅹ		3年	1	
	介護過程	介護過程Ⅰ	1年	1	
		介護過程Ⅱ	2年	1	
		介護過程Ⅲ	3年	1	
		介護過程Ⅳ	4年	1	
		介護過程の応用	3・4年	1	
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	1年	1	
		介護総合演習Ⅱ	2年	1	
		介護総合演習Ⅲ	2年	1	
		介護総合演習Ⅳ	3年	1	
介護実習	介護福祉実習Ⅰ	1年	2		
	介護福祉実習Ⅱ	2年	3		
	介護福祉実習Ⅲ	3年	3		
	介護福祉実習Ⅳ	4年	2		
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	高齢者福祉	1年	2	
		発達と老化の理解	1～4年	2	
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	1～4年	2	
		認知症の理解Ⅱ	1～4年	2	
	障害の理解	障害者福祉	1年	2	
		権利擁護を支える法制度	2・3年	2	
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	1～4年	2	
こころとからだのしくみⅡ		1～4年	2		
こころとからだのしくみⅢ		1～4年	2		
医療的ケア	医療的ケア	医学概論	1年	2	
		医療的ケアⅠ	3年	2	
		医療的ケアⅡ	3年	2	
		医療的ケアⅢ	4年	2	
実習指導の理論と方法				3・4年	2
本学における必要単位数合計				73	

(6) 介護福祉士受験資格取得スケジュール

下記のスケジュールはあくまでも予定であり、日程が前後することがあります。詳細は掲示や授業時の指示に従ってください。

< 1 年次 >

6月下旬	介護福祉士コース説明会
	↓
7月	介護福祉士コース選抜（相談会・コース希望登録票提出・面接・決定）
	↓
9月下旬	介護総合演習Ⅰ：介護福祉実習Ⅰ 実習事前指導 介護過程Ⅰ：介護福祉実習Ⅰの実習前・実習中・事後指導
	↓
11～12月	介護福祉実習Ⅰ：11月中に2日間+12月中に8日間（合計10日間）
	↓
12月	実習報告会

< 2 年次 >

4月上旬	介護総合演習Ⅱ：介護福祉実習Ⅱの実習事前指導
	↓
9月下旬	介護過程Ⅱ：介護福祉実習Ⅱの実習前・実習中・事後指導 介護総合演習Ⅲ：介護福祉実習Ⅲの実習事前指導
	↓
11～12月	介護福祉実習Ⅱ：18日間
	↓
12月	実習報告会

< 3 年次 >

4月上旬	介護過程Ⅲ：介護福祉実習Ⅲの実習前・実習中・事後指導
	↓
5～6月	介護福祉実習Ⅲ：18日間
	↓
9月下旬	介護過程の応用 介護総合演習Ⅳ：介護福祉実習Ⅳの実習事前指導
	↓
12月	実習報告会

< 4 年次 >

4月下旬	介護過程Ⅳ：介護福祉実習Ⅳの実習前・実習中・事後指導
	↓
5～6月	介護福祉実習Ⅳ：12日間
	↓
8～9月	介護福祉士国家試験受験申し込み
	↓
11月下旬	学力評価試験（日本介護福祉士養成施設協会）受験
	↓
12月	実習報告会
	↓
1月	介護福祉士国家試験受験
	↓
3月	介護福祉士国家試験合格者発表

◆ 〈4〉 保育士（生活支援学科子ども支援学専攻） ◆

保育士は、児童福祉施設において児童の保育に従事するものとされてきました。

しかし、少子化や核家族化の進行、女性の社会進出の本格化、就業形態の多様化、地域の子育て機能の低下など、近年の児童を取りまく家庭や地域の環境は、著しく変化しています。これに伴い、専門性が高く、かつ、多様なサービスに対応することのできる資質の高い保育士が求められるようになりました。

地域の子育て支援の中核を担う専門職としての保育士の重要性を踏まえて、2001年、保育士資格は法定化され、保育士でない者が保育士の名称を使用することはできなくなりました。また、守秘義務や信用失墜行為の禁止などの規定が盛り込まれました。保育士が働く児童福祉施設は、0歳から18歳までの児童を扱い、その種類も多岐にわたります。

保育士資格を取得するためには、厚生労働大臣の指定する保育士養成施設で指定の単位を修得し卒業すること、あるいは保育士試験に合格することが必要です。生活支援学科子ども支援学専攻は、保育士養成施設として、厚生労働省から指定されています。保育士資格を取得した後に、登録することによってはじめて保育士の名称を用いて働くことができます。

(1) 業務

保育士は、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及びその保護者に対する保育に関する指導を行う専門職として法律（児童福祉法）で定められています。保育士の業務は、子どもの「保育」と、「児童の保護者に対する指導」すなわち「保育指導」の2つということになります。保育指導は、保育所をはじめとする児童福祉施設内の子どもの保護者だけでなく、保育所に通っていない地域社会の子どもの保護者への指導等も含まれます。

(2) 資格

ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻に所属し、児童福祉法施行規則により指定された必修科目、選択必修科目、一般教養的科目の単位を修得して卒業した者は、保育士資格を取得できます。

なお、保育士となるには、次に掲げるそれぞれの資格要件を有する者が、都道府県の備える保育士登録簿に氏名、生年月日その他厚生労働省令で定める事項の登録をしなければなりません。

登録の申請は、申請書に戸籍抄本、住民票、申請手数料4,200円（2020年度参考）を添えて、都道府県知事に申請します。登録が完了すると、卒業後に保育士証が交付されます。

(3) 保育士指定科目

保育士資格を取得するためには、下記の①②③の条件をすべて満たさなければなりません。

①必修科目

下記別表第1の科目54単位をすべて修得すること。

(別表第1)

ライフデザイン学部規程 別表第10

省令		本学開講科目	配当学年	単位数
系列	教科目			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	1年	2
	教育原理	教育基礎論	1年	2
	子ども家庭福祉	児童・家庭福祉	1年	2
	社会福祉	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1年	2
	子ども家庭支援論	子ども家庭支援論	4年	2
	社会的養護Ⅰ	社会的養護	1年	2
	保育者論	保育者論	2年	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	発達心理学	1年	2
	子ども家庭支援の心理学	子ども家庭支援の心理学	3年	2
	子どもの理解と援助	子どもの理解と援助	3年	1
	子どもの保健	子どもの保健	2年	2
	子どもの食と栄養	子どもの食と栄養（実習含む）	1年	2

保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	保育カリキュラム論	2年	2	
	保育内容総論	保育内容総論	1年	1	
	保育内容演習	保育内容の指導法（健康）		2年	1
		保育内容の指導法（人間関係）		2年	1
		保育内容の指導法（環境）		3年	1
		保育内容の指導法（言葉）		2年	1
		保育内容の指導法（音楽表現）		3年	1
		保育内容の指導法（造形表現）		2年	1
		保育内容の理解と方法	子どもと健康	1年	1
		子どもと人間関係	1年	1	
		子どもと環境	2年	1	
		子どもと言葉	1年	1	
		子どもと表現Ⅰ	1年	1	
		子どもと表現Ⅱ	1年	1	
	乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰ	2年	2	
	乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱ	4年	1	
	子どもの健康と安全	子どもの健康と安全	3年	1	
	障害児保育	特別支援教育・保育Ⅰ	1年	1	
		特別支援教育・保育Ⅱ	2年	1	
	社会的養護Ⅱ	社会的養護内容	2年	1	
子育て支援	子育て支援	4年	1		
保育実習	保育実習Ⅰ	保育実習ⅠA（施設）	2年	2	
		保育実習ⅠB（保育所）	3年	2	
	保育実習指導Ⅰ	保育実習指導ⅠA（施設）	2年	1	
		保育実習指導ⅠB（保育所）	3年	1	
総合演習	保育実践演習	保育・教職実践演習	4年	2	
本学における必要単位数合計				54	

②選択必修科目

下記別表第2から、「保育実習」3単位を含み、9単位を修得すること。

なお、「保育実習」は、選択必修A「保育実習Ⅱおよび保育実習指導Ⅱ」または選択必修B「保育実習Ⅲおよび保育実習指導Ⅲ」のいずれか選択必修。

（別表第2）

ライフデザイン学部規程 別表第10

省令		本学開講科目	配当学年	単位数
系列	教科目			
保育の本質・目的に関する科目		教育制度論	1年	2
		子どもソーシャルワーク	3年	2
		子どもの権利と教育	1年～4年	2
		国際児童福祉	1年～4年	2
保育の対象の理解に関する科目		保育・教育相談	3年	2
		多文化共生保育・教育	3年	1
		発達心理学専門演習	2年～4年	2
保育の内容・方法に関する科目		保育指導法	3年	2
		多文化共生保育・教育実践	1年～4年	1
		子育て支援実践	1年～4年	1
		音楽表現専門演習	2年～4年	2
		音楽あそびの実践	2年～4年	2
		体育あそびの実践	2年～4年	2
		造形あそびの実践	2年～4年	2
		保育音楽表現技術	2年～4年	2
		保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	保育実習Ⅱ（保育所）
保育実習Ⅲ（施設）	4年			2
保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	保育実習指導Ⅱ（保育所）		4年	1
	保育実習指導Ⅲ（施設）		4年	1
本学における必要単位数合計				9

③一般教養的科目

別表第1、別表第2の他に、下記別表第3に従って単位を修得すること。

(別表第3)

ライフデザイン学部規程 別表第10

省令		本学開講科目	配当学年	単位数	備考	
系列	教科目					
教養科目	外国語、体育以外の科目	文学	1年～4年	2	6単位選択必修	
		文章読解	1年～4年	2		
		国語表現法	1年～4年	2		
		口頭表現法	1年～4年	2		
		レポート・論文のまとめ方	1年～4年	2		
		音楽一般	1年～4年	2		
		美術一般	1年～4年	2		
		哲学	1年～4年	2		
		心理学	1年～4年	2		
		日本国憲法	1年～4年	2		
		社会学	1年～4年	2		
		学校と地域（学校安全を含む）	1年～4年	2		
		外国語	基礎英語演習Ⅰ	1年		1
	基礎英語演習Ⅱ		1年	1		
	応用英語演習Ⅰ		2年	1		
	応用英語演習Ⅱ		2年	1		
	体育に関する実技	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	1単位選択必修	
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1		
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1		
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1		
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1		
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1		
	体育に関する講義	危機管理と救急法	1年～4年	2	2単位選択必修	
		健康教育学	2年～4年	2		
		生涯スポーツ論	3年	2		
	本学における必要単位数合計				11	

※1「健康教育学」・「生涯スポーツ論」は健康スポーツ学科の他学科開放科目となります。

(4) 保育実習

保育実習は、児童福祉法施行規則により指定された必修科目、選択必修科目の中に含まれています。

修得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することが目的です。

保育士国家資格取得のためには、2年次に12日間（保育実習（施設））、3年次に12日間（保育実習（保育所））、4年次に12日間（保育実習（保育所）と保育実習（施設）のどちらか選択）の実習が必要になります。科目の履修にあたっては、下記の条件（法改正のため入学年度により異なります）を満たさなければなりません。なお、学外実習スケジュールは関連法令改正等の理由により変更となる場合があります。

科目名	実習先	時期	日数	履修条件
保育実習ⅠA（施設）	児童福祉施設等	2年次春季休暇	12日間	・保育原理・社会的養護・保育内容総論の単位を修得済みであること。 ・指定の期日までに実習費を納入済みであること。
保育実習ⅠB（保育所）	保育所	3年次夏季休暇	12日間	
選択（どちらかを選択）	保育所	4年次夏季休暇	12日間	
保育実習Ⅱ（保育所）	保育所	4年次夏季休暇	12日間	・保育実習ⅠA（施設）・保育実習ⅠB（保育所）、保育実習指導ⅠA（施設）・保育実習指導ⅠB（保育所）の単位を修得済みであること。 ・指定の期日までに実習費を納入済みであること。
保育実習Ⅲ（施設）	児童福祉施設等、または児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所は除く。）	4年次夏季休暇	12日間	

(5) 保育士資格取得スケジュール

下記のスケジュールはあくまでも予定のため前後する場合があります。詳細は授業時や掲示等の指示に従ってください。

< 1年次 >

4月

1年次 資格ガイダンス／個人票提出

< 2年次 >

4月

2年次 資格ガイダンス



2月

保育実習 I A (施設) 12日間 (2月～3月予定)

< 3年次 >

4月上旬

3年次 資格ガイダンス



5月

保育実習 II (保育所)・保育実習 III (施設) 選択アンケート



8～9月

保育実習 I B (保育所) 12日間 (8月～9月予定)

< 4年次 >

4月上旬

4年次 資格ガイダンス



8～9月

保育実習 II (保育所) 又は保育実習 III (施設) 12日間 (8月～9月予定)



11月上旬

保育士一括登録説明会／一括登録手続き

< 卒業後 >

保育士証の受取 (6月初旬～6月下旬予定)

※登録事務処理センターより発送されます。

◆ 〈5〉 GFI (グループエクササイズフィットネスインストラクター) (生活支援学科・健康スポーツ学科) ◆

(1) 資格の内容

公益社団法人日本フィットネス協会（JAF）は、フィットネス（健康・体力づくり）を目的に集団で行う運動を「グループエクササイズ」と捉え、現在の健康レベルを維持または向上させることを目的として、集団を対象に指導を行う者を「グループエクササイズフィットネスインストラクター（GFI）」と位置づけました。

本学では、GFIのうち、エアロビックダンスエクササイズ指導者資格であるADBI（中級レベル）とADI（上級レベル）の取得が可能です。各資格の特徴は以下の通りです。

●ADBI（中級レベル）

健康体力づくりのための運動指導に必要な専門知識を備え、エアロビックダンスエクササイズの基本動作の見本が正しく示せる実演能力と、グループに対して適切なタイミングで動きの指示ができる能力を有する者に対して認定する。

●ADI（上級レベル）

健康体力づくりのための運動指導に必要な専門知識を備え、運動強度の適切な調節とスムーズな動きのつなぎを考慮したエアロビックダンスエクササイズのプログラミングができ、安全性と効果、動機付けにつながる高いグループ指導能力を有する者に対して認定する。

(2) 指定科目一覧

下記の科目19単位すべて修得しなければなりません。

GFIガイドライン	本学開講科目	配当学年	単位数
フィットネス概論	トレーニング概論	1～4年	2
運動器の基礎解剖学	解剖学	1年	2
運動生理学	運動生理学	2年	2
体力学	測定評価	2～4年	2
トレーニング科学	アスレティックトレーニング論	2～4年	2
運動処方	運動処方	3～4年	2
運動と栄養・体重管理	スポーツと栄養	2～4年	2
心と運動	トレーニング概論	1～4年	—
運動と安全管理、事故・障害の予防	運動傷害と予防	2～4年	2
グループエクササイズ指導理論	エアロビクス基礎実習	1年	1
エアロビックダンスエクササイズ指導理論	エアロビクス指導法	2～4年	1
AD（エアロビックダンスエクササイズ）	エアロビクス実習	1～4年	1
本学における必要単位数合計			19

(3) 資格の取得方法

公益社団法人日本フィットネス協会（JAF）の評価担当者により行われる実技試験（3年次または4年次）に合格し、かつ(2)に示した本学開講科目をすべて履修することにより、筆記試験の受験資格が得られます（受験料は、初回実技試験受験時に17,000円(税込)）。実技・筆記試験合格者にはGFIの登録資格が与えられます（登録料15,400円(税込)）。ADI（上級レベル）合格者は、日本フィットネス協会正会員に入会しなければいけません（入会金及び初年度の年会費は無料(2年目以降は年会費15,000円)）。

なお、ADI（上級レベル）の実技試験を受験するためには、3・4年次の春学期または秋学期に開催される養成講座を受講することが必須となります。詳細は、資格ガイダンス時に確認して下さい。

(4) テキスト購入

GFIの受験を目指す学生は、以下のテキストを購入してください（任意）。

テキストは一般書店での取り扱いがないため、大学での予約販売期間を設けて一括購入します。

全学年の学生が購入できますので、当該資格取得希望者は検討してみてください。詳細はToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gにて掲示します。

(参考)

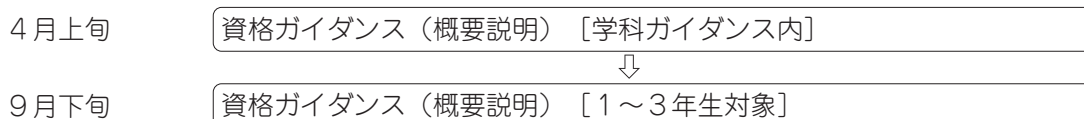
テキスト名	価格（税込）
GFIのためのフィットネス基礎理論	3,080円
GFIのためのグループエクササイズ指導理論	770円
ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論	1,650円

(5) GFI 資格取得スケジュール

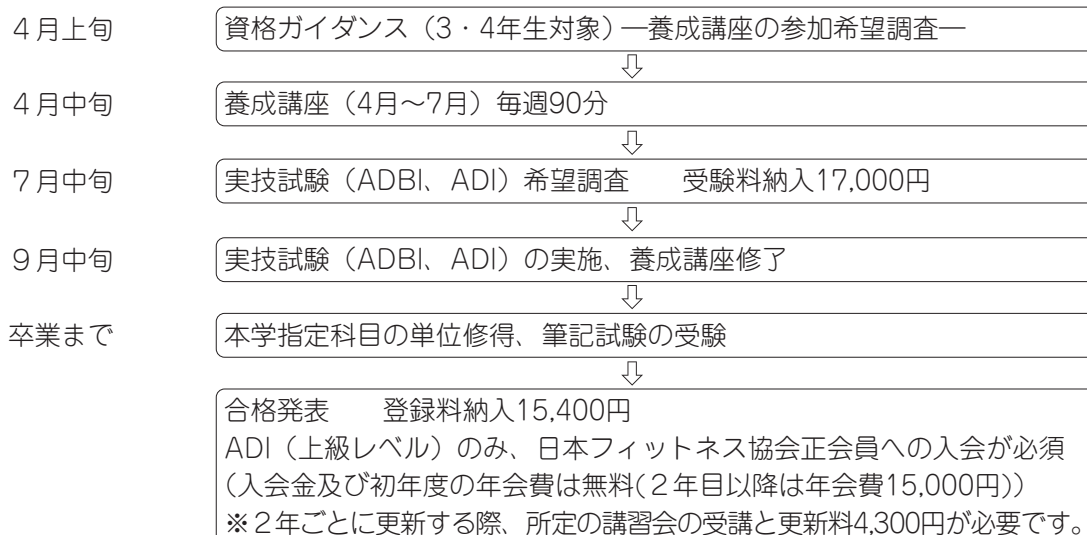
下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。

ガイダンス・諸手続きについては、随時ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gで掲示します。

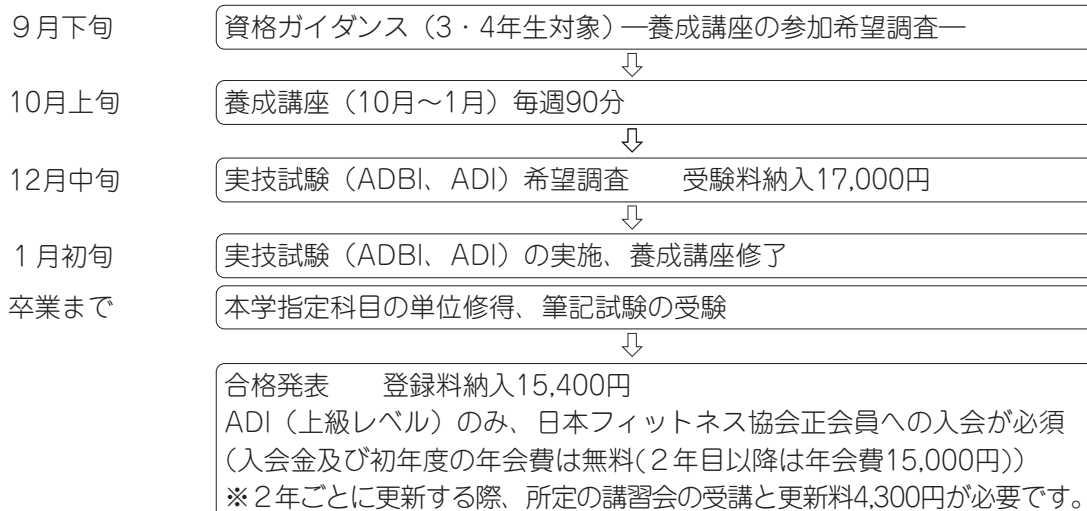
< 1～3年次 >



< 3・4年次 春学期 >



< 3・4年次 秋学期 >



3・4年次の春学期と秋学期については、同一サイクルのスケジュールとなります。
 実技試験受験の機会は年に2回あります。学内筆記試験は年1回（3月）を予定しています。

◆ (6) 健康運動指導士（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

健康運動指導士の役割は、あらゆる人々への安全で効果的な運動プログラムの作成と指導であり、指導中心の健康運動実践指導者と連携した健康づくりのための運動支援です。今日では、メタボリックシンドロームの予防、生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢社会を踏まえた介護予防の運動指導の専門家として必要性が増しており、メディカルスタッフと連携した健康運動指導士への期待が高まっています。

現在、健康運動指導士の約6割は、フィットネスクラブ、医療機関、老人福祉施設、健康増進施設等に就業し、健康づくり関連の業務に従事しています。

(2) 指定科目一覧

下記の本学開講科目をすべて修得しなければなりません。
入学年度により本学における必要単位数が異なります。

科目名	本学開講科目	配当学年	単位数
1. 健康管理概論	健康科学概論	1年	2
	医学概論	1年～4年	2
	スポーツ医学	2年～4年	2
2. 健康づくり施策概論	健康科学概論	1年	—
	測定評価	2年～4年	2
3. 生活習慣病（NCD）	医学概論	1年～4年	—
	スポーツ医学	2年～4年	—
4. 運動生理学	運動生理学	2年	2
	健康科学概論	1年	—
5. 機能解剖とバイオメカニクス （運動・動作の力源）	バイオメカニクス	2年～4年	2
	解剖学	1年	2
6. 健康づくり運動の理論	アスレティックトレーニング論	2年～4年	2
	コーチング概論	2年～4年	2
	発育・発達・加齢論	1年～4年	2
7. 運動障害と予防	スポーツ医学	2年～4年	—
8. 体力測定と評価	測定評価	2年～4年	—
9. 健康づくり運動の実際	トレーニング基礎実習	2年～4年	1
	エアロビクス指導法	2年～4年	1
	アクアビクス指導法	2年～4年	1
	高齢者健康スポーツ指導法	2年～4年	1
	健康産業施設等現場実習	4年	1
10. 救急処置	スポーツ医学	2年～4年	—
11. 運動プログラムの実際	運動処方	3年～4年	2
	高齢者健康スポーツ指導法	2年～4年	—
12. 運動負荷試験	運動負荷試験	3年～4年	2
13. 運動行動変容の理論と実際	健康教育学	2年～4年	2
	高齢者健康スポーツ指導法	2年～4年	—
14. 運動とこころの健康増進	健康科学概論	1年	—
15. 栄養摂取と運動	スポーツと栄養	2年～4年	2
本学における必要単位数合計			33

(3) 資格の取得方法

(2) に示した本学開講科目をすべて修得し、かつ卒業見込みがある場合、「健康運動指導士認定試験」の受験資格を得られます。認定試験に合格し、公益財団法人健康・体力づくり事業財団に登録を行うことにより「健康運動指導士」の資格が取得できます。

(4) 関連科目の紹介 ～履修推奨科目～

健康運動指導士の受験資格を目指す学生に対し、下記の関連科目の履修を推奨しています。

関連科目の修得の有無は受験資格の取得の可否に影響はありませんが、受験資格取得を目指す学生は積極的に履修するよう心がけてください。

No	科目名	配当学年	単位数
1	運動傷害と予防	2～4年	2
2	スポーツトレーニング指導法	2～4年	2
3	危機管理と救急法	1～4年	2

(5) 健康産業施設等現場実習

スポーツクラブや自治体所有の運動施設など、運動指導の現場（健康産業施設等）において7日間の実習を行う必要があります。実習では、運動プログラムの作成と指導について学ぶとともに健康産業施設等における業務全般を体験します。

(6) テキスト購入

健康運動指導士の受験を目指す学生は、以下のテキストを購入してください（任意）。

テキストは一般書店での取扱いがないため、大学で予約販売期間を設けて一括購入します。

全学年の学生が購入できますので、当該資格取得希望者は検討してみてください。詳細はToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gにて掲示します。

(参考) テキスト名 : 健康運動指導士養成講習会（養成校）テキスト

テキスト販売 : 毎年5月頃（予定）

テキスト代 : 1セット16,800円（2020年度参考）

※テキストの内容は年度によって改訂されることがあります。

(7) 健康運動指導士 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。

ガイダンス・諸手続きについては、随時ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gで掲示します。

< 1年次～3年次 >

4月上旬 資格ガイダンス（概要説明） [学科ガイダンス内]



5月中旬 テキスト購入（筆記試験用）

< 4年次 >

6月初旬 希望調査（受験）ガイダンス ※「健康産業施設等現場実習」履修希望者必須



9月下旬 「健康産業施設等現場実習」履修登録 ※履修登録期間に必ず行うこと



10月上旬 健康産業施設等現場実習ガイダンス



10月下旬 現場実習料納入 33,000円



12月下旬 現場実習期間

受験申込ガイダンス



1月 認定試験受験申込手続き 受験料納入 15,714円



2月下旬 卒業・資格単位充足者発表確認



3月下旬 認定試験（学外） ※4月中旬合格発表



< 卒業後 >

4月中旬 合格発表 登録料納入 26,190円（5年間有効）

※5年後に更新する際に、所定の講習会の受講と更新料22,000円が必要です。

※受験料等は、2020年10月1日現在の料金です。

◆ 〈7〉 健康運動実践指導者（生活支援学科・健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

健康運動実践指導者は、健康づくりのための運動指導者に与えられる資格の一つです。医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックダンス、水泳および水中運動等のエアロビック・エクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことが出来ると認められた者に与えられます。

この健康運動実践指導者として登録している人達の主な職場は健康増進センター・保健所・保健センター、病院・老人福祉施設・介護保健施設、アスレチッククラブ・フィットネスクラブなどとなります。この資格を有することにより、健康づくりを目指した運動実践のスペシャリストとして認められ、地方自治体、企業での健康づくりの専門家、福祉施設、病院、アスレチッククラブ等での健康づくりの専門家として就職することが考えられます。

(2) 指定科目一覧

下記の本学開講科目を受験年度の春学期までにすべて修得しなければなりません。

科目名	本学開講科目	配当学年	単位数
1. 健康づくり施策概論	健康科学概論	1年	2
	医学概論	1～4年	2
2. 運動生理学	運動生理学	2年	2
3. 機能的解剖とバイオメカニクス	解剖学	1年	2
	トレーニング概論	1～4年	2
4. 栄養摂取と運動	スポーツと栄養	2～4年	2
5-1. 体力測定と評価（講義）	測定評価	2～4年	2
5-2. 体力測定と評価（実習）	測定評価	2～4年	—
6. 健康づくりと運動プログラム	運動処方	3～4年	2
	運動負荷試験	3～4年	2
7. 運動指導の心理学的基礎	コーチング概論	2～4年	2
8-1. 健康づくり運動の実際 ウォームアップとクールダウン	エアロビクス指導法	2～4年	1
	トレーニング基礎実習	2～4年	1
8-2. 健康づくり運動の実際 ストレッチング	エアロビクス指導法	2～4年	—
8-3. 健康づくり運動の実際 ウォーキングとジョギング	エアロビクス指導法	2～4年	—
8-4. 健康づくり運動の実際 エアロビックダンス	エアロビクス基礎実習	1年	1
8-5. 健康づくり運動の実際 水泳・水中運動	アクアビクス指導法	2～4年	1
8-6. 健康づくり運動の実際 レジスタンスエクササイズ	トレーニング基礎実習	2～4年	—
9. 運動障害と予防・救急処置	スポーツ医学	2～4年	2
本学における必要単位数合計			26

(3) 資格の取得方法

(2) に示した単位をすべて修得することにより「健康運動実践指導者認定試験」の受験資格が得られます。在学中に全ての単位を修得しなければ、養成校において受験資格を得たと認められません。認定試験に合格し、公益財団法人日本健康・体力づくり事業財団に登録を行うことで「健康運動実践指導者」の資格を取得できます。なお、認定試験は3年生以上で必要科目を修得していれば受験することができます。

(4) テキスト購入

健康運動実践指導者の受験を目指す学生は、以下のテキストの購入してください（任意）。

テキストは一般書店での取扱いがないため、大学で予約販売期間を設けて一括購入します。

全学年の学生が購入できますので、当該資格取得希望者は検討してみてください。詳細はToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gにて掲示します。

（参考）テキスト名：健康運動実践指導者用テキスト

テキスト販売：毎年5月頃（予定）

テキスト代：1冊 4,990円（2020年度参考）

※テキストの内容は年度によって改訂されることがあります。

(5) 健康運動実践指導者 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。

詳細は、随時ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月上旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]



9月下旬

資格ガイダンス 1～3年対象

< 3・4年次 >

4月下旬

認定試験受験ガイダンス1（受験希望調査）

5月中旬

テキスト購入



7月中旬

認定試験受験ガイダンス2（受験申込）



9月中旬

認定試験対策講習会実施（学内）



9月下旬

認定試験受験料納入



11月下旬

認定試験 実技試験（学外）



1月下旬

認定試験 筆記試験（学外）

◆ (8) 障がい者スポーツ指導員（生活支援学科・健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

この資格は、障がい者スポーツの指導活動の促進と指導体制を確立するために、1985年に「財団法人日本身体障害者スポーツ協会」（現公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）により制定されました。障がい者スポーツ指導員の種類には、スポーツ指導員（初級・中級・上級）とスポーツコーチが設けられていますが、ライフデザイン学部では初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得することができます。初級障がい者スポーツ指導員の役割は、「高度なスポーツ技術の指導よりも、障がい者の障害内容に基づいた健康や安全管理を重視し、スポーツの喜びや楽しさを理解させることを重点とする」とされています。

障がい者または障がい児の生きがいやQOL（Quality of Life: 人生の質）の向上を考えたとき、レクリエーションやスポーツ活動は非常に重要です。しかし、障がい児・者のための施設などは医療や介護の専門家が中心のことも多く、スポーツに通じた人材が不足しているのが現状です。今後、誰もがスポーツを享受できる社会を創造する上で、広く求められる資格の一つであると考えられています。

(2) 指定科目一覧

下記の科目7単位すべて修得しなければなりません。

指定科目	本学開講科目	配当学年	単位数
障がいの理解とスポーツ ボランティア論	障がい者健康スポーツ論	2～4年	2
障がい者スポーツの意義と理念			
全国障がい者スポーツ大会の概要			
障がい者スポーツ指導者制度について			
安全管理	スポーツ医学	2～4年	2
障がい者福祉施策と障がい者スポーツ	障害者福祉	2・3年	2
障がいに応じたスポーツの工夫・実施	障がい者健康スポーツ指導法	2～4年	1
障がい者との交流	別途指導	—	
本学における必要単位数合計			7

(3) 資格の取得方法

初級スポーツ指導員の資格取得のためには（2）に示した7単位を修得することが必要となります。申請には所定の資格取得申請書の提出および認定・申請手続料9,300円（2020年度参考）が必要です。詳細は、資格ガイダンス時に確認してください。

(4) 障がい者との交流

障がい者との交流とは、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを体験することを目的としており、授業時間外に2時間以上行います。具体的な内容方法、および注意事項等については「障がい者スポーツ指導員」関連科目の授業にて指示します。

(5) 障がい者スポーツ指導員 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
詳細は、随時ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gで掲示します。

< 1年次 >

4月上旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬

資格取得意向調査



1月中旬

申請書提出・申請料納入



2月下旬

卒業単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）



3月下旬

卒業式 資格証授与（申込者のみ）

◆ (9) レクリエーション・インストラクター（生活支援学科・健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

レクリエーション・インストラクターの資格は、公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格制度として1983年にスタートしました。この資格は、(財)日本レクリエーション協会が「課程認定校制度」のなかで公認指導者養成カリキュラムの単位を修得することにより与えられます。レクリエーション・インストラクターは、対象者に合わせた多様なレクリエーション活動を支援する人材として、幼児教育施設、各種スポーツ施設、福祉や医療機関等の様々な領域に有効な資格です。

レクリエーション・インストラクターの資格を取得することにより、自身が生活を楽しむと同時に卒業後の進路において幅広い分野で「レクリエーションの心」、「多くの人との交流」が役に立ちます。

(2) 指定科目一覧

下記の表に従って、5単位を修得しなければなりません。

また、5単位に加えて、単位対象外の現場実習（事業参加）が必須になります。

	必要科目	本学開講科目	配当学年	単位数	備考
理論科目	レクリエーション理論	レクリエーション論	1年	2	必修
実技科目	レクリエーション実技	レクリエーション実習	2年	1	左の科目から1単位以上選択必修
		福祉レクリエーション	2年	2	
実習科目	現場実習 (学外実習)	健康スポーツボランティア活動A	1～4年	2	左の科目から2単位選択必修
		健康スポーツインターンシップA	2～4年	2	
		健康産業施設等現場実習	4年	1	
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2年	2	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	3年	4	
		ソーシャルワーク実習(精神)	4年	4	
		介護福祉実習Ⅰ	1年	2	
		保育実習ⅠA(施設)	2年	2	
		保育実習ⅠB(保育所)	3年	2	
		教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)	4年	5	
		教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)	4年	3	
		教育実習Ⅲ(事前・事後指導を含む)	3年	5	
	養護実習(事前・事後指導を含む)	4年	5		
	現場実習 (事業参加)	各都道府県レクリエーション協会主催事業及び本学指定事業の2回の参加(うち1回は協会主催事業必須)	-	-	参加記録カードを持参し実習に参加すること (※(3)資格の取得方法参照)
本学における必要単位数合計				5	

(3) 資格の取得方法

レクリエーション・インストラクターの資格取得のためには(2)に示した5単位の修得および現場実習(事業参加)への参加が必要となります。

申請には所定の資格取得申請書、「現場実習」事業参加記録カードの提出および認定・申請手数料17,600円(2020年度参考)が必要です。詳細は、資格ガイダンス時に確認してください。

(4) 現場実習(事業参加)

現場実習は、「理論」と「実技」の学習を踏まえて、実際にそれらがどのように実践されているのかということを経験的に学習するために行われます。また、「事業参加」は、学外の行事やイベントに参加し、より実践力を身につけることを目的としたものです。

「事業参加」の具体的な内容や方法、注意事項等は「レクリエーション論」または「レクリエーション実習」「福祉レクリエーション」の授業にて指示します。

事業参加の際には、「現場実習」事業参加記録カードを持参し、主催者より認印をもらう必要があります。参加前に赤羽台事務課教務担当窓口で受取ってください。

(5) レクリエーション・インストラクター 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
詳細は、随時ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月下旬 資格ガイダンス（概要説明） [学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬 資格取得意向調査



1月上旬 申請書・「現場実習」事業参加記録カード提出・申請料納入



2月下旬 卒業単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）



3月下旬 卒業式 資格証授与（申込者のみ）

◆ 〈10〉 第一種衛生管理者（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

衛生管理者制度は、医師だけで事業場の衛生管理を行うことは困難であり、保健指導員を行うことができる専門職が必要であるとの考え方から、1947年の労働基準法の制定によって創設されたものです。衛生管理者は、常時50人以上200人以下の労働者を使用する事業場では1人以上、同様に200人を超え500人以下の労働者を抱える事業場では2人以上の有資格者を置かなければならないと義務づけられています。

第一種衛生管理者の主な職務は、職場における労働衛生の管理、職場における作業環境の管理（有害物質の管理や換気、照明等の日常点検等）、作業管理（労働者の疲労やストレスの把握等）、健康管理（職場における健康診断や健康づくり活動への協力）、労働衛生教育などで、「労働条件、労働環境の衛生的改善と疾病の予防処置等を担当し、事業場の衛生全般の管理をする者」と位置づけられています。第一種衛生管理者は厚生労働省認定の国家資格であり、免許状取得に際しては、在住する都道府県の労働局から授与されます。

(2) 指定科目一覧

下記の表に従って、32単位すべてを修得しなければなりません。

分野	本学開講科目	配当学年	単位数
労働衛生	労働衛生Ⅰ	3・4年	2
	労働衛生Ⅱ	3・4年	2
	公衆衛生学	1年	2
	運動疫学	2～4年	2
	健康科学概論	1年	2
	健康政策と行政	2～4年	2
	スポーツ医学	2～4年	2
労働生理	運動生理学	2年	2
	スポーツ生理学	2～4年	2
	解剖学	1年	2
	人体組織学	1～4年	2
	生理学	1年	2
	生化学	1年	2
関係法令	労働基準法	3・4年	2
	労働安全衛生法Ⅰ	3・4年	2
	労働安全衛生法Ⅱ	3・4年	2
本学における必要単位数合計			32

(3) 資格の取得方法

本学ライフデザイン学部健康スポーツ学科を卒業することと、当該資格取得のための科目のすべてを履修し、その単位修得をすることが必要となります。その上で、所定の手続きを経て、卒業後在住する都道府県の労働局にて申請すると、資格が授与されます。

(4) 第一種衛生管理者 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
 詳細は、随時ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月上旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬

資格取得意向調査



2月下旬

卒業単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）
 「単位修得証明証（第一種衛生管理者用）」の申込（300円）



3月下旬

卒業式 単位修得証明書授与（申込者のみ）



卒業後、各自で住民票のある都道府県の労働局に申請してください。

◆ <11> トレーニング指導者（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会（通称JATI）の認定により、対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導ができることを証明する資格です。トレーニング指導者はその基礎資格として位置づけられ、スポーツ選手や一般人を対象とした指導の専門知識を習得したと認められた者に授与されます。資格取得者は競技スポーツ分野・健康増進分野・教育分野などでの活躍が期待され、卒業後に3年以上の実務経験を積むことで上級試験が受験可能となります。

(2) 指定科目一覧

下記の科目37単位をすべて修得しなければなりません。

	科目名	本学開講科目	配当学年	単位数	備考
一般科目	体力学総論	スポーツ生理学	2～4年	2	
	機能解剖（1）上肢	解剖学	1年	2	
	機能解剖（2）脊柱と胸郭				
	機能解剖（3）骨盤と下肢				
	バイオメカニクス（1）基礎理論	バイオメカニクス	2～4年	2	
	バイオメカニクス（2）スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス				
	運動生理学（1）呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	運動生理学	2年	2	
	運動生理学（2）骨格筋系・神経系・内分泌系と運動				
	運動と栄養（1）基礎理論	スポーツと栄養	2～4年	2	
	運動と栄養（2）スポーツ選手の競技力向上と栄養				
	運動と栄養（3）一般人の健康増進と栄養				
	運動と心理（1）基礎理論	スポーツ心理学	2～4年	2	
	運動と心理（2）スポーツ選手の競技力向上への活用				
	運動と心理（3）一般人の健康増進への活用				
	運動と医学（1）救急処置法	危機管理と救急法	1～4年	2	2科目 必修
		スポーツ応急処置演習	2～4年	2	
	運動と医学（2）スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	スポーツ医学	2～4年	2	2科目 必修
		運動傷害と予防	2～4年	2	
運動と医学（3）生活習慣病とその予防	医学概論	1～4年	2		
運動指導の科学	コーチング概論	2～4年	2		
トレーニング指導者の役割	トレーニング概論	1～4年	2	2科目 必修	
	アスレティックトレーニング論	2～4年	2		
トレーニング計画の立案（総論）	アスレティックトレーニング論 トレーニングプログラミング論	2～4年	-	2	2科目 必修
筋力トレーニングのプログラム作成					
パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成					
有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成					
スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成					
ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成					
特別な対象のためのトレーニングとプログラム					
傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム					
筋力トレーニングの実際	トレーニング基礎実習 スポーツトレーニング指導法	2～4年	1	2	2科目 必修
パワー向上トレーニングの実際					
有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際					
スピード向上トレーニングの実際					
ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際					
トレーニング効果の測定と評価の実際	測定評価	2～4年	2	2科目 必修	
	トレーニングプログラミング論	2～4年	-		
測定データの活用とフィードバックの実際	測定評価	2～4年	-	2科目 必修	
	アスレティックトレーニング論	2～4年	-		
トレーニングの運営	アスレティックトレーニング論	2～4年	-		
運動指導のための情報収集と活用	トレーニング基礎実習	2～4年	-	2科目 必修	
	アスレティックトレーニング論	2～4年	-		
本学における必要単位数合計				37	

(3) 資格の取得方法

必要単位をすべて修得し、特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会が実施する認定試験に合格することで資格が得られます。筆記試験は一般科目90分+専門科目90分のマークシート方式で、受験料は30,000円（税別）です。実技試験はありません。

(4) 資格取得スケジュール

下記のスケジュールは、資格取得スケジュールの参考となります。
詳細は、随時ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gで掲示します。

< 1～3年次 >

4月下旬

資格ガイダンス（概要説明）[学科ガイダンス内]

< 4年次 >

9月下旬

認定試験受験ガイダンス



1月下旬

認定試験受験



2月下旬

単位充足者発表（資格取得条件充足の確認）



3月下旬

卒業式 認定証授与

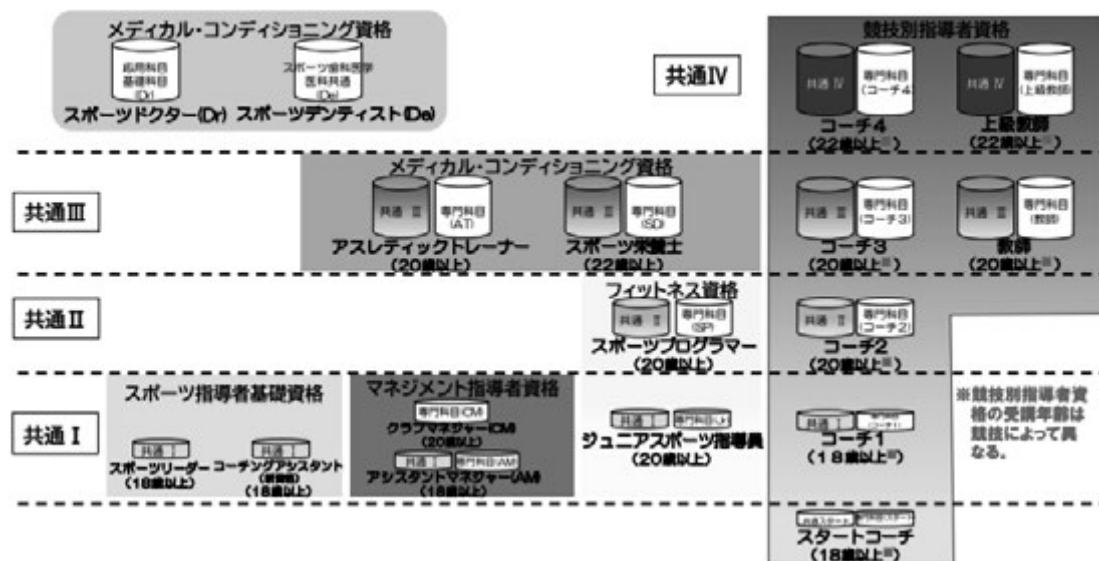
◆ 〈12〉 公認スポーツ指導者（健康スポーツ学科） ◆

(1) 資格の内容

日本スポーツ協会では、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進できるスポーツ指導者を「公認スポーツ指導者」として育成し、望ましい社会の実現に貢献することを目指しています。

本学では「共通Ⅰ・Ⅱ」の受講が免除されるため、指定科目を修得して共通科目検定試験（オンラインテスト）に合格することで「コーチングアシスタント」の資格を取得することができます。これは、地域におけるスポーツグループやサークル等において、上位資格者を補佐する者として、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。

【カリキュラム相関図】



(2) 指定科目一覧

下記の本学開講科目16単位をすべて修得しなければなりません。

共通科目内容	本学開講科目	配当学年	単位数
コーチングを理解しよう			
1. コーチングとは	コーチング概論 スポーツ社会学	2～4年 1年	2 2
2. コーチに求められる役割			
3. コーチに求められる知識とスキル			
4. 対他者力を磨こう			
5. 対自己力を磨こう			
6. スポーツの意義と価値			
7. スポーツの価値を守るスポーツ権			
8. スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー			
9. 暴力・ハラスメントの根絶			
10. スポーツのインテグリティ			
11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任			
12. スポーツ仲裁			
13. スポーツ倫理			
14. 時代をリードするコーチング			
グッドコーチに求められる医・科学知識			
1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	スポーツトレーニング指導法	2～4年	2
2. 体力のトレーニング	アスレティックトレーニング論	2～4年	2
3. スキルトレーニング	コーチング概論	2～4年	1
4. 心のトレーニング	スポーツ心理学	2～4年	2
5. スポーツと栄養	スポーツと栄養	2～4年	2
6. スポーツに関連する医学的知識	スポーツ医学	2～4年	2
7. アンチ・ドーピング	スポーツ社会学	1年	1
現場・環境に応じたコーチング			
1. コーチング環境の特徴	コーチング概論 障がい者健康スポーツ論	2～4年 2～4年	1 2
2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング			
3. スポーツ組織のマネジメント			
4. 障がい者スポーツ			
本学における必要単位数合計			16

(3) 修了要件 *①～③は順に満たす必要があります

- ①指導者マイページ作成・リファレンスブック（税込4,400円）購入
- ②共通科目コース受講完了申請
- ③共通科目検定試験（オンラインテスト）の合格

指定科目の修得が完了した学生について、大学から日本スポーツ協会に受講完了申請

申請期間：8月1日～9月30日、2月1日～3月31日（年2回）



日本スポーツ協会より学生へ共通科目検定試験（オンラインテスト）の案内を送付



登録手続き

(4) 登録料

登録料は4年ごとに4年分を一括納入する必要があり、以下の種類があります。

基本登録料	10,000円／4年間	保有する資格に関わらず一律でかかる登録料
初期登録手数料	3,000円／1資格	その資格を初めて登録する際にかかる手数料
資格別登録料	資格により異なる	保有する資格ごとの登録料

最新情報や申請・登録に関する詳細は、ToyoNet-ACEおよびToyoNet-Gに掲示予定です。
日本スポーツ協会のHPも参照してください（<https://www.japan-sports.or.jp/>）

◆ 〈13〉 建築士（一級・二級・木造）（人間環境デザイン学科） ◆

(1) 資格

一級建築士および二級・木造建築士の資格は、以下の指定科目の単位を修得し、卒業した者が、受験資格を得られます。

①一級建築士

一級建築士は、国土交通大臣管轄の国家資格で、建築物の設計・工事監理をはじめ、建築物の調査鑑定、建築の申請、建築工事の指導監査、法に基づく手続きの代行など、その業務は建築全般に関する広範囲にわたります。一級建築士は建築用途、規模に関わらず設計や工事監理を行うことができます。

②二級建築士

二級建築士は、国土交通大臣管轄の国家資格で、延べ面積500平方メートル以下の建築物の設計、工事監理などの業務を行う建築技術者として認められます。住宅メーカーや建築関連企業などに所属して、住宅や街づくりに関するアイデアを提案・実行することもできます。

③木造建築士

木造建築士は、各都道府県知事が認定する国家資格で、1～2階建てで延べ面積300平方メートル以下の木造建築物の設計・工事監理を行うことができます。

(2) 分野ごとの必要単位数および建築実務経験年数

指定科目	一級建築士			二級・木造建築士		
建築設計製図	7単位			3単位		
建築計画	7単位			2単位		
建築環境工学	2単位					
建築設備	2単位					
構造力学	4単位					
建築一般構造	3単位			3単位		
建築材料	2単位					
建築生産	2単位					
建築法規	1単位			1単位		
(a)指定科目の最低必要単位数	30単位			10単位		
(b)「(a)指定科目の最低必要単位数」を超えた単位数	適宜			適宜		
(a)+(b)=本学における必要単位数	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
建築実務の経験年数 ※	2年	3年	4年	0年	1年	2年

※上記の必要単位数を満たすことにより、卒業後すぐに受験資格を取得することができます。

※修得単位数によって、免許登録に必要な建築実務経験年数が異なります。

(3) 指定科目一覧

下記の表に従って、必要単位を修得してください。

指定科目の分類	本学開講科目	配当学年	単位数
建築設計製図	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2年	3
	空間デザイン演習ⅠA	3年	3
	空間デザイン演習ⅠB	3年	3
	生活環境デザイン演習ⅠB	3年	3
建築計画	建築歴史意匠A	1年	2
	建築歴史意匠B	2年	2
	住居計画	2年	2
	生活空間計画	2年	2
	建築設計論	3・4年	2
	都市計画論	3・4年	2
	建築空間構成論	3・4年	2
	医療福祉建築計画	3・4年	2
建築環境工学	環境計画	2年	2
建築設備	設備計画	3・4年	2
構造力学	構造力学	2年	2
	材料力学	3・4年	2
建築一般構造	構法計画	3・4年	2
	構法計画演習A	3・4年	1
	構法計画演習B	3・4年	1
	木造住宅設計論	3・4年	2
建築材料	材料・素材一般	1年	2
建築生産	建築生産	1年	2
建築法規	建築・都市法規	2年	2
その他	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1年	3
	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1年	3
	ユニバーサルデザイン概論	1年	2
	都市・まちのデザイン	1年	2
	ランドスケープデザイン	3・4年	2
	まちづくり	2年	2
	福祉住環境コーディネータ論	3・4年	2
	建築とまちのUD	3・4年	2
	CAD演習Ⅰ	1年	2
	CAD演習Ⅱ	2年	2
	インテリアデザイン	2年	2
本学における必要単位数合計			※

※修得単位数によって、免許登録に必要な建築実務経験年数が異なります。

※上記の必要単位数を満たすことにより、卒業後すぐに受験資格を取得することができます。

詳細は(2)の「分野ごとの必要単位数および建築実務経験年数」を参照してください。

※空間デザインコースは一級建築士、生活環境コース・プロダクトデザインコースは二級建築士までの受験資格が得られます。

◆ 〈14〉 人間環境デザイン学科で推奨する資格 ◆

人間環境デザイン学科では財団法人建築技術教育普及センターによるインテリアプランナー、社団法人インテリア産業協会によるインテリアコーディネーター、東京商工会議所が認定している福祉住環境コーディネーター、カラーコーディネーター、その他、関連する各種団体が認定しているさまざまな資格取得を推奨しています。

これら資格制度は、毎年少しずつその実施要領が変わっていきますので、受験時における各種試験実施団体・機関の広報に十分注意してください。

1. インテリアプランナー

インテリアプランナーは、財団法人建築技術教育普及センター主催による認定資格で、インテリアの企画・設計から工事監理まで、インテリアデザイン全般に関する業務をトータルに実践する専門家を認定する資格です。受験資格は、卒業後インテリアに関する一定の実務経験を有する者とされています。

2. インテリアコーディネーター

インテリアコーディネーターは、社団法人インテリア産業協会主催による認定資格で、住宅をより美しく暮らしやすい生活の場とするため、家具や住宅設備などのインテリアを選択し、空間のコーディネートを行う専門家です。受験資格は、年齢・性別・学歴・職業・経験を問いませんので、本学在学中より受験可能な資格です。また、夏期休暇中に学内で有料の対策講座を実施しています。

3. 福祉住環境コーディネーター

福祉住環境コーディネーターは、東京商工会議所が主催している検定試験で、住宅のバリアフリー化、福祉用具、介護用品、家具などの商品開発や販売などに関わる技術をもつ資格です。目的は、高齢者や障害者が安心して自立した生活を送れる住環境の整備充実と改善ですが、あらゆる環境に関する知識が問われるので、幅広い知識が必要となります。資格は1～3級まであり、3級は福祉と住環境および関連分野の基礎知識、2級は各専門職と連携して具体的な解決策を提案できる能力が必要とされています。1級は、新築や住宅改修の具体的なプランニングができ、安全で快適なまちづくりへの参画など、広い範囲で活動できる能力が問われます。受験資格は特にありませんが、1級は受験時に2級の資格を取得していることが条件です。

4. カラーコーディネーター

カラーコーディネーターは、東京商工会議所が主催している色彩関連の検定試験で、1～3級があり、3級と2級の検定試験では色彩の物理学や生理学、心理学、測色学といった総合的な知識を問われ、1級は色彩学の応用知識、ファッション色彩、商品色彩、環境色彩の中から一つを選択することになっています。受験資格は特にありません。

5. 福祉情報技術コーディネーター

福祉情報技術コーディネーターは、障害者や高齢者のためのパソコン環境整備と技術指導ができる指導者の能力を認定する試験で、財団法人日本情報学習振興協会が主催しています。資格は1級・2級・3級の3ランクに分かれています。受験資格は18才以上とされています。

6. 宅地建物取引士

宅地建物取引士（宅建）とは、不動産取引において重要事項の説明等を行う国家資格です。1事務所5人に1人の割合で設置が義務付けられている、不動産業界で必須の資格です。近年、不動産の証券化にも見られるように企業を取りまく社会環境が変化していくなか、金融関係や建設関係はもちろんのこと、他業種でも不動産に関する専門知識を要するセクションが多く、企業内での宅建の需要が高まっています。そのため、幅広い業種の就職活動に有利だけでなく、就職してからも広域にわたり有効に活用できる資格です。

◆ 〈15〉 社会福祉主事（全学科） ◆

（1）資格の内容

社会福祉主事は、福祉事務所の相談業務を担当する職員の資格ですが、下記の「社会福祉主事任用資格に関する指定科目」のうちから「3科目以上を修得」した者に任用資格が認められています。しかし、地方公務員として採用されなければ、この資格を生かすことはできません。なお、この資格を基礎とし、実務経験を経れば、児童福祉司等に任用されます。また最近では、民間福祉施設の職員採用条件として、社会福祉主事任用資格が求められることが多くなっています。

（2）資格の取得方法

大学において、社会福祉主事に関する科目を修めて卒業することで得られます。

（3）修得すべき科目

ライフデザイン学部規程 別表第11

下記の社会福祉主事任用資格に関する指定科目のうちから3科目以上を修得する必要があります。

本学開講科目のうち、いずれか1科目修得することで、当該指定科目1科目を修得したとみなされます。ただし、] がついている科目はすべてを履修、修得することで1科目としてみなされます。

指定科目	本学開講科目	単位数	履修方法
社会福祉概論	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	
社会保障論	社会保障Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	社会保障Ⅱ	2	
児童福祉論	児童・家庭福祉	2	
保育理論	保育原理	2	
身体障害者福祉論	障害者福祉	2	
精神障害者保健福祉論	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	精神保健福祉の原理Ⅱ	2	
老人福祉論	高齢者福祉	2	
地域福祉論	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	
法学	法学	2	
経済学	経済学	2	
心理学	心理学	2	
社会学	社会学	2	
公衆衛生学	公衆衛生学	2	
医学一般	医学概論	2	
リハビリテーション論	リハビリテーション論	2	
看護学	看護学Ⅰ	2	
	看護学Ⅱ	2	
	看護学Ⅲ	2	
介護概論	介護福祉援助概論Ⅰ	2	2科目とも修得すること
	介護福祉援助概論Ⅱ	2	
栄養学	生活と栄養	2	

教職課程

◆ライフデザイン学部で取得できる教育職員免許状◆

ライフデザイン学部では、下記の表に記載されている教育職員免許状を取得することができます。教育職員免許状の取得に関しては、所定の手続、指定された科目の単位修得等、条件を満たすことが必須です。手続きに1つでも不備があったり、教育職員免許状取得に必要な科目が1科目でも不足していると、免許状は授与されません。また、必要な科目は、科目履修が可能な学年で早めに履修してください。一度で単位を修得しないと再履修が難しくなり、4年間で免許状を取得できない可能性があります。不明な点がある場合は、赤羽台事務課教務担当窓口にご相談してください。

	生活支援学科 子ども支援学専攻	健康スポーツ 学科	人間環境デザイン 学科	備考	ページ
1. 教育職員免許状					P.150
2. 介護等体験について					P.155
3. 教育実習について					P.156
4. 教育職員免許状取得までの流れ					P.157
5. 教育職員免許状の必要科目（全免許共通）					P.159
幼稚園教諭 1種免許状	○	—	—		P.160
中学校教諭 1種免許状（保健）	—	○	—	※	P.162
高等学校教諭 1種免許状（保健）	—	○	—		P.164
中学校教諭 1種免許状（保健体育）	—	○	—	※	P.166
高等学校教諭 1種免許状（保健体育）	—	○	—		P.168
養護教諭1種	—	○	—		P.170
高等学校教諭 1種免許状（工業）	—	—	○		P.172
高等学校教諭 1種免許状（工芸）	—	—	○		P.174

※ 中学校教諭免許を取得するには、介護等体験への参加が必須（P.155参照）です。

◆教育職員免許状◆

～教職課程を学ぶにあたって～

東洋大学教職センター

本学の学祖井上円了は哲学館の創設にあたり「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間」「社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間」の育成をめざしました。そして特に「教育家と宗教家」の養成に力を入れました。このように本学は創設以来、教員養成を重視し、この分野の伝統と実績を有する大学であり、多くの卒業生が教員として全国の学校で活躍しています。

これから教職課程を履修し、教員免許状を取得して教員になろうと志す学生はまずこのことをしっかりと自覚してください。

言うまでもなく、教員になるためには教員免許状の取得が必要です。免許状の取得に関する諸事項は教育職員免許法に定められており、本学もこれに基づいて教職課程教育を実施しています。教職課程に属する科目の多くは、各学科の卒業に必要な科目とは別に履修し単位を修得しなければなりません。従って、教職課程を履修する学生は、他の学生よりも多くの科目を履修しなければならず、学修に費やす時間もそれだけ多くなります。1年次からの計画的な履修と学修が求められます。その詳細については、教職課程ガイダンスに参加して説明を聞くとともに、この「履修要覧」を熟読してください。教員になるためには、担当する教科に関する知識を豊富に持つことが必要となることは言うまでもありません。しかしそれだけでは教員として十分とは言えません。教員は成長・発達の途上にある児童・生徒を指導し、ともに学ぶ存在です。教員の言動は、時として、子どもの将来を大きく左右することもあります。その意味で教員というのは恐ろしい職業です。しかし同時に、教員は子どもの成長を直接目にし、それを助け、ともに喜び合えるやりがいのある職業でもあります。

ある教育学者が次のようなことを問うています。「あなた（教員）は何の権利があって他人の子どもを教育するなどという大それたことができるのか」。この問いに答えることは簡単ではありません。しかし「他人の子ども」を教育するという「大それた事」を職業とすることを、子どもから、保護者から、そして社会から、許されるだけの準備を大学生活のなかでしておくことが、教員をめざす学生の最低限の義務です。

教員をめざす学生には、大学の授業で学ぶことはもちろん、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイトなど、さまざまな経験をしながら、自分自身を成長させることを期待します。豊かな人間性を持った信頼に足る教員をめざしてください。

(1) 教育職員免許状について

大学卒業後、教員になるためには教育職員免許状を取得しなければなりません。

本学部の各学科において取得できる教育職員免許状は次のとおりです。

学科専攻 免許の種類	生活支援学科 子ども支援学専攻	健康スポーツ学科	人間環境デザイン学科
幼稚園教諭1種	○		
中学校教諭1種		○（保健・保健体育）	
高等学校教諭1種		○（保健・保健体育）	○（工業・工芸）
養護教諭1種		○	

①幼稚園教諭1種免許状

幼稚園とは学校教育法に「幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」を目的と定められている教育機関です。幼稚園教諭は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めなければなりません。家族との連携を図りながら、幼稚園生活を通して生きる力の基礎を育成するように努め、健康、人間関係、言葉、表現、環境の5つの領域に関わる活動を通して、幼児の保育をつかさどるのが幼稚園教諭の仕事となります。また近年では、子どもの保護者や地域の子育ての支援にも従事します。

②中学校教諭1種免許状（保健）、高等学校教諭1種免許状（保健）

保健教育は、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことを目的としています。中学・高等学校では「保健体育」または「保健」として保健体育科教諭が担当しているのが一般的です。しかし、健康問題解決のための保健学習や健康指導が今後さらに必要とされる中で、保健教育が重要視されていくことは明らかです。「保健」の教科教員は保健学習や健康指導における健康教育の専門家として中学校・高等学校で中心的役割を担うこととなります。

③中学校教諭1種免許状（保健体育）、高等学校教諭1種免許状（保健体育）

保健体育では「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ことが目的とされています。保健体育の教員はすべての生徒に対して、「身体運動に親しむ資質や能力を育て、心身の健康の保持増進をはかり、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことが、その職務の中心です。

④養護教諭1種免許状

養護教諭とは、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に勤務し、児童・生徒の健康管理を行ういわゆる「保健室」の先生です。養護教諭は幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に勤務し、「性に関する教育」、「虐待」、「薬物乱用防止」、「感染症」などに対する取り組みを含む幅広い健康相談活動を通して、児童・生徒に「生涯を通じて心身共に健康で生きる力」を育むための指導や教育を行います。また法改正で保健科の教科教育も担当できるようになり、学校保健活動の中心となる教員です。

⑤高等学校教諭1種免許状（工業）

「工業」という教科は、「工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境に配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」ことを目的とされています。工業高校で教員となるために必要となります。

⑥高等学校教諭1種免許状（工芸）

「工芸」という教科は芸術分野に属し、生徒の個性を活かした創造的な活動を行い、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てるために設置されています。具体的には小学校・中学校から連続と続く図画工作・美術の授業の延長線上において、作品を制作することで自己表現をする素晴らしさや、作品を鑑賞することで長い人類の歴史の中ではぐくまれてきた美意識や伝統・文化について指導します。

(2) 教育職員免許状の取得条件について

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格として「学士の学位を有すること」（卒業に必要な単位を修得すること）が要求されます。したがって、教育職員免許状取得のための単位は修得できたものの卒業ができなかったということにならないよう、4年間の履修計画を立ててください。本学では「教育職員免許法」及び同法施行規則に基づいて、教育職員免許状取得に必要な単位が修得できるよう科目を開設しています。

- 近年、教員採用試験等で中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得（見込）していることが採用試験受験の条件、または有利になる傾向があります。したがって、できる限り中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得することが望ましいと考えられます。
- 教育職員免許状を取得するのに必要な科目は、4年間で履修かつ修得できるよう配置されているため、4年間の履修計画を入念に立て、1年次から必要な科目を履修し単位修得してください。
- 2年次ないし3年次から新たに教育職員免許状取得を希望する、または教科を追加する場合は、4年次終了（卒業）までに教育職員免許状を取得することが難しいことを理解してください。

(3) 教職課程登録料について

本学では、通学課程の学部学生が教職課程の履修を希望する場合、教職課程登録料が必要となります。1年次秋学期、所定の期日までに指定された方法で納入してください（P.208参照）。なお、登録料の区分、徴収対象、徴収額および有効期間は以下のとおりです。

	区分	徴収対象	徴収額	有効期間
教職課程登録料	在籍生登録料	東洋大学教職課程の履修を希望する通学課程の学部生及び大学院生	30,000円	学部生は、納入時から卒業年度の3月31日（秋学期卒業生を含む。ただし、春学期卒業生は9月30日）まで。
	卒業生等登録料	東洋大学の卒業生（ただし、退学者及び除籍者を含む。）で、教職支援室の利用等（教職に関するセミナー等への参加を含む。）を希望する者	5,000円（ただし、秋学期からの場合は当該年度のみ2,500円とする。）	納入年度の3月31日まで。

※ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の学生は、教職課程登録料を納入する必要はありません。

※再入学した学生は、在籍時に教職課程登録料を納入している場合は、再度の納入は必要ありません。

※登録料納入後、教職課程を辞退した場合、一度納入された登録料は一切返金できません。

【教職課程登録料納入と教職科目履修の関係について】

教職課程登録料を納入しない場合、以下のような履修制限が生じます。

- ① 2年次以降配当の「教育の基礎的理解に関する科目」を履修することができません。
※ただし、所属学科の学科教育課程に設置されている科目は、履修することができます。
- ② ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻を除く各学科専攻所属の学生は、**介護等体験及び教育実習に参加することができません。**

(4) 教職パスポート

教職課程を履修する学生は4年間の継続的、系統的な学びの流れを目に見える形にした『教職パスポート』を大切に保管・活用することが求められます。1年次秋学期に教職課程登録料納入者に配付する『教職パスポート』は4年間にわたる教職課程の学びを記録し、課題を遂行するために活用するためのものです。紛失や破損の無いように、4年間自己管理を徹底してください。教職関連の各種行事や授業等で記録・活用することになります。この管理と活用が「教職実践演習」履修の条件の一つとなります。なお、2年次終了時点で「教職パスポート」の中間点検を行い、必要に応じて指導・助言を行います。教職への適性が疑われる場合には進路の変更を促すこともあります。そのためしっかりとした自覚をもって学修に取り組んでください。

※教職パスポートを紛失した場合、再発行はできませんので、各自責任を持って管理してください。

(5) 教育実習に関する手続き・掲示について

教育実習に参加する学生は、ToyoNet-ACEに掲示される要領に従い、不備のないよう手続きをしなければなりません。詳細は「教育職員免許状取得までの流れ（P.157～）」を確認してく

ださい。

(6) 教職実践演習について

教育職員免許状取得のためには4年次秋学期の必修科目として「教職実践演習」の履修が必要とされています。この科目は、全学年を通じた教職に関する「学びの軌跡の集大成」と言えるものであり、学生が身に付けた資質・能力が有機的に統合され、教員として最低限必要な資質・能力が形成されたかを確認することを目的としています。しかし、この確認は4年次秋学期になっではじめて行うのではなく、1年次から継続的に自らの教職への意志や適性を問いつづけることで成り立っています。従って、教員をめざす学生は1年次から意識的・意欲的に教職課程の学びを継続し、学修の成果と課題を記録しておくことが求められています。本学では「教職パスポート」を用意してその一助としています。なお、**教職実践演習は教育実習を修得済または履修中であることが履修の条件**となります。

(7) 教育職員免許状一括申請

所定の単位を修得し、所定の手続きを行った学生には、卒業と同時に教育職員免許状が授与されます。本来免許状は各人が大学を卒業後に、その居住する都道府県の教育委員会へ申請をして授与されるものです。しかし卒業と同時に教職に就く学生の便宜を図るため、大学ごとに取りまとめ一括して免許状の申請手続きをすることになっています。4年次に、一括申請手続きについてガイダンスを行いますので、必ず参加してください。

(8) 教員免許状更新制について

教員免許状には10年間の有効期限が設けられており、10年ごとに30時間の免許状更新講習（筆記試験、実技試験等を含む）を受け、修了認定されることによって有効期間が更新されます。免許状を持っているが教育の職についていない者（いわゆるペーパー・ティーチャー）は免許状更新講習を受講することはできません。したがって、教職に就かないまま10年を過ぎると免許状が無効になります。ただし、ペーパー・ティーチャーであった者が教職に就く見通しが立った場合には、講習を受けて修了を認定された後、免許状の再交付を受けることができます。

教職課程の履修に際しては、教育職員免許状の制度が大きく変わったことをよく理解して、自分自身の教職に対する意志を再確認してください。

(9) 休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について

在学中に休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合は、教育実習・介護等体験等の実施時期や教育職員免許状の取得時期が通常の学生より1～2年遅くなることがあるので、必ず事前に赤羽台事務課教務担当窓口まで相談に来てください。

(10) 教職に関する就職支援について

教職支援室において以下の様な支援を行います。

- ・採用試験対策講座
 - ・模擬試験関連情報提供・模擬面接
 - ・専門スタッフによる教育職員希望者への就職指導
- ※各講座の開催・申請時期等については掲示等を確認してください。
 ※開室時間は掲示板・本学webサイトで確認してください。

(11) 教員採用試験について

教育職員免許状を取得した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要があります。

出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は教育委員会・学校によって異なるので、教員採用試験の実施要綱の取り寄せと応募は各自で行ってください。実施要綱が大学に届いた場合は、掲示板・ToyoNet-ACEにて随時周知します。

教員採用試験（第1次・第2次）に合格した場合は必ず赤羽台事務課教務担当窓口に届け出て

ください。

①公立学校の教員採用

公立学校の教員になるためには、まずは各都道府県または市の教育委員会が実施する採用試験に合格し、採用候補者の名簿に登録される必要があります。名簿の中からその年度の欠員状況、教員組織の状況などを考慮して選定され、採用が決定します。

②私立学校の教員採用

各都道府県の私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を基に採用を行う場合と公募制による採用があります。「私立学校教員適性検査」は採用試験ではなく、適性検査を受けた受検者の氏名と評価等が記載された名簿を基にして、教員の採用を行っていくものです。ただし、検査を実施する都道府県にある私立学校全てが「私立学校教員適性検査」の結果を基に教員募集を行っているとは限りません。

(12) 科目等履修生制度について

将来、教員を目指す学生で、学部卒業までに教育職員免許状を取得するために必要な単位を修得できなかった場合や、すでに教育職員免許状を取得していて、卒業後、新たに別教科の教育職員免許状を取得したい場合は、科目等履修生として必要な単位を修得し教育職員免許状を取得することができます。

希望者は、必ず当該年度の名募集要項を確認のうえ出願してください。なお、本学で取得可能な教育職員免許状に必要な科目がすべて科目等履修生に開講しているとは限らないので注意してください。

科目等履修生に関するスケジュール（詳細は当該年度の募集要項で確認してください）

2月上旬～中旬 科目等履修生募集要項・ダウンロード開始

2月上旬～ 履修科目の相談（赤羽台事務課教務担当窓口）

3月上旬～中旬 出願（赤羽台事務課教務担当窓口）

3月下旬 試験・合格発表

4月上旬 就学手続

※募集要項は、インターネットで閲覧・出力できます（「東洋大学 科目等履修生」でキーワード検索してください）。出願にあたっての履修科目については、事前に赤羽台事務課教務担当窓口にご相談してください。

※介護等体験のみの履修はできません。

(13) 教職課程を履修する学生への連絡・伝達について

教職に関する事項（各種説明会・手続き・発表・呼び出し等）はすべてToyoNet-ACEにてお知らせします。必ず確認してください。

◆介護等体験について◆

中学校の免許希望者（中学校教諭1種免許状（保健）・（保健体育））は、教職に必要な科目の修得、卒業要件の充足の他に、介護等体験を行い、受入先からの体験を行った証明が必要となります。介護等体験とは、3年次に特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の計7日間にわたり、高齢者や障がい者に対する介護、介助、交流等を体験するものです。この体験を行うには、大学を通して申し込みをしなければなりません。概要は以下の通りです。

(1) 参加条件

以下の条件を1つでも満たさない場合は、介護等体験に参加することができません。

- ①介護等体験に積極的に参加する意欲があること。
- ②すべての介護等体験説明会に出席し、手続きをすべて行うこと。
- ③実施年度の4月に大学の定期健康診断を受診し異常なしと診断され、心身ともに健康であること。
- ④麻疹（はしか）および風疹の抗体検査の結果で十分な免疫があると認められた者もしくは必要な予防接種を受けていることが確認できた者。
- ⑤介護等体験料を所定の期日までに納入していること。
- ⑥指定された体験日程で介護等体験に参加できること。
- ⑦妊娠中もしくは出産して1年以内でないこと。（母体保護のため）
- ⑧その他、必要な手続きのすべてを完了していること。

(2) 体験日程

受入先の都合を考慮したうえ東京都教育委員会および東京都社会福祉協議会が希望者一人ひとりの日程と受入先を調整・決定します。個人的な事情や要望（サークル、アルバイト、海外留学、就職活動等）による日程・受入先の指定や変更（また、このことに関する個人交渉）・辞退は一切できません。参加を希望する者はこの点を了承し、自分の都合を調整したうえで体験に臨んでください。

- ①日程：授業期間だけではなく夏季・冬季休暇期間・土・日・祝祭日を含む日程で行います。
- ②体験先：いずれも東京都に所在する学校・施設で行います。体験希望者が多いため、現住所に近い場所で行えるとは限りません。

(3) 体験先

<特別支援学校>

視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。）に対して、小中学校等に準ずる教育を行うとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする学校。在籍する児童生徒等に対する教育を行うほか、障がいにより教育上特別の支援を必要とする小中学校等の児童生徒等の教育に関し、必要な助言又は援助を行います。

<社会福祉施設>

- ・高齢者にかかわる施設
- ・児童福祉・障がい児にかかわる施設
- ・障がい者（身体、知的、精神障がい者）にかかわる施設
- ・生活保護にかかわる施設

(4) 体験内容

- ・学校、施設の利用者の介護・介助（入浴・排泄等含む）
 - ・学校、施設の利用者との交流（話し相手）、学習活動の指導・援助
 - ・学校、施設が実施する行事（学園祭・バザー・遠足、サークル活動等）の補助
 - ・学校、施設の掃除、洗濯等の作業
- 特別支援学校事例…授業参観・作業学習補助・学校行事補助等（プール実習・マラソン大会等）
社会福祉施設事例…車椅子補助・点字の勉強・送迎バスへの添乗・サークル活動の補助等

◆教育実習について◆

教育実習は、大学で学んだ教育理論や技術をもとに、教育実習校（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）での実習を通じて、教育の意味や学校教育の全領域について学習するものです。「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」（中学校教諭1種対象者）、「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」（高等学校教諭1種対象者）、「養護実習」（養護教諭1種対象者）のいずれかを4年次に履修、「教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）」（幼稚園教諭1種対象者）を3年次に履修します。4月から事前指導が行われ、ほとんどの学生が、6月頃から実際に学校現場に赴き、幼稚園教諭免許状取得の場合は4週間、中学校教諭・養護教諭の免許状取得の場合は3週間（学校によって4週間の場合もある）、高等学校教諭の免許状取得の場合は2週間の教育実習を行います。教育実習終了後、教育実習事後指導として、学生の実習体験発表、実習感想文の提出、アンケート調査などによって、教育実習の成果を振り返り、教員として必要な資質能力が培えたかどうかを確認します。教育実習は勤務という形態で行われるため、本学では教育実習期間中、教育実習に専念することなどの内容を含む誓約書に署名・捺印の上、提出した学生のみ教育実習への参加を認めています。実習期間中に就職活動をするような時間的・精神的余裕は全くありません。教職という仕事の重要性を認識し、実習期間中は就職活動などは中止し、実習に専念してください。

(1)「教育実習（事前・事後指導を含む）」の履修条件

以下の①②の条件をすべて満たさなければ、教育実習（事前・事後指導を含む）を履修することはできません。

- ①中学校教諭、養護教諭、高等学校教諭：3年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で卒業に必要な単位数を100単位以上修得していること。
幼稚園教諭：3年春学期終了の時点（教育実習に参加する前学期）で卒業に必要な単位数を100単位以上修得していること。
- ②3年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で、以下の条件を全て満たしていること。
 - a. 1～3年次に配当された「教育の基礎的理解に関する科目」および「教科及び教科の指導法に関する科目等」の必修科目のうち●のついた科目をすべて修得していること。
※幼稚園教育実習の場合は、対象外です。
 - b. 「保健体育（中学校教諭および高等学校教諭）」の免許状希望者については、「教科及び教科の指導法に関する科目」の教育職員免許状施行規則に定める科目区分ごとに指定されている選択必修科目の条件を満たしていること。※該当する学生は、P.166～169を必ず確認してください。

(2) 教育実習参加条件

以下の①～⑧の条件をすべて満たさなければ、教育実習に参加することはできません。

- ①教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。
 - ②教育実習指導教員の指導のもとに、教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。
 - ③大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
 - ④大学の行う定期健康診断を受診し、異常の指摘があれば対処されていること。
※大学で実施される健康診断を受診できない場合、医療機関で受診し、その結果を実習開始以前に大学に提出しなければなりません。
 - ⑤麻疹（はしか）、風疹に関する感染予防条件1または2を満たす。
 - 1 麻疹（はしか）および風疹の予防接種を2回以上実施していることが記録で確認される者
 - 2 予防接種歴が2回以上確認できない感染症に対しては抗体検査の結果で十分な免疫があると認められた者。
- ※医学的理由等で予防接種が出来ない者はその理由を申し出ること。
- ⑥妊娠中もしくは出産して1年以内でないこと（母体保護のため）。
 - ⑦教育実習料を納入していること。
 - ⑧大学指定の誓約書に署名・捺印の上提出したもの。
※学業成績・学修態度等から総合的にみて、教育職員として適格性を欠くと本学において判定さ

れた場合、実習参加を認めないこともあります。これらの判定のために、教育実習の実施に先立って、担当教員と面接等を行う場合もあります。「教育実習Ⅰ・Ⅱ」については、履修する学生自身で実習校（出身校など）を開拓することになります。実習校の内諾を得ることができなかった者、教育実習に関する所定の手続きをしていない者及び、教育実習費を納入していない者は、教育実習への参加を認めません。

◆教育職員免許状取得までの流れ◆

下記のスケジュールはあくまでも予定であり、時期が前後することがあります。日程は必ずToyoNet-ACEを確認してください。また、在学中に休学や留学等で長期間大学へ通学することができない場合は実習時期や教育職員免許状取得時期が異なりますので、事前に赤羽台事務課教務担当窓口にご相談してください。

【免許種別凡例】

幼…幼稚園教諭1種免許状 中…中学校教諭1種免許状 高…高等学校教諭1種免許状
 養…養護教諭1種免許状

※ガイダンスおよび説明会への遅刻・欠席、また必要な手続きを行わなかった場合、教職課程の継続ができなくなります。ToyoNet-ACEのお知らせ、履修要覧を自己責任のもと確認し、不備の無いよう手続きを行ってください。

また、教育実習の内諾後の辞退・介護等体験の申込後の辞退や一度納入した教職課程登録料、介護等体験実習料、教育実習料の返金は一切できません。

学年	時期	内容	特記事項	免許種別
1年	4月	教職課程ガイダンス ・教職課程とは ・教職課程希望者登録	参加必須	中・高・養
	秋学期	教職課程登録ガイダンス ・教職課程登録料・教職パスポートの配付について →以後、追加・変更・辞退の際は必ず届け出ること。	参加必須	中・高・養
	秋学期成績発表後	教職課程登録料納入・教職パスポート受領 (P.162参照)	締切厳守	中・高・養
2年	3月～4月	スポーツ実習・指導法希望科目調査 →「保健体育」希望者のみ	参加必須	中・高 (保健体育)
	12月	介護等体験第1回説明会 ・体験概要・申し込み前の注意事項 ・今後の手続きの説明・参加希望者登録	参加必須	中
	1月	教職パスポート中間点検説明会	参加必須	中・高・養
	2月上旬	教職パスポート中間点検 提出	締切厳守	中・高・養
3年	3月～4月初旬	定期健康診断受診	受診必須	幼・中・高・養
		教育（養護）実習事務手続き説明会 ・次年度教育（養護）実習内諾について	参加必須	中・高・養
		介護等体験第2回説明会 ・介護等体験上の注意・申込受付・体験料納入	参加必須 締切厳守	中
	4月中旬	介護等体験一括申込 (大学→社会福祉協議会、埼玉県教育委員会)		中
	4月中旬	教育（養護）実習内諾予定校の登録 教育（養護）実習登録票の提出	締切厳守	中・高・養
	4月以降	教育（養護）実習校への内諾依頼 (各自出身校等へ次年度実習の依頼に行くこと)		中・高・養

学年	時 期	内 容	特記事項	免許種別
3年	5月下旬	介護等体験事前学習会	参加必須	中
	6月上旬	介護等体験第3回説明会 ・体験受入先決定・受入連絡票の配付 ・体験日時および必要事項（細菌検査の有無、体験の準備等）の確認	参加必須	中
	6月以降	介護等体験開始	参加必須	中
		介護等体験日誌提出 →体験終了後2週間以内	締切厳守	中
		介護等体験証明書受取（施設→学生） ※教育職員免許状一括申請（4年次11月）まで各自大切に保管しておくこと 教育実習受入内諾書の確認（地方校）		中
	秋学期	教育実習Ⅲ 開始	参加必須	幼
		教育実習日誌の提出	締切厳守	
	9月中旬	教育実習希望調書の提出（東京都公立学校教育実習希望者のみ）	締切厳守	中・高・養
	11月～12月	看護学実習（養護のみ）	参加必須	養
	12月	教育実習校の発表（東京都公立学校）		中・高・養
1月下旬	次年度教育実習事前説明会 ・誓約書について・春休みの過ごし方について	参加必須	中・高・養	
3月初旬	成績発表・教育実習参加条件充足者発表		中・高・養	
4年	3月～4月初旬	定期健康診断の受診	受診必須	幼・中・高・養
		教育（養護）実習直前説明会 ・実習直前の心構え・実習上の注意事項 ・実習校持参書類の配布 ・誓約書の提出	参加必須	中・高
	4月中旬	教育実習料納入（自動証明書発行機）	締切厳守	中・高・養
		教育実習受入承諾書の確認 ・打合せ日・実習期間・教科等最終確認		中・高・養
		訪問指導校の掲示		中・高
	4月～12月頃	教育実習Ⅰ・Ⅱ、養護実習開始	参加必須	中・高・養
		教育（養護）実習日誌の提出 →実習終了後1ヶ月以内	締切厳守	中・高・養
	11月～12月頃	教育職員免許状一括申請説明会 ・申請免許状の申込み ・介護等体験証明書の提出（中学校のみ） ・申請料の納入（自動証明書発行機）	参加必須 締切厳守	幼・中・高・養
2月	単位充足者発表・資格取得者発表		幼・中・高・養	
卒業式当日	教育職員免許状授与（交付） ※印鑑（スタンプ印不可）を持参すること	参加必須	幼・中・高・養	

◆教育職員免許状の必要科目（全免許共通）◆

それぞれの免許・区分ごとに、下表に従って、単位を修得しなければなりません。

基礎資格と免許法における最低修得単位数（免許法第5条別表第1、免許法施行規則第2・4・5・9条）

免許状の種類	基礎資格	免許法における最低修得単位数						
		領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目	そのほか
幼稚園教諭1種免許状	学士の学位を有すること	16	10	4	7	14	8	

免許状の種類	基礎資格	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目	そのほか
								介護等体験
中学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	28	10	10	7	4	8	介護等体験
高等学校教諭1種免許状		24	10	8	5	12	8	

免許状の種類	基礎資格	養護に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目	そのほか
養護教諭1種免許状	学士の学位を有すること	28	8	6	7	7	8	

※上記の「免許法における最低修得単位数」と、「本学における最低修得単位数」は異なります。

※本学の学生は、「本学における最低修得単位数」を修得しなければなりません。次頁以降の「教科及び教科の指導法に関する科目」「養護に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」一覧表で確認してください。

※「領域及び保育内容の指導法に関する科目」「教科及び教科の指導法に関する科目」「養護に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目等」の余剰分（免許法における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数）は「大学が独自に設定する科目」として換算することができます。

「領域及び保育内容の指導法に関する科目」「教科及び教科の指導法に関する科目」、「養護に関する科目」および「教育の基礎的理解に関する科目等」一覧表の注意事項

「○」「●」のついている科目は、免許取得のための必修科目です。

○：免許取得のための必修科目

●：3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

高等学校教諭1種免許状（工業）免許を希望する際の注意事項

免許法施行規則第5条表備考6により、「教科及び教科の指導法に関する科目」の余剰分（免許法における最低修得単位数を超えて修得した科目の単位数）は、「教育の基礎的理解に関する科目等」として換算することができます。

極端な場合、「教育の基礎的理解に関する科目等」を全く履修することなしに、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位を59単位と、「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の単位を修得するだけで免許状を取得することができますが、「教育の基礎的理解に関する科目」等の単位を修得しておくことが望まれます。

なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」の免許法における最低修得単位数（23単位）以上に修得した単位数を「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位数として換算することはできませんので、注意してください。

—幼稚園教諭 1 種免許状（子ども支援学専攻の学生のみ）—

① 領域及び保育内容の指導法に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	○子どもと健康	1年	1	必修
		人間関係	○子どもと人間関係	1年	1	必修
		環境	○子どもと環境	2年	1	必修
		言葉	○子どもと言葉	1年	1	必修
		表現	○子どもと表現Ⅰ	1年	1	必修
	○子どもと表現Ⅱ		1年	1	必修	
	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	10	○保育内容総論	1年	1	必修
			○多文化共生保育・教育	3年	1	必修
			○保育指導法	3年	2	必修
			○保育内容の指導法(健康)	2年	1	必修
			○保育内容の指導法(人間関係)	2年	1	必修
			○保育内容の指導法(環境)	3年	1	必修
			○保育内容の指導法(言葉)	2年	1	必修
			○保育内容の指導法(音楽表現)	3年	1	必修
			○保育内容の指導法(造形表現)	2年	1	必修
体育あそびの実践			2年～4年	2		
音楽あそびの実践	2年～4年	2				
造形あそびの実践	2年～4年	2				
小計		16	-	-	-	

○は免許取得のための必修科目

② 教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	14	○教育基礎論	1年	2	必修
	教育の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○保育者論	2年	2	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		○教育制度論	1年	2	必修
	幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○幼児教育論	1年	2	必修
			○教育心理学	2年	1	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○発達心理学	1年	2	必修
			○特別支援教育・保育Ⅰ	1年	1	必修
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	特別支援教育・保育Ⅱ	2年	1			
	○保育カリキュラム論	2年	2	必修		
各学域の専門的知識の習得	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	5	○幼児教育方法(情報機器の活用を含む)	3年	2	必修
	幼児理解の理論及び方法		○子どもの理解と援助	3年	1	必修
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○保育・教育相談	3年	2	必修
教育実習に関する科目	教育実習	7	○教育実習Ⅲ(事前・事後指導を含む)	3年	5	必修
	教職実習演習		○保育・教職実践演習	4年	2	必修
小計		26	-	-	-	

○は免許取得のための必修科目

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	保育原理	1年	2	
		子ども家庭支援の心理学	3年	2	
		子どもと文学	1年～4年	2	
		国語表現法	1年～4年	2	
		生活と総合学習	1年～4年	2	
		子どもの権利と教育	1年～4年	2	
		子育て支援実践	1年～4年	1	
		多文化共生保育・教育実践	1年～4年	1	
小計	-	-	-	-	
合計	51	①、②、③の合計で51単位を修得すること。			

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
		生涯スポーツ論	1年	2	
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

—中学校教諭 1 種免許状（保健）（健康スポーツ学科の学生のみ）—

①教科及び教科の指導法に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	左記に対応する本学開講科目			
			授業科目	配当学年	単位数	履修方法
教科に関する専門的事項	生理学・栄養学	10	●生理学	1年	2	必修
			●生化学	1年	2	必修
			生理・生化学実習	2年	1	選択必修
			○運動生理学	2年	2	必修
			○スポーツ生理学	2年～4年	2	必修
			運動生理学実習	2年	1	選択必修
			スポーツと栄養	2年～4年	2	選択必修
			測定評価	2年～4年	2	選択必修
	衛生学・公衆衛生学	2	●生活と栄養	1年～3年	2	必修
			●公衆衛生学	1年	2	必修
			運動疫学	2年～4年	2	選択必修
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	6	●公衆衛生学実習	2年	1	選択必修
			●小児保健（含学校保健）	2年～3年	2	必修
			●精神保健Ⅰ	1年	2	必修
			精神保健Ⅱ	1年	2	選択必修
発育・発達・加齢論			1年	2	選択必修	
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	8	●危機管理と救急法	1年～3年	2	必修	
		●保健科教育論Ⅰ	2年	2	必修	
		●保健科教育論Ⅱ	2年	2	必修	
		●保健科指導法Ⅰ	3年	2	必修	
		●保健科指導法Ⅱ	3年	2	必修	
小計	28	-	-	-	-	

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

②教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	12	●教育基礎論	1年	2	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		●教職概論	1年	2	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		●教育制度論	1年	2	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		●教育心理学	1年	2	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		●特別支援教育基礎論	1年～4年	2	必修
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		●教育課程総論	1年	2	必修
	道徳の理論及び指導法		●道徳教育論	3年	2	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	10	●特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1年	2	必修
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		●教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	3年	2	必修
	生徒指導の理論及び方法		●生徒指導論（進路指導論を含む）	2年	2	必修
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		●教育相談	2年	2	必修
教育実践に関する科目	教育実習	7	○教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）	4年	5	必修
	教職実践演習		○教職実践演習（中・高）	4年	2	必修
小計	29	-	-	29	-	

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	人権と生活	1年～4年	2	
		教職インターンシップA	3年	2	
		教職インターンシップB	3年	2	
小計	-	-	-	-	

合計	59	①、②、③の合計で59単位を修得すること。			
----	----	-----------------------	--	--	--

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
		生涯スポーツ論	1年	2	
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

— 高等学校教諭 1 種免許状（保健）（健康スポーツ学科の学生のみ） —

① 教科及び教科の指導法に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教科に関する専門的事項	「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」	14	●生理学	1年	2	必修
			●生化学	1年	2	必修
			生理・生化学実習	2年	1	
			○運動生理学	2年	2	必修
			○スポーツ生理学	2年～4年	2	必修
			運動生理学実習	2年	1	
			スポーツと栄養	2年～4年	2	
			測定評価	2年～4年	2	
			●生活と栄養	1年～3年	2	必修
			●解剖学	1年	2	必修
			●人体組織学	1年～3年	2	必修
			解剖学実習	2年	1	
	機能解剖学	2年～4年	2			
	衛生学・公衆衛生学	2	●公衆衛生学	1年	2	必修
			運動疫学	2年～4年	2	
			公衆衛生学実習	2年	1	
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	6	●小児保健（含学校保健）	2年～3年	2	必修
			●精神保健Ⅰ	1年	2	必修
			精神保健Ⅱ	1年	2	
発育・発達・加齢論			1年	2		
●危機管理と救急法			1年～3年	2	必修	
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	保健科教育論Ⅰ	2年	2		
		保健科教育論Ⅱ	2年	2		
		●保健科指導法Ⅰ	3年	2	必修	
		●保健科指導法Ⅱ	3年	2	必修	
小計		26	-	-	-	-

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

② 教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	12	●教育基礎論	1年	2	必修
			●教職概論	1年	2	必修
			●教育制度論	1年	2	必修
			●教育心理学	1年	2	必修
			●特別支援教育基礎論	1年～4年	2	必修
			●教育課程総論	1年	2	必修
			総合的な学習の時間の指導法 及び生徒指導、教育相談に関する科目	8	●特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1年
●教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む。）	3年	2			必修	
●生徒指導の理論及び方法	2年	2			必修	
●教育相談	2年	2			必修	
教育実践に関する科目	5	教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）※	4年	5	いずれか1科目選択必修	
		教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4年	3		
		○教職実践演習（中・高）	4年	2	必修	
小計		25	-	-	-	-

※ 高等学校教諭の免許状申請の際には3単位として申請

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	人権と生活	1年～4年	2	
		教職インターンシップA	3年	2	
		教職インターンシップB	3年	2	
		道徳教育論	3年	2	
小計	-	-	-	-	
合計	59	①、②、③の合計で59単位を修得すること。			

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
生涯スポーツ論	1年	2			
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

—中学校教諭1種免許状（保健体育）（健康スポーツ学科の学生のみ）—

①教科及び教科の指導法に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教科に関する専門的事項	体育実技	7	●スポーツ実習・指導法（水泳）	2年	1	必修
			●スポーツ実習・指導法（陸上）	3年	1	必修
			●スポーツ実習・指導法（器械運動）	3年	1	必修
			●スポーツ実習・指導法（サッカー）	2年	1	2科目選択必修
			●スポーツ実習・指導法（バレーボール）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（テニス）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（バドミントン）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（剣道）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（柔道）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（ダンス）	2年	1	
			●エアロピクス指導法	2年～3年	1	1科目選択必修
	●アクアピクス指導法	2年～4年	1			
	レクリエーション実習	2年	1			
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	4	●スポーツ心理学	2年～3年	2	必修
			●運動学（運動方法学を含む。）	1年	2	必修
	生理学（運動生理学を含む。）	10	●生理学	1年	2	必修
			●生化学	1年	2	必修
			生理・生化学実習	2年	1	
○運動生理学			2年	2	必修	
○スポーツ生理学			2年～4年	2	必修	
運動生理学実習			2年	1		
測定評価			2年～4年	2		
スポーツと栄養			2年～4年	2		
衛生学・公衆衛生学	2	●生活と栄養	1年～3年	2	必修	
		●公衆衛生学	1年	2	必修	
		運動疫学	2年～4年	2		
公衆衛生学実習	2年	1				
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	6	●小児保健（含学校保健）	2年～3年	2	必修	
		●精神保健Ⅰ	1年	2	必修	
		精神保健Ⅱ	1年	2		
		発達・発達・加齢論	1年	2		
		●危機管理と救急法	1年～3年	2	必修	
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	8	●保健体育科教育法Ⅰ	2年	2	必修	
		●保健体育科教育法Ⅱ	2年	2	必修	
		●保健体育科指導法Ⅰ	3年	2	必修	
		●保健体育科指導法Ⅱ	3年	2	必修	
小計	37	-	-	-	-	

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

②教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	12	●教育基礎論	1年	2	必修
			●教職概論	1年	2	必修
			●教育制度論	1年	2	必修
			●教育心理学	1年	2	必修
			●特別支援教育基礎論	1年～4年	2	必修
			●教育課程総論	1年	2	必修
			各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	10	●道徳教育論	3年
●特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1年	2			必修	
●教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む。）	3年	2			必修	
●生徒指導論（進路指導論を含む。）	2年	2			必修	
教育実践に関する科目	7	●教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	2年	2	必修	
		○教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）	4年	5	必修	
○教職実践演習（中・高）	4年	2	必修			
小計	29	-	-	-	-	

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	人権と生活	1年～4年	2	
		教職インターンシップA	3年	2	
		教職インターンシップB	3年	2	
小計	-	-	-	-	

合計	66	①、②、③の合計で66単位を修得すること。			
----	----	-----------------------	--	--	--

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
		生涯スポーツ論	1年	2	
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

— 高等学校教諭1種免許状（保健体育）（健康スポーツ学科の学生のみ） —

① 教科及び教科の指導法に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教科に関する専門的事項	体育実技	7	●スポーツ実習・指導法（水泳）	2年	1	必修
			●スポーツ実習・指導法（陸上）	3年	1	必修
			●スポーツ実習・指導法（器械運動）	3年	1	必修
			●スポーツ実習・指導法（サッカー）	2年	1	2科目選択必修
			●スポーツ実習・指導法（バレーボール）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（テニス）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（バドミントン）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（剣道）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（柔道）	2年	1	
			●スポーツ実習・指導法（ダンス）	2年	1	
			●エアロピクス指導法	2年～3年	1	1科目選択必修
	●アクアピクス指導法	2年～4年	1			
	レクリエーション実習	2年	1			
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	4	●スポーツ心理学	2年～3年	2	必修
			●運動学（運動方法学を含む。）	1年	2	必修
	生理学（運動生理学を含む。）	14	●生理学	1年	2	必修
			●生化学	1年	2	必修
			生理・生化学実習	2年	1	
			○運動生理学	2年	2	必修
○スポーツ生理学			2年～4年	2	必修	
運動生理学実習			2年	1		
測定評価			2年～4年	2		
スポーツと栄養			2年～4年	2		
●生活と栄養			1年～3年	2	必修	
●解剖学			1年	2	必修	
●人体組織学			1年～3年	2	必修	
解剖学実習			2年	1		
機能解剖学			2年～4年	2		
衛生学・公衆衛生学			2	●公衆衛生学	1年	2
	運動疫学	2年～4年		2		
	公衆衛生学実習	2年		1		
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	6	●小児保健（含学校保健）	2年～3年	2	必修	
		●精神保健Ⅰ	1年	2	必修	
		精神保健Ⅱ	1年	2	必修	
		発育・発達・加齢論	1年	2	必修	
		●危機管理と救急法	1年～3年	2	必修	
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	保健体育科教育法Ⅰ	2年	2		
		保健体育科教育法Ⅱ	2年	2		
		●保健体育科指導法Ⅰ	3年	2	必修	
		●保健体育科指導法Ⅱ	3年	2	必修	
小計		37	-	-	-	-

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目
○は免許取得のための必修科目

② 教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	12	●教育基礎論	1年	2	必修
			●教職概論	1年	2	必修
			●教育制度論	1年	2	必修
			●教育心理学	1年	2	必修
			●特別支援教育基礎論	1年～4年	2	必修
			●教育課程総論	1年	2	必修
			総合的な学習の時間の指導法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	8	●特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1年
●教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	3年	2			必修	
●生徒指導論（進路指導論を含む）	2年	2			必修	
●教育相談	2年	2			必修	
教育実践に関する科目	5	教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）※	4年	5	いずれか1科目選択必修	
		教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4年	3		
		○教職実践演習（中・高）	4年	2		必修
小計		25	-	-	-	-

※ 高等学校教諭の免許状申請の際には3単位として申請
●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目
○は免許取得のための必修科目

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	人権と生活	1年～4年	2	
		教職インターンシップA	3年	2	
		教職インターンシップB	3年	2	
		道徳教育論	3年	2	
小計	-	-	-	-	
合計	62	①、②、③の合計で62単位を修得すること。			

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
生涯スポーツ論	1年	2			
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

— 養護教諭 1 種免許状（健康スポーツ学科の学生のみ） —

① 養護に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	4	●公衆衛生学	1年	2	必修
		●運動疫学	2年～4年	2	
		●公衆衛生学実習	2年	1	
学校保健	2	●医学概論	1年～3年	2	必修
		●小児保健（含学校保健） 発育・発達・加齢論	2年～3年	2	必修
養護概説	2	●養護概説	1年	2	必修
健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	2	●健康科学概論	1年	2	必修
		●ヘルスプロモーション論	1年	2	
栄養学（食品学を含む。）	2	●スポーツと栄養	2年～4年	2	
		●生活と栄養	1年～3年	2	必修
解剖学・生理学	12	●解剖学	1年	2	必修
		●人体組織学	1年～3年	2	必修
		●解剖学実習	2年	1	
		●生理学	1年	2	必修
		●生化学	1年	2	必修
		●生理・生化学実習	2年	1	
		○運動生理学	2年	2	必修
		○スポーツ生理学	2年～4年	2	必修
		●運動生理学実習	2年	1	
		●機能解剖学	2年～4年	2	
「微生物学、免疫学、薬理概論」	2	●免疫と薬理	1年～3年	2	必修
精神保健	2	●精神保健Ⅰ	1年	2	必修
		●精神保健Ⅱ	1年	2	
看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	10	●看護学Ⅰ	1年	2	必修
		●看護学Ⅱ	2年	2	必修
		●看護学Ⅲ	2年	2	必修
		●看護学実習	3年	2	必修
		●危機管理と救急法	1年～3年	2	必修
免許法における最低修得単位数	38	本学における最低修得単位数合計		38	

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

※ 「看護学実習」を履修するためには、「看護学Ⅰ」、「看護学Ⅱ」、「看護学Ⅲ」を事前に修得している必要があります

② 教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第 6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	12	●教育基礎論	1年	2	必修
		●教職概論	1年	2	必修
		●教育制度論	1年	2	必修
		●教育心理学	1年	2	必修
		●特別支援教育基礎論	1年～4年	2	必修
		●教育課程総論（養護教諭）	2年	2	必修
		●特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1年	2	必修
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	●道徳教育論	3年	2	必修
		●教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む。）	3年	2	必修
		●生徒指導論（進路指導論を含む）	2年	2	必修
		●教育相談	2年	2	必修
		○養護実習（事前・事後指導を含む）	4年	5	必修
教育実践に関する科目	9	●養護実習基礎演習	3年	2	必修
		○教職実践演習（養護教諭）	4年	2	必修
小計	31	-	-	-	

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目

○は免許取得のための必修科目

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	人権と生活	1年～4年	2	
		教職インターンシップA	3年	2	
		教職インターンシップB	3年	2	
小計	-	-	-	-	

合計	69	①、②、③の合計で69単位を修得すること。			
----	----	-----------------------	--	--	--

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位以上を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
		生涯スポーツ論	1年	2	
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

—高等学校教諭1種免許状（工業）（人間環境デザイン学科の学生のみ）—

①教科及び教科の指導法に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	4	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1年	3	選択必修
			人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2年	3	選択必修
			○人間工学	2年	2	必修
			都市・まちのデザイン	1年	2	選択必修
			建築生産	1年	2	選択必修
			材料・素材一般	1年	2	選択必修
			住居計画	2年	2	選択必修
			生活空間計画	2年	2	選択必修
			コンピュータ・グラフィックス	2年	2	選択必修
			環境計画	2年	2	選択必修
			ヒューマンインターフェース	2年	2	選択必修
			○安全工学	3年～4年	2	必修
			空間デザイン演習ⅠA	3年	3	選択必修
			空間デザイン演習ⅠB	3年	3	選択必修
			空間デザイン演習ⅡA	4年	2	選択必修
			空間デザイン演習ⅡB	4年	2	選択必修
			構造力学	2年	2	選択必修
			建築空間構成論	3年～4年	2	選択必修
			構法計画	3年～4年	2	選択必修
			構法計画演習A	3年～4年	1	選択必修
			ランドスケープデザイン	3年～4年	2	選択必修
			設備計画	3年～4年	2	選択必修
			材料力学	3年～4年	2	選択必修
			生活環境デザイン演習ⅠA	3年	3	選択必修
			生活環境デザイン演習ⅠB	3年	3	選択必修
			生活環境デザイン演習ⅡA	4年	2	選択必修
			生活環境デザイン演習ⅡB	4年	2	選択必修
リハビリテーション工学	3年～4年	2	選択必修			
福祉デザイン工学概論	2年	2	選択必修			
福祉デザイン工学各論	3年～4年	2	選択必修			
職業指導	4	○職業指導Ⅰ	3年～4年	2	必修	
		○職業指導Ⅱ	3年～4年	2	必修	
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	工業科指導法Ⅰ	2年	2
			工業科指導法Ⅱ	2年	2	※
合計		24	-	-	-	-

○は免許取得のための必修科目

②教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	12	教育基礎論	1年	2	※
			教職概論	1年	2	※
			教育制度論	1年	2	※
			教育心理学	1年	2	※
			特別支援教育基礎論	1年～4年	2	※
			教育課程総論	1年	2	※
			総合的な学習の時間の指導法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	8	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1年
教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	3年	2			※	
生徒指導論（進路指導論を含む）	2年	2			※	
教育相談	2年	2			※	
教育実践に関する科目	5	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4年	3	※	
		教職実践演習（中・高）	4年	2	※	
小計		25	-	-	-	-

※ 免許法施行規則第5条表備考6により、工業の普通免許状の授与を受ける場合は、当分の間、各教科の指導法に関する科目、教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の全部又は一部の単位は、当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	道徳教育論	3年	2	
小計	-	-	-	-	

合計	59	①、②、③の合計で59単位を修得すること。			
----	----	-----------------------	--	--	--

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
生涯スポーツ論	1年	2			
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

—高等学校教諭1種免許状（工芸）（人間環境デザイン学科の学生のみ）—

①教科及び教科の指導法に関する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教科に関する専門的事項	図法・製図	2	○人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1年	3	必修
			CAD演習Ⅰ	1年	2	選択必修
			CAD演習Ⅱ	2年	2	選択必修
	デザイン	2	○人間環境デザイン総合演習	2年	3	必修
			製品と情報のUD	1年	2	選択必修
			建築歴史意匠A	1年	2	選択必修
			建築歴史意匠B	2年	2	選択必修
			建築設計論	3年～4年	2	選択必修
			情報デザインⅠ	2年	2	選択必修
			情報デザインⅡ	3年～4年	2	選択必修
			情報メディアデザイン	3年～4年	2	選択必修
	工芸制作（プロダクト制作を含む。）	2	●プロダクトデザイン基礎	1年	2	必修
			産業とプロダクトデザイン	3年	2	選択必修
			プロダクトデザインⅠ	3年～4年	2	選択必修
			プロダクトデザインⅡ	3年～4年	2	選択必修
			プロダクトデザイン演習ⅠA	3年	3	選択必修
			プロダクトデザイン演習ⅠB	3年	3	選択必修
			プロダクトデザイン演習ⅡA	4年	2	選択必修
	プロダクトデザイン演習ⅡB	4年	2	選択必修		
	工芸理論・デザイン理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。）	2	人間環境デザイン学概論	1年	2	選択必修
ユニバーサルデザイン概論			1年	2	選択必修	
●美術一般			1年～3年	2	必修	
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	●工芸科指導法Ⅰ	3年	2	必修	
		●工芸科指導法Ⅱ	3年	2	必修	
合計		24	-	-	-	-

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目
○は免許取得のための必修科目

②教育の基礎的理解に関する科目等

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分		最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	12	●教育基礎論	1年	2	必修
			●教職概論	1年	2	必修
			●教育制度論	1年	2	必修
			●教育心理学	1年	2	必修
			●特別支援教育基礎論	1年～4年	2	必修
			●教育課程総論	1年	2	必修
学生指導・教職実践に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	8	●特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1年	2	必修
			●教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	3年	2	必修
			●生徒指導論（進路指導論を含む）	2年	2	必修
			●教育相談	2年	2	必修
教職実践に関する科目	教育実習 教職実践演習	5	○教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4年	3	必修
			○教職実践演習（中・高）	4年	2	必修
小計		25	-	-	-	-

●は3年次終了（教育実習に参加する前年度）までに修得する必修科目
○は免許取得のための必修科目

③大学が独自に設定する科目

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	-	道徳教育論	3年	2	
小計	-	-	-	-	

合計	59	①、②、③の合計で59単位を修得すること。			
----	----	-----------------------	--	--	--

④「免許法施行規則第66条の6に定める科目」(全免許共通)

ライフデザイン学部規程 別表第6

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2	○日本国憲法	1年～4年	2	必修
体育	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1年～4年	1	これら8科目より2単位選択必修。ただし、スポーツ健康科学実技ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBから必ず1単位を修得すること。
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1年～4年	1	
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1年～4年	1	
		健康教育学	2年～4年	2	
生涯スポーツ論	1年	2			
外国語コミュニケーション	2	基礎英語演習Ⅰ	1年	1	選択必修
		基礎英語演習Ⅱ	1年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅰ	2年	1	選択必修
		応用英語演習Ⅱ	2年	1	選択必修
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1年	2	選択必修
		情報リテラシーⅡ	1年～4年	2	選択必修

国際交流・国際教育 プログラム



TGLプログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために、「異文化環境における英語運用表現能力」、「文化的な価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに認定要件を定め、各要件を満たした学生をToyo Global Leaderとして認定します。

◆認定要件◆

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力 (TOEIC [®] L&R)	730点	590点	—
(2) 外国語による授業科目の修得	40単位	20単位	10単位
(3) 外国語による卒業論文等執筆	必須	—	—
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを必須	—
(5) 海外アクティビティ	必須		—
(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ	必須 (運営)	必須 (参加)	必須 (参加)
(7) Toyo Global (TG) ポイント	30ポイント	20ポイント	10ポイント

◆認定要件について◆

(1) 英語能力

英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC[®]L&R (公開テストおよびIPテスト)のほか、TOEFL iBT[®]、TOEFL ITP[®]、IELTS[™]のスコアをTOEIC[®]L&Rスコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りします。

(2) 外国語による授業科目の修得

開講言語が外国語の授業科目および基盤教育の語学科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。

(3) 外国語による論文等執筆

下記 a. b. c. のいずれかに当てはまる論文等を執筆し、a. b. については、指導教員の確認書と共に提出することで認定します。

- a. 言語を問わず執筆した卒業論文等の英文要旨もしくは英語で執筆した卒業論文等
- b. 授業内で各言語 (日本語を除く) により作成し提出された論文等
※外国人留学生については日本語 (母語以外) での執筆も認める。
- c. 国際教育センターで設定したテーマに基づいた英語の課題論文

(4) 海外留学・インターンシップ

海外での活動が連続で3週間 (現地入国から出国までが21日間) 以上の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(5) 海外アクティビティ

上記 (4) に該当しない、海外での活動が連続で1週間 (現地入国から出国までが7日間) 以上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

- (6) 東洋グローバルリーダー（TGL）キャンプ
本学で実施する「東洋グローバルリーダー（TGL）キャンプ」への参加（または運営チームとしての参加）により認められます。
- (7) Toyo Global（TG）ポイント
国内外の国際交流活動（海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等）および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

◆TGLプログラムの仕組み◆

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダー（TGL）キャンプに参加した。

認定要件	結果
(6) 東洋グローバルリーダー（TGL）キャンプ	⇒ 認定（参加）
(7) Toyo Global（TG）ポイント	⇒ 2ポイント付与

<例>

交換留学で1年間海外渡航（TOEFL ITP[®] 550点を保有）。

留学先機関で英語による専門科目5科目を修得、東洋大学で5科目×2単位=10単位が認定された。

また、留学中1週間のボランティア活動に従事し、「短期海外実習Ⅰ」（1単位）が認定された。

認定要件	結果
(1) 英語能力（TOEIC [®] L&R）	⇒ 認定（730点に換算）
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒ 11単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒ 要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒ 要件クリア
(7) Toyo Global（TG）ポイント	⇒ 35ポイント付与

プログラムの詳細はToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS（国際交流情報）」コース内、「東洋グローバルリーダー（TGL）プログラム」を確認してください。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577



【TGLプログラム問い合わせ先】

国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス 8号館1階）

E-mail: ml-tgl@toyo.jp、Tel：03-3945-8536



◆海外留学・派遣プログラムの概要◆

本学には、休学することなく参加できる海外留学・研修プログラムを豊富に用意しています。プログラムの概要は以下のとおりです。

プログラム名	①交換留学	②認定留学	③協定校 語学留学	④語学 セミナー	⑤海外インターンシップ ・ボランティア	⑥国連ユースボランティア ・ワシントンセンター	⑦Diversity Voyage	⑧日本語 パートナーズ
留学形態	学部留学* ¹		語学留学* ²		—	—	—	—
期間	1学期 または1年* ³		3～6ヶ月	3～4週間	2～6週間	3～5ヶ月	約10日間	6～11ヶ月
出発時期	第I期：2～3月 第II期：8～9月	留学先大学により 異なる	春学期：2～3月 秋学期：8～9月	夏季および 春季休暇中		9～10月	夏季および 春季休暇中	5～9月
語学条件	あり		なし		あり		なし	
単位	単位認定申請可* ⁴				履修登録対象* ⁵	単位認定申請可* ⁴	履修登録対象* ⁵	—
東洋大学留学 奨学金(給付型)	あり			なし				
東洋大学海外留学 促進奨学金(給付型)	グローバルリーダー型 トップ大学型		アクティブ型	チャレンジ型	アクティブ型		なし	

プログラムの内容等は変更になる場合があります。

*1 学部留学

現地で正規課程の科目を履修及び修得することを目的とする留学

*2 語学留学

海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学

*3 1年

留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで1年間の留学期間を指す言葉として使用しています。

*4 単位認定申請可

留学先大学等で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。

*5 履修登録対象

該当する本学の開講科目を履修登録できます。

◆各種留学・研修プログラムの種類◆

①交換留学

本学が学生交換協定を締結している協定校あるいは海外学生交換コンソーシアム（ISEP・UMAP等）に加盟する大学へ、1学期間または1年間留学するプログラムです。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先大学の授業料は免除となり、留学期間に応じて奨学金が給付されます。留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。

②認定留学

本学協定校の他、学位授与権のある大学へ1学期間または1年間留学するプログラムで、留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。国や地域は問いません。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先機関の授業料は自己負担となりますが、留学期間に応じて奨学金が給付されます。

大学への出願・入学手続きは原則各自で行うため、留学に先立って自ら十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが重要です。

③協定校語学留学

本学の海外協定校附属の語学学校へ、3ヶ月から6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、語学を学びながら様々なアクティビティやホームステイ等を通じた異文化体験をします。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、条件を満たした場合、奨学金が給付されます。また、東洋大学を休学することなく留学できます。

④語学セミナー

夏季および春季休暇を利用した短期語学研修プログラムです。語学研修、アクティビティ、ホームステイ等を通じた語学力の向上と異文化理解を目的としています。

⑤海外インターンシップ・ボランティア

グローバル社会で活躍するために必要となる英語力・異文化理解力・社会人マナーなどの社会人基礎力を育成し、世界に羽ばたく学生を育てることを目的としたプログラムです。夏季および春季休暇を利用し、2～6週間研修を行います。語学力の向上に加え、各国の経済状況や文化風習の違いを“働く”という社会生活を通じて体験し、今後の学生生活とキャリア形成に生かすことができます。

⑥国連ユースボランティア・ワシントンセンター（TWC）

- ・国際ユースボランティア（UNYV）

国連ボランティア計画（UNV）のコーディネートの下、開発途上国の国連事務所や政府機関でユースボランティアとして、約5ヶ月間働く長期インターンシップです。現地国連スタッフと共に広報活動やフィールドワーク等の業務に携わりながら、高度なキャリア意識やリーダーシップを養うプログラムです。

- ・ワシントンセンター（TWC）

アメリカの首都であるワシントンDC周辺の公的機関、NPO、企業などで15週間の就労体験と夜間に行われる授業を通じ国際的感覚を身につけ、将来のグローバルリーダーを育てるプログラムです。

⑦Diversity Voyage

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）が行う、夏季および春季休暇を利用した短期間の海外研修です。海外で現地学生等と英語でコミュニケーションを取りながら共創・協働することで、語学力のみならず「多様性適応力」を育みます。

⑧日本語パートナーズ

約半年～1年間、アジアの中学・高校などの日本語教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行うプログラムです。

- 各プログラムの詳細は大学HPを確認してください。

国際交流「海外留学を希望する方へ」

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/>



海外留学・研修プログラム向け給付型奨学金

東洋大学では、多くの学生が海外留学・研修プログラムに参加できるよう、充実した奨学金を用意しています（プログラムや語学スコアに応じ7万円～300万円を給付）。

- －東洋大学留学奨学金
- －東洋大学海外留学促進奨学金

その他、民間団体などによる奨学金もあります。

各奨学金の要件や金額は変更になる可能性があります。

詳細や最新情報は国際教育センターHPで確認してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/scholarship/>



各留学・派遣プログラムの詳細については、「国際教育センター」のHP及び留学を希望する年度の国際交流プログラムパンフレットを参照してください。

○単位認定について

派遣留学生は、留学先大学で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。単位の認定は、留学先における履修科目の内容および時間数が本学開講の対応科目と合致することが条件です。そのためには留学前に指導教員、学部教員、および赤羽台事務課教務担当者と留学中の学習計画について十分に話し合いをしておくことが重要です。単位認定は、教授会の審議を経て決定されます。

○認定の基準

1. 留学先大学等で授与された単位数にかかわらず、履修した科目の授業内容および総時間数を考慮して行います。
2. 原則として、授業内容が本学開講科目と同様である必要があります。

○認定の事前相談

単位認定の対象科目については、留学出願前に赤羽台事務課教務担当窓口で確認を行って下さい。



！赤羽台事務課教務担当窓口での事前相談について！

交換留学、認定留学および協定校語学留学に出願する学生は、留学終了（帰国）後に最短で卒業および諸資格取得を可能にするため、不明な点がある場合は必ず留学出願前に赤羽台事務課教務担当窓口で相談してください。また、帰国後の履修手続きについて注意すべき点（継続履修および学年進行に関わる科目、帰国後の授業科目の履修・成績（卒業要件、資格取得要件等））がありますので、留学決定後にも必ずすみやかに赤羽台事務課教務担当窓口で相談してください。

- ・海外留学・研修プログラムについての問い合わせ先
国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス8号館1階）
E-mail：mlryugaku@toyo.jp TEL：03-3945-8172

国際交流プログラム

ライフデザイン学部生の留学と単位認定について

ライフデザイン学部では留学前に、赤羽台事務課教務担当および所属学科・専攻教員（ゼミ教員含む）との面談が必須となります。

●赤羽台事務課教務担当窓口での事前相談について

交換留学および認定留学をすることを希望する学生で、留学決定前に最短での卒業および諸資格取得が可能であるかの確認が必要な場合は、履修・手続き上注意すべき点（継続履修及び学年進行に関わる科目、帰国後の授業・成績等）について、**必ず留学出願前に赤羽台事務課教務担当窓口**に相談してください。

1. 交換留学／認定留学／協定校語学留学

単位の認定（交換留学・認定留学・協定校語学留学共通）

ライフデザイン学部では、以下のとおり単位認定を行います。学科・専攻ごとに異なりますので各自よく確認の上、留学先での履修科目を決定してください。

○認定について

留学先で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。単位の認定は、所属学科・専攻の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位の認定されます。

そのためには、留学前に指導教員等（ゼミ教員含む）と勉強計画について十分話し合いをしておくことが重要です。ただし、交換・認定留学に伴い卒業時期が遅れる場合や、諸資格取得が困難になる場合もあります。

○認定手順

- 1) 留学前に赤羽台事務課教務担当および所属学科指導教員（ゼミ教員含む）との面談を行う。
- 2) 留学中に、指導教員へEメール等で学修状況を伝える。
- 3) 留学後、国際教育センターより留学先機関発行の「成績証明書」を受領する。
- 4) 国際教育センターより配付される「単位認定願」に留学先で履修した科目・成績を記入し、「成績証明書」・テキスト・シラバス等とともに赤羽台事務課教務担当窓口へ提出し、単位認定を申請する。**申請は留学終了後、速やかに行う。**
- 5) 指導教員・赤羽台事務課で単位認定作業を行い、教育課程委員会および教授会にて承認を経た後、成績発表時に通知される。

○単位認定にあたり必要な書類

- 1) 単位認定願等の本学書式
- 2) 留学先機関発行の成績証明書
- 3) 評価基準が解るもの（成績証明書に記載があればそれで代用可）
- 4) 修得した科目のシラバス
- 5) 授業で使用した教科書・ノート等

○認定基準

- 1) 留学先における修得科目の授業内容及び時間数が本学開講科目の対象科目に相当すること。
- 2) 留学先機関の授与した単位数及び授業時間数を考慮して行うこと。
- 3) 所属学科・専攻の教育課程表にある科目の単位として1年間48単位（半期24単位）以内で認定すること。
- 4) 所属学科・専攻の認定条件（下記参照）に従い単位認定を行うこと。
- 5) 留学先機関の合格基準に達した科目のみ申請すること。

6) 単位認定に必要な単位数の目安

留学先での単位数は下記の互換方式を使用し、計算します。

国/地域	東洋大学	UCTS※	アジア	米国	欧州	英国
換算単位	1単位	1 UCTS	1単位	1単位	1.5ECTS	3単位
学習量	45時間	38-48時間	38-48時間	45時間	37.5-45時間	ECTSから換算
授業時間数	講義・演習 15時間 外国語科目 30時間 実験・実技・実習 45時間	13-16時間	13-16時間	15時間	-	-

※当該大学のクレジットシステムにより、互換方式が適用できない場合には授業時間数により、計算を行うこととする。
 ※UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) とは、欧州諸国の学生交流事業 (ERASMUS) における欧州単位互換制度 (ECTS) をモデルにしたもので、1999年よりUMAP事業の下、アジア太平洋諸国間の学生交流を促進するために奨励してきた単位互換のための換算方式である。

○認定方法

1) 個別単位認定

個別単位認定は、留学先機関における修得科目の授業内容及び時間数が本学開講科目の対象科目に相当すると認められた場合、所属学科・専攻の教育課程表にある科目として個別に単位認定を行う。

単位認定対象科目の評価は「T」として認定し、成績表等に表示する。

2) 一括単位認定

一括単位認定は、個別に単位認定が出来ない場合、一括認定として単位認定を行う。成績表・成績証明書表記は「一括認定○○単位」とする。

○履修・認定条件

下記の科目については、学科・専攻ごと認定条件が異なるため注意してください。

1) 別表1の科目について、個別に認定するためには指導教員との出発前の打ち合わせや、留学中の勉学状況連絡などが必要となります。留学先での勉学状況等により認定されない場合があります。

別表1

学科・専攻	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
生活支援学科 生活支援学専攻	生活支援学基礎演習ⅠA 生活支援学基礎演習ⅠB		生活支援学専門演習ⅢA 生活支援学専門演習ⅢB	生活支援学専門演習ⅣA 生活支援学専門演習ⅣB
生活支援学科 子ども支援学専攻	子ども支援学演習ⅠA 子ども支援学演習ⅠB	子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB	子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB	子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB
健康スポーツ学科	健康スポーツ学基礎演習Ⅰ	健康スポーツ学基礎演習Ⅱ	健康スポーツ学演習ⅠA 健康スポーツ学演習ⅠB	健康スポーツ学演習ⅡA 健康スポーツ学演習ⅡB
人間環境デザイン学科			空間デザイン演習ⅠA 空間デザイン演習ⅠB 生活環境デザイン演習ⅠA 生活環境デザイン演習ⅠB プロダクトデザイン演習ⅠA プロダクトデザイン演習ⅠB	空間デザイン演習ⅡA 空間デザイン演習ⅡB 生活環境デザイン演習ⅡA 生活環境デザイン演習ⅡB プロダクトデザイン演習ⅡA プロダクトデザイン演習ⅡB

2) 諸資格・教職に関する科目の認定について

原則として、諸資格取得に関する科目及び、教育職員免許状取得科目の「教職に関する科目」、「教科に関する科目」については認定できません。

3) 卒業論文・卒業研究の認定について

・生活支援学科生活支援学専攻：認定対象外

- ・生活支援学科子ども支援学専攻：個別認定
- ・健康スポーツ学科：認定対象外
- ・人間環境デザイン学科：個別認定

○その他 履修する際の注意点

必ず事前に教育課程表（履修要覧）を確認した上で、留学先機関での履修科目を決めることが必要です。

卒業に支障が出ることをないように、自分の成績表をよく確認の上、交換留学先での履修科目を決定してください。例えば、専門の選択必修科目での修得単位数が少ない場合は、本学選択必修科目に類似している科目を見つけて履修することを検討してください。

2. 語学セミナー／海外インターンシップ・ボランティア／国連ユースボランティア・ワシントンセンター／Diversity Voyage

上記のプログラムに参加した学生は、所定の手続きにより単位認定を受けることができる可能性があります。

※認定科目、認定単位数は参加したプログラムにより異なります。

○単位の認定

留学先機関発行の成績表により審査を行い、教授会にて承認の上、単位認定されます。

3. 本学を休学して外国の大学等へ留学した場合の単位認定について

本学を休学して外国の大学等に留学した場合、留学先機関で修得した単位を本学の単位として認定することができます。単位認定を希望する場合は、事前に所定の手続きを行う必要があります。

○単位認定の対象となる機関

学位授与権を持つ大学（学部学生のみ2年制大学及び附属語学学校を含む。以下同じ）および附属学校。

○留学期間

休学期間を超えない範囲とする。

※原則として連続する2セメスタ（1年間）を超えて休学することはできません。

○必要な手続

休学手続きを行う前に、国際教育センターへ留学機関等に関する届出を行う必要があります。手続き詳細については、本学webサイトを参照してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/kyugaku-ryugaku/>

- ・学籍・履修・単位認定についての問い合わせ先
赤羽台事務課教務担当窓口（WELLB HUB-2 1階）



国際教育プログラム

英語特別教育科目 LEAPプログラム

LEAP (Learning English for Academic Purposes) プログラムは将来海外留学を目指す学生や、英語力を高めたいと希望する学生を対象とした学術英語プログラムです。留学に必要なIELTSのスコアアップに加えて、大学レベルの授業を英語で受けるのに対応できるだけの学習スキルの習得も目指します。LEAPの授業は英語で行われるため、内容を理解し、課題などをこなしていくために基礎的な英語力が必要となります。修得した単位は卒業単位として認められます。

LEAPは英語力に応じてIELTS IとIELTS IIの2つの科目に分かれています。各学期いずれかの科目を開講します。

L S科目 (週2回、2単位)・・・ListeningとSpeakingに特化した科目

RW科目 (週2回、2単位)・・・ReadingとWritingに特化した科目

推奨スコアを取得している場合は、PSA (留学準備コース) 科目の履修が可能です。PSAは次の2科目から成ります。この2科目は白山キャンパスで開講されます。開講時間は白山キャンパスの時間割ですので、注意してください。

Pre-Study Abroad : Writing (PSAW)・・・英語で論文を書くための基礎を学習
(週1回・1単位)

Pre-Study Abroad : Listening/Speaking (PSA L/S)・・・留学してからの受講スキルを学習
(週2回・2単位)

<申込・お問合せ>

プログラムの詳細はToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください (春学期履修の案内は前年11月頃、秋学期履修の案内は5～6月頃配信予定)。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577

LEAPプログラムについての問い合わせ先

LEAPオフィス (白山キャンパス8号館2階)

Email : mleapoffice@toyo.jp TEL : 03-3945-7341





ランゲージセンターでは、海外留学や英語力向上を目指す学生のサポートを行っています。全キャンパスにて英会話講座、各種テスト対策講座や英語によるライティング指導を実施していますので、ぜひ活用してください。

◆各種プログラム◆

<キャンパス内留学> Toyo Achieve English英語講座

フィリピン人講師による会話を中心とした5キャンパスで学べる英語講座です。授業の空き時間を有効に使って毎日学べる少人数制のグループレッスンと、自分のレベルや希望に合った授業を受講できるマンツーマンレッスンを開講しています。また、キャンパスによってTOEIC[®]講座や夏休み・春休み中の集中講座を開講するなど、年間を通じてプログラムを提供しています。

課外英語資格試験対策講座

春学期、夏休み及び秋学期に、TOEFL[®]・IELTS[™]・TOEIC[®]のスコア向上を目的とした課外英語資格試験対策講座を実施しています。

ランゲージセンターライティング指導講座

①コンファレンスライティング (Conference Writing)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。カリキュラムに則り英語論文を書くための基礎的な知識とライティングスキルを段階的に学びます。

②スペシャルアカデミックライティング (Special Academic Writing)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。1学期完結型で、各種英文ライティングの基礎を学びます。

③ライティングテスト対策 (Prep for Writing Tests)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。IELTS[™]やTOEFL iBT[®]などの英語資格試験のライティングパートに特化してスコアアップを目指します。

④ライティング相談 (Writing Consulting)

主に英文ライティングに関するアドバイスを30分間個別で受けることができるプログラムです。海外プログラムへの申込書、英文履歴書、英語での卒業論文・要旨作成等に利用可能です。

⑤特別講座 (Special Programs)

交換留学、海外インターンシップなど特定のプログラムの準備対策講座を開講しています。プログラム詳細については開講時にお知らせします。

講座内容・募集の詳細についてはToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577

ランゲージセンター 課外英語講座についての問い合わせ先
国際部〔ランゲージセンター〕(白山キャンパス 8号館 1階)
Email: ml_ic_global@toyo.jp Tel: 03-3945-8172



東洋大学と 東京外国語大学の 単位互換制度について

東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について

東洋大学では語学科目を中心とした多様な学習機会を拡充すること目的として、2018年度より、東京外国語大学との間において単位互換協定を締結しました。これに伴い、東京外国語大学の授業の一部を履修することが可能になりました。

ここでは、東京外国語大学の科目を履修するにあたっての条件、履修方法などを規定しています。詳細は、東京外国語大学の履修要覧・シラバスを参照するとともに、所属学部教務担当課までお問合せください。

●● 関連HP <https://gakumu-web1.tufs.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx> ●●

◆履修申請要領等◆

対象学生

学部2年次以上（ただし、原則、卒業予定の学期の履修はできません）。

履修可能単位数

学期の履修単位数の制限内かつ、本学以外の大学等で取得可能な単位数上限は60単位（入学前の単位認定も含む）。

学籍の取扱い

東京外国語大学では「特別聴講学生」として在籍することになります。

開講キャンパス

東京外国語大学府中キャンパス（所在地：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）

履修可能科目

所属学部教務担当課で確認してください。ただし、都合によって履修可能科目が変更になることがあります。また、本学と東京外国語大学双方の曜日時限が重複する科目や移動時間も含めて授業開始時刻に間に合わない科目を履修することはできません。

履修手続

- ① 「特別聴講学生願書」を所属学部教務担当課窓口で受け取り、所定の期間内に所属学部教務担当課窓口へ提出してください。
- ② 提出された「特別聴講学生願書」をもとに、東京外国語大学が受講の可否を決定します。
- ③ 第1回目の講義に出席し、東京外国語大学の授業担当教員へ東洋大学の学生である旨と聴講申請手続き中である旨、申し出てください。
- ④ 受講の正式な可否については、ToyoNet-Gにてお知らせを配信しますので、確認のうえ、受講可の学生は東京外国語大学で所定の手続を行ってください。

試験

東京外国語大学の制度によります。追・再試験は原則行いません。

単位認定

東京外国語大学からの成績到着後、当該科目の単位の認定を希望する場合は、所属学部教務担当課窓口まで、「単位認定申請書」を提出してください。単位認定の可否については、教授会での審議を経て決定されます。申請が認められる場合は「T」評価として認定します。



東京外国語大学入構時には本学の「学生証」を必ず携帯し、東洋大学の学生であることを示すこと。その他、東京外国語大学の学則に従い、規律ある行動をとること。

各種手続

学生生活を過ごすうえで重要な各種手続について説明します。

誤った判断をして、自らの学修活動に支障をきたすことがないように、不明な点があれば赤羽台事務課教務担当窓口へ問い合わせるようにしてください。履修要覧を熟読し、学生生活を実りあるものにしましょう。

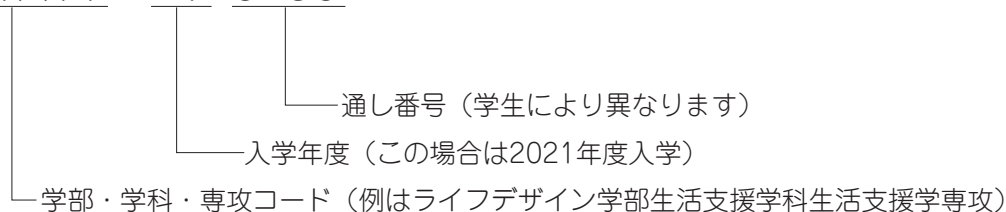
各種手続 学籍情報

◆学籍番号◆

入学手続を完了した学生には、10桁の学籍番号が付与されます。この番号は学生証等に記載され、転部・転科等の特別な理由がない限り卒業まで変わることはありません。

試験の答案用紙の提出、各種届出、各種証明書の申請等で必要となるので、正確に記憶しておいてください。

例) 1A11 21 0250



学部・学科・専攻コード

1A11	ライフデザイン学部	生活支援学科	生活支援学専攻
1A12	ライフデザイン学部	生活支援学科	子ども支援学専攻
1A20	ライフデザイン学部	健康スポーツ学科	
1A30	ライフデザイン学部	人間環境デザイン学科	

◆学生証◆

本学の就学手続が完了した学生に学生証を交付します。学生証は本学学生としての身分を証明するものですので、常に携帯してください。また学長印、学生本人の写真、学生証裏面シールの貼付が無いものは無効となります。学生証は他人に貸与、または譲渡することはできません。

Point

～学生証の携帯義務～

学生証は本学学生としての身分を証明するものであるため、常に携帯し、次の場合これを提示しなければなりません。

- 1) 本学教職員の請求がある場合
- 2) 学期末試験を受験する場合
- 3) 各種証明書や学生旅客運賃割引証明書（学割）等の交付を受ける場合
- 4) 通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船した際に係員の請求があった場合、等

学生証がないと各種証明書の発行が受けられません。また、図書館の利用、学期末試験の受験、通学定期券の購入等ができませんので、紛失・汚損・破損のないよう十分注意してください。

<有効期限と更新手続>

学生証の有効期限は4月1日から次年度の4月15日までの約1年間です。入学時に交付を受けた学生証は卒業するまで使用します。毎年4月初旬の進級手続期間内に、学生証の裏面シールを貼りかえ、学生証の有効期限の更新を受けなければなりません。

※進級手続の日時等は、ToyoNet-G・ToyoNet-ACEでお知らせします。

<返還>

卒業または退学・除籍等の理由で、本学に籍が無くなった場合は、学生証を本学に返還しなければなりません。

<再発行>

学生証を紛失もしくは破損・著しく汚損した場合は、直ちに本学へ届け出し、以下の手続きに従って学生証の再発行をしなければなりません。

●手続きの流れ●

①赤羽台事務課学生生活担当窓口で遺失物届出の確認



②証明書発行機で学生証再発行届を出力



③赤羽台事務課教務担当窓口で再発行届に確認印を受領



④赤羽台事務課教務担当窓口を上記③の再発行届を提出



⑤1週間後、赤羽台事務課教務担当窓口で学生証を受領



- ・学生証の再発行には1週間かかります。
- ・再発行手数料として2,000円がかかります。
- ・申込キャンセルによる手数料の返金はできません。

<証明書発行機で使用する暗証番号>

第三者に不正使用されないために、入学手続時に届け出た4桁の数字の暗証番号が登録されています。暗証番号は、証明書発行機で証明書を発行する際に必要です。メモなどを取り、必ず覚えておいてください。

◆学籍◆

入学の手続を完了し、学生証の交付を受けた学生は、本学の在籍者としての身分を与えられることとなります。

①二重学籍の禁止

本学に在籍しているにもかかわらず、他大学および本学の他学部・他学科に在籍（在学）することはできません。

②修業年限

本学に学生として最低4年間（8セメスタ）在学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。

③在学年限

卒業に必要な単位を修得するために連続して在学できる年数（在学年数）は、最長8年間（16セメスタ）となります。ただし、休学期間の年数（学期）は在学年数に算入しません。

④セメスタ制

ライフデザイン学部では1年を2学期に分けたセメスタ制を採用しています。このため、学期ごとに休学等の学籍異動が可能です。

⑤変更届について

入学手続時に届け出た内容に変更が生じた場合、赤羽台事務課教務担当窓口で所定の用紙に変更箇所を記入し、届け出なければなりません。

主な変更事項は以下の通りです。

◆学籍情報の変更◆

本学の入学手続時に届け出した情報に変更が発生した場合は、赤羽台事務課教務担当窓口にて速やかに届け出てください。なお、変更内容によっては、「ToyoNet-G」の「学生メニュー」>「個人情報管理」>「学生情報申請」を利用しても変更が可能です。

変更内容	変更方法		注意事項 (添付書類など)
	教務担当窓口	ToyoNet-G	
本人氏名変更 (改姓・改名)	○	×	戸籍抄本
本人住所、連絡先変更	○	日本国籍学生…○ 外国人留学生…住所変更は×	外国籍学生は在留カードの両面コピーを教務担当窓口へ提出し、ToyoNet-ACEに写真データをアップロードしてください。
最寄駅変更	○	○	
保証人変更	○	×	新しい保証人の署名
保証人住所、連絡先、勤務先変更	○	○	
緊急時連絡人変更	○	×	
緊急時連絡人住所、連絡先変更	○	○	
本籍地変更	○	×	住民票（本籍の記載があるもの）、または戸籍抄本
在留資格・在留期間等変更 (外国籍学生対象)	○	×	在留カードの両面コピーを教務担当窓口へ提出し、ToyoNet-ACEに写真データをアップロードしてください。

※本人住所・最寄駅変更があった場合は赤羽台事務課学生生活担当窓口にて学生証の裏面シールの変更を行ってください。
※外国人留学生は「外国人留学生の手引」も参照してください。

◆修業年限・在学年限・休学期間◆

<修業年限>

卒業するために最低限在学しなければならない期間を指します。その期間は4年間です。

<在学年限>

大学に在学できる期間のことを指します。その期間は8年間です。8年を超えての在学はできません。ただし、休学期間は在学年限に含まれません。

<休学期間>

休学期間は通算して8学期（4年間）を超えることができません。

通常の在学年限	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目		6年目		7年目		8年目	
	第1セメスタ	第2セメスタ	第3セメスタ	第4セメスタ	第5セメスタ	第6セメスタ	第7セメスタ	第8セメスタ	第9セメスタ	第10セメスタ	第11セメスタ	第12セメスタ	第13セメスタ	第14セメスタ	第15セメスタ	第16セメスタ

1年間休学した場合	1年目		2年目		1年休学	3年目		4年目		5年目		6年目		7年目		8年目	
	第1セメスタ	第2セメスタ	第3セメスタ	第4セメスタ		第5セメスタ	第6セメスタ	第7セメスタ	第8セメスタ	第9セメスタ	第10セメスタ	第11セメスタ	第12セメスタ	第13セメスタ	第14セメスタ	第15セメスタ	第16セメスタ

各種手続

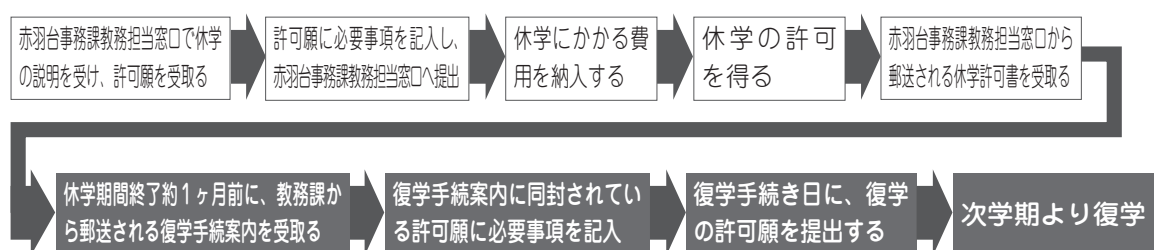
休学および復学

◆休学について◆

病気・家庭の事情・留学等の理由で3ヶ月以上本学に修学できない場合は、大学の許可を得て休学することができます。

休学希望者は、赤羽台事務課教務担当窓口で休学の説明を受け、許可願に必要事項を記入し、赤羽台事務課教務担当窓口へ提出してください。なお、病気・怪我の場合には、医師の診断書も併せて提出してください。奨学金を受給している場合は、速やかに学生生活担当窓口で説明を受けてください。

◆休学および復学手続の流れ◆



手続きについては、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続きできない場合は、事前に赤羽台事務課教務担当窓口へ相談してください。

◆休学の期間と許可願の提出期限◆

休学希望者は、定められた期限までに許可願を赤羽台事務課教務担当窓口へ提出しなければなりません。

	休学期間	提出期限
春学期	4月1日～9月30日	5月31日（※）
秋学期	10月1日～3月31日	11月10日（※）

※大学の営業日にあわせて前後することがあります。

原則として連続する2セメスタを超えて休学することはできません。ただし特別な事情がある場合は大学の許可を得て休学することができます。休学の期間は通算して、8セメスタを超えることはできません。



次セメスタの休学希望者は学期末試験期間前までに赤羽台事務課教務担当窓口へ相談してください。2セメスタ連続休学を希望する場合でも、セメスタごとに手続きが必要です。

◆各学期の休学にかかる費用◆

許可願提出後、各学期の納付金納入期限末日までに以下の納付金を納入することで、休学許可願申請が完了します。

学費		その他の費用	
各学期の一般施設設備資金 の1/2	+	雨水会費	学生課外活動 育成会費

※秋学期休学の場合、「その他の費用」については春学期に徴収済のため、納入する必要はありません。

「納付金（P.209）」で、確認してください。



学期によって異なる部分があります。休学するためにかかる費用については赤羽台事務課教務担当窓口にも必ず相談してください。

Notice

～学期途中の休学について～

春学期途中に休学する場合、春学期最終日の3ヶ月前の6月末日まで、秋学期途中に休学する場合、秋学期最終日3ヶ月前の12月末日まで受付をします。ただし、学期途中での休学の場合、納付金の返還はできませんので注意してください。

履修登録

休学期間中の履修登録はすべて無効となります。

◆休学（復学）許可願の書き方◆

春学期	休学 復学	20●●年4月1日
秋学期	休学 復学	20●●年10月1日

春学期	休学	20●●年9月30日
秋学期	休学	20●●年3月31日

復学の場合は復学を○で囲んでください。

学生本人が自筆すること。

保証人本人が自筆すること。

奨学金の受給状況等を確認のうえ、記入すること。

休学理由を詳しく記入すること。
※復学理由は「休学期間終了のため」と記入すること。
※フォーマットが変更となる可能性があります。

◆許可書の発送について◆

大学から許可されると保証人宛に、外国人留学生は本人宛に休学許可書が郵送されます。



許可願は、原則赤羽台事務課教務担当窓口で説明を受けた後、用紙を受取ってください。直接赤羽台事務課教務担当窓口に来ることが困難な場合は、ToyoNet-Gからダウンロードすることもできます。

◆復学◆

休学期間を満了し、在学することを復学といいます。春学期休学の場合は10月1日付、秋学期休学の場合は次年度4月1日付で復学しなければなりません。

◆復学手続きの流れ◆

①復学手続

復学の対象者（当該学期休学者）には、赤羽台事務課教務担当窓口から復学に必要な書類および納付金振込用紙を休学学期末に保証人宛（留学生は本人宛）に郵送します。

復学する場合、指定の期間内に許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて赤羽台事務課教務担当窓口へ提出してください。

②復学者の履修方法

復学した学生は、復学する学年以下に配当されている科目について履修することができます。なお、詳細な履修方法については、復学手続終了後、赤羽台事務課教務担当窓口にご相談して下さい。

※ただし、外国籍の学生で日本での在留資格を有していない者は、在留資格取得等の手続きに時間を要するため、通常の手続き期間とは異なります。赤羽台事務課教務担当窓口の指示に従い手続きを行うこと。また、復学手続き（在留資格等）については本学WEBサイトで事前に確認すること。

各種手続 退学

事情により本学での修学継続が困難な場合には、大学の許可を得て退学することができます。

①退学手続

退学を希望する場合は、保証人と十分相談の上で、赤羽台事務課教務担当窓口で退学に関する説明を受け、許可願に必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて赤羽台事務課教務担当窓口へ提出してください。なお、病気等の場合には医師の診断書等が必要となります。奨学金を受給している場合は、速やかに学生生活担当窓口で説明を受けてください。

これらの手続は学生本人が行ってください。ただし、やむを得ず本人が手続できない場合には、事前に赤羽台事務課教務担当窓口にご相談してください。

退学が大学で許可された場合、本学から退学許可書を郵送します。

②退学者の再入学

退学者は、大学の許可を得て再入学することができます。

春学期再入学を希望する場合は1月末、秋学期再入学を希望する場合は7月末までに赤羽台事務課教務担当窓口で再入学に関する説明を受け、許可願に必要事項を記入し、保証人連署の上、赤羽台事務課教務担当窓口へ提出してください。

大学で再入学が許可された場合は、該当学期開始の1日付で再入学することができます。

再入学者は退学時までに在学していた期間を含め8年間で卒業しなければなりません。

③再入学者の履修方法

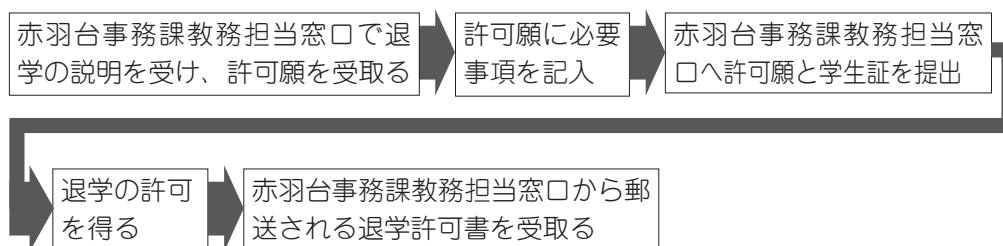
再入学する学年は、退学時の学年となりますが、単位の修得状況によって学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表は入学年度のものを用いますが、単位の修得状況やカリキュラムの変更によっては、再入学する学年の学科教育課程表を適用する場合があります。再入学者の履修方法については、再入学の手続き時に赤羽台事務課教務担当窓口で説明します。不明な点は赤羽台事務課教務担当窓口へお問い合わせください。

④懲戒による退学

本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があった学生は、大学の議を経て懲戒による退学となる場合があります。

この場合は、すみやかに学生証を本学に返還しなければなりません。

◆退学手続の流れ◆



手続については、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続できない場合は、事前に赤羽台事務課教務担当窓口へ相談してください。



許可願は、原則赤羽台事務課教務担当窓口で説明を受けた後、用紙を受取ってください。直接赤羽台事務課教務担当窓口に来ることが困難な場合は、ToyoNet-Gからダウンロードすることもできます。

◆退学許可願の書き方◆

退学許可願の書き方に関する重要なポイント:

- 学期末日で退学する場合
春学期：20●●年9月30日
秋学期：20●●年3月31日
退学を○で囲んでください。
- 学生本人が自筆すること。
- 保証人本人が自筆すること。
- 奨学金の受給状況等を確認のうえ、記入すること。
- 退学理由を詳しく記入すること。

◆納付金の取り扱い◆

①春学期途中で退学する場合

- ・春学期の途中で退学する場合は、第1期（春学期）分の納付金は払い戻しません。
 - ・全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻します。
- 払い戻しは、原則許可書を送付した翌月に銀行振込で行います。

②秋学期途中で退学する場合

- ・秋学期の途中で退学する場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しません。

※新学期の納付金納入期限末日までに退学を願い出た場合、退学日を前学期の末日付として扱うため、当該学年・学期の納付金を納入する必要はありません。

◆許可書の発送について◆

大学から許可されると保証人宛に、外国人留学生は本人宛に退学許可書が郵送されます。



各種手続 除籍

除籍とは、本学の学則およびその施行のために定められた規則に基づく権利の一切を失うことです。次に該当する場合は、除籍の対象となります。

- ①指定された期間内に納付金を納入しなかった学生
- ②在学年限を超えた学生
- ③休学期間を超えた学生
- ④新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生
- ⑤その他本学において修学の意味がないと認められる学生

◆◆ 除籍日 ◆◆

在校生の除籍日は9月30日または3月31日となり、新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生の除籍日は4月30日となります。

◆◆ 除籍となった場合 ◆◆

除籍となった場合、速やかに学生証を返却しなければなりません。なお、除籍通知書は保証人宛に郵送します。



各種手続 再入学

本学を退学した者、または除籍となった者が再入学を希望する場合、大学の許可を得て再入学することができます。

再入学を希望する者は、下記の日程までに赤羽台事務課教務担当窓口で再入学の説明を受け、許可願に必要事項を記入し、学生本人・保証人自筆の連署の上、窓口へ提出してください。

	許可願提出期限	再入学日
春学期（4月）から再入学を希望する者	1月末まで	翌年度 4月1日付
秋学期（10月）から再入学を希望する者	7月末まで	当該年度 10月1日付

ただし、日本での在留資格を有していない者は、再入学許可後の在留資格認定手続きに時間を要するため、4月1日付で再入学を希望する場合、許可願は前年度10月末までに、10月1日付で再入学を希望する場合、許可願は当年度4月末までに提出すること。

再入学するにあたっての再入学手続き（在留資格等）については本学WEBサイトで説明しているので、必ず事前に確認の上、手続きを行うこと（手続き方法は変更になる場合があります）。

再入学手続き（在留資格等）についての詳細は、赤羽台事務課教務担当窓口を確認すること。

下記の条件により退学・除籍した者は再入学を希望することはできません。



退学者：在学年限を超えて退学した者
懲戒により退学となった者

除籍者：在学年限を超えて除籍となった者
休学期間を超えて除籍となった者

再入学者は退学時まで在学していた期間を含め、8年間で卒業しなければなりません。

Notice

再入学する学年およびセメスタは、本学での最終学籍状況によって異なります。単位の修得状況によっては学年を繰り下げる場合があります。また、学科教育課程表は入学年度のものを適用しますが、学科教育課程表が大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表を適用することがあります。履修方法は、再入学手続時に赤羽台事務課教務担当窓口で説明をします。不明な点は、赤羽台事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。

各種手続

その他の学籍異動

◆転部・転科◆

本学内で他の学部・学科への転部・転科を希望する学生に対し選考を実施します。

第1部に所属する学生の場合は、第1部の他学部・他学科、および第2部の学部・学科への転部・転科となります。

第2部に所属する学生の場合は、第2部の他学部・他学科、および第1部の学部・学科への転部・転科となります。

希望者は11月下旬に配布予定の試験実施要領をもとに手続を行い、1月に実施予定の試験を受験してください。また、合格発表は翌年の3月下旬に行う予定です。

試験実施要領と手続案内は例年10月頃学内に掲示いたします。

詳細については赤羽台事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。学部・学科によっては転部・転科試験を実施しない場合があります。

◆進級◆

学期初めの進級手続期間内に、当該年度の納付金を納入のうえ、進級手続を行い、学生証の有効期限更新を受けなければなりません。

休学者が復学した場合等の特別な事情がない限り、原則として上級の学年に進級します。

◆4年原級◆

本学に学生として最低4年間(8セメスタ)在学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。

4年次終了までに所定の単位を修得できず、卒業できないことを「4年原級」といいます。

卒業に必要な単位を修得するために連続して在学できる年数(在学年数)は、最長で8年間(16セメスタ)です。

◆編入学◆

本学または他大学を卒業後に編入学を希望する者に対して、編入学試験を実施しています。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

編入学する学年は、原則として3年次となります。また、学科教育課程表も編入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、編入学の手続時に赤羽台事務課教務担当窓口で説明をします。不明な点は、赤羽台事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。



本学を卒業した者は卒業した学部・学科への編入学はできません。

◆転入学◆

他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出る場合、本学の実施する転入学試験を実施しています。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

転入学する学年は、原則として2年次または3年次となります。また、学科教育課程表も転入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、転入学の手続時に赤羽台事務課教務担当窓口で説明をします。不明な点は、赤羽台事務課教務担当窓口へ問い合わせてください。

◆科目等履修生◆

卒業後、特定の授業科目（例えば、教職科目等）について履修を希望する場合は、科目等履修生として授業科目の履修を許可される場合があります。

ただし、本学に在籍中は、科目等履修生として授業科目を履修することはできません。また科目等履修生としてでは取得できない資格もあります。

なお、希望者は1月下旬に配布予定の募集要項をもとに手続きをとり、3月中旬（春学期履修生）実施予定の試験を受験してください。

また、合格発表は3月下旬（春学期履修生）に行う予定です。

詳細については、赤羽台事務課教務担当窓口にて確認してください。

各種手続 各種証明書

赤羽台事務課では、以下の証明書を発行しています。証明書には、「証明書発行機」で発行するものと、「窓口」で発行するもの、「コンビニエンスストア」で発行するものがあります。

(1) 証明書発行機で発行される証明書

以下の証明書は証明書発行機での発行となります。
発行には学生証と暗証番号（P.196参照）が必要になります。

(2021年度)

種類	手数料（円）	発行可能学年	備考
在学証明書	200	1～4年生	赤羽台・白山・川越・板倉いずれの キャンパスの発行機でも発行可能
成績証明書	200	1～4年生	
健康診断証明書（本学書式）※1	200	1～4年生	
卒業見込証明書※2	200	4年生	
学割（年間10枚まで）	無料	1～4年生	
情報システム利用通知書※3	無料	1～4年生	

※1 健康診断証明書（本学書式）は毎年4月に本学が実施する定期健康診断を受診した学生のみ、その当該年度の発行が可能となります。毎年必ず受診してください。なお、本学書式以外での発行を希望する場合は「その他の証明書」（300円）扱いとなりますので、赤羽台事務課学生生活担当窓口へ申請してください。

※2 卒業見込証明書は4年7セメスタ以上で、卒業要件を満たす見込のある学生のみ発行可能です。

※3 学生の個人情報にアクセスするための情報が記載されていますので厳重に管理してください。

(2) 窓口で発行される証明書

以下の証明書の発行を申請する場合は、証明書発行機にて「証明書発行願」を購入し、赤羽台事務課教務担当窓口に提出してください。なお、発行までに1週間かかります。

(2021年度)

種類	手数料（円）	発行可能学年	備考
学生証（再発行）	2,000	1～4年生	詳細はP.196を参照
教育職員免許状取得見込証明書	200	4年生	
指定保育士養成施設卒業見込証明書	200	4年生	
介護福祉士養成施設卒業見込証明書	200	4年生	
単位修得証明書	200	1～4年生	
人物証明書※4	200	4年生	
英文成績証明書	1,000	1～4年生	
英文在学証明書	500	1～4年生	
英文卒業見込証明書	500	4年生	
その他の証明書	200	1～4年生	

証明書申請後3ヶ月を経過しても受け取りのない場合は、無効として処分します。

- ※4 人物証明書は、演習・卒業論文担当教員との面接を行った後、後日赤羽台事務課教務担当窓口にて発行となります。発行手続きは以下のとおり行ってください。
- 発行希望日の2週間前に赤羽台事務課教務担当窓口に来室。
 - 演習・卒業論文担当教員と面接（面接内容を元に担当教員が人物証明書を作成）。
※面接時に教員へ発行予定日を確認し、発行予定日以降に赤羽台事務課教務担当窓口に来室。
 - 赤羽台事務課教務担当窓口にて証明書手数料の入金および証明書の受取り。

(3) コンビニエンスストアで発行される証明書

2021年4月より一部の証明書を全国のコンビニエンスストアで発行することができます。詳細は東洋大学webサイトをご確認ください。

◆登録料・実習料・受験料◆

ライフデザイン学部では、履修科目等により下記の登録料・実習料・受験料が必要になります。納入時期や納入金額は入学年度により異なりますので、注意してください。納入の方法については別途指示します。

(2021年度)

種類	金額 (円)	備考
教職課程登録料	30,000	子ども支援学専攻は除く
教育実習料	3・4週間実習	15,000
	2週間実習	10,000
介護等体験実習料	10,450	
看護学実習料	2,000	
健康産業施設等現場実習料	33,000	
ソーシャルワーク実習Ⅰ	15,000	
ソーシャルワーク実習Ⅱ	44,000	
ソーシャルワーク実習(精神)	46,000	
生活支援学専門実習料	各実習施設の 規定による	
医療福祉専門実習料		
精神保健福祉専門実習料		
介護福祉専門実習料		
保育実習料(2年次)	15,000	
保育実習料(3年次)	15,000	
保育実習料(4年次)	15,000	
介護福祉実習料(1年次)	30,000	
介護福祉実習料(2年次)	45,000	
介護福祉実習料(3年次)	45,000	
介護福祉実習料(4年次)	30,000	
卒業再試験(1科目)	5,000	卒業再試験受験対象者 (4年8セメスタ以上)
転部・転科試験受験料	10,000	

※ライフデザイン学部の学生は、全員が「公益財団法人 日本国際教育支援協会」の「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。

各種手続 納付金

定められた期間に納付金を納入しなければ、本学の学生として、在籍することはできません。納入期間がありますので、期日までに納入をすることを忘れないようにしてください。

◆納付金額◆

「学費」と「その他の費用」を合わせて「納付金」と称します。2年次以降は、入学金を除く納付金の納入が毎年度必要になります。納付金の内訳は以下のとおりです。

ライフデザイン学部納付金内訳

(単位：円)

入学年度		2021		
学部		ライフデザイン学部		
学科		生活支援学科・健康スポーツ学科	人間環境デザイン学科	
納付金	学費	入学金	250,000	250,000
		授業料	830,000	880,000
		一般施設設備資金	200,000	260,000
		実験実習料	—	70,000
	その他の費用	雨水会費	5,000	5,000
		学生課外活動育成会費	5,000	5,000
合計		1,290,000	1,470,000	

※その他の費用については、各団体からの依頼に基づき、本学が代理徴収しています。

◆納入期間◆

納付金は、4月期（春学期納入期間）に1年間分を全額一括納入する方法と、授業料・一般施設設備資金・実験実習料を二期に分けて納入する方法を選択することができます。

第1期（春学期）納入期間 4月20日～5月31日
第2期（秋学期）納入期間 10月1日～11月10日



各年度の曜日の関係により、納入期間が短縮される場合があります。

◆学籍異動における納付金の取扱◆

【休学】

修学の意思がありながら学期始めに休学する場合は、納付金の納入期間内に休学許可願を赤羽台事務課教務担当窓口へ提出してください。

＜第1期（春学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・休学日を4月1日付として扱い、納付金のうち、第1期（春学期）分の授業料・実験実習料は徴収しません。ただし、一般施設設備資金の半額とその他の費用は納入しなければなりません。
- ・全額一括納入した場合は、第1期（春学期）分の授業料・実験実習料・一般施設設備資金の半額および第2期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜春学期中に休学する場合＞

- ・春学期の途中で休学する場合、第1期（春学期）の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜第2期（秋学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・休学日を10月1日付として扱い、納付金のうち第2期（秋学期）分の授業料・実験実習料は徴収しません。ただし、一般施設設備資金の半額は納入しなければなりません。
- ・第2期（秋学期）分の納付金を納入した場合は、第2期（秋学期）分の授業料・実験実習料・一般施設設備資金の半額を払い戻します。

＜秋学期中に休学する場合＞

秋学期の途中で休学する場合、第2期（秋学期）の納付金は払い戻しをいたしません。

＜2セメスタ連続して休学する場合＞

連続休学する場合、次学期分の授業料・実験実習料は徴収しません。ただし、一般施設設備資金の半額を除く納付金は納入しなければなりません。

【復学】

- ・休学者が復学する場合の納付金は、入学年度の額が適用されます。
- ・第2期（秋学期）に復学する場合は、復学時に1セメスタ（半期）分の納付金を納入することになります。
- ・1セメスタ（半期）休学する場合、全額一括納入・分割納入の選択が可能な納入期は、第1期（春学期）とします。

【除籍】

所定の納期までに納付金を納入しない学生は、学則第38条1項により、除籍とします。

【退学】

修学の意味がない場合は、納入期間内に退学許可願を赤羽台事務課教務担当窓口へ提出してください。

＜新学期の納入期限の末日までに退学を願い出た場合＞

退学日を前学期の末日付として扱い、当該年度・学期の納付金を納入する必要はありません。

＜春学期中に退学する場合＞

- ・春学期の途中で退学する場合は、第1期（春学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しいたします。

＜秋学期中に退学する場合＞

秋学期の途中で退学する場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。

【再入学】

再入学する場合の納付金は、再入学する学年次生の納付金を適用します。ただし、入学金は、再入学する年度の新入生の半額となります。

【原級】

4年次生で原級する場合の納付金は、当該年度正規4年次生の納付金を適用します。

【転部・転科】

納付金は転部・転科先の学年の納付金を適用します。ただし、入学金は、転部・転科先との不足分を納入することになります。

【編入学】

編入学する場合の納付金は、編入学する年度の新入生の納付金を適用します。ただし、本学出身者が編入学する場合、入学金は、編入学する年度の新入生の額の半額となります。

【転入学】

転入学する場合の納付金は、転入学する年度の新入生の納付金を適用します。

◆◆振込用紙の送付先◆◆

- ・振込用紙の送付先は保証人宛て（留学生は本人宛て）となります。振込用紙送付先を変更する場合は、赤羽台事務課教務担当窓口にて手続きしてください。



振込用紙送付先の住所に変更があった場合は、所定の手続き（P.197参照）により、住所変更の手続きを行ってください。

◆◆納入方法◆◆

- ・本学の指定する納入方法で納入してください。大学窓口での受付はできません。
- ・振込用紙を紛失した場合は、至急、赤羽台事務課教務担当まで連絡してください。
- ・納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動に伴い徴収の対象とならない場合を除き返還いたしません。

◆◆納入期間内に納入ができない場合◆◆

やむを得ない事情で納入期限までに納付金を納入できない場合は、**必ず納入期間内に赤羽台事務課教務担当窓口**に相談してください。



- ・納付金に関する証明書の発行が必要な方は、大学webサイト上にある申込フォームにて申請してください。
東洋大学Top > 教育 > 学生生活 > 授業・納付金（学費等）> 学費納入証明書について > 赤羽台キャンパス（ライフデザイン学部／ライフデザイン学研究科）
なお、発行手数料は無料です。
- ・納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動により徴収の対象とならない場合を除き返還いたしません。

○納付金についての問い合わせ先

赤羽台事務課（学費担当）

Mail : mlajim@toyo.jp

○住所変更についての問い合わせ先

赤羽台事務課（教務担当）

Mail : mlakyo@toyo.jp



学則（学籍に関する事項の抜粋）

別表および最新の学則は本学webサイトを確認してください。

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学、除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- （1）高等学校を卒業した者
- （2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- （3）外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- （4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- （5）文部科学大臣が指定した者
- （6）大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- （7）高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- （8）その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したものの

（入学の志願及び選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

第30条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうえ、編入学を許可することができる。

- （1）短期大学を卒業した者
- （2）大学を卒業した者
- （3）高等専門学校を卒業した者
- （4）専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学に関する規程は、別に定める。

（転入学）

第31条 学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうえ、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

（転部・転科）

第32条 学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうえ、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

第34条 学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 引続き3カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。

3 休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

4 願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。

(1) 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者

(2) 第20条に規定する在学年数を超えた者

(3) 第35条第2項に規定する休学期間を超えた者

(4) 新生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の意思がないと認められる者

(5) 外国人留学生で出入国管理及び難民認定法に定める「留学」の在留資格の入国査証の発給が拒否された者

2 学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。

3 第1項の規定(第2号及び第3号に掲げる者を除く。)により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由なくして出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

東洋大学ライフデザイン学部規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学学則（以下「学則」という。）に基づき、ライフデザイン学部の教育研究に関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 ライフデザイン学部は、学則第4条の2に基づき、学部及び各学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、別表第1のとおり定める。

(卒業の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 ライフデザイン学部は、学則第4条の3に基づき、学部及び各学科又は専攻の卒業の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を、別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 ライフデザイン学部は、学則第39条第1項第1号から第5号に基づき、各学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法を、別表第3のとおり定める。

(卒業に必要な単位等)

第5条 ライフデザイン学部は、学則第52条に基づき、各学科又は専攻の卒業に必要な単位等を、別表第4のとおり定める。

2 人間環境デザイン学科は、4年次の卒業関係科目の履修するための条件を、別表第5のとおり定める。

(履修上限単位数)

第6条 ライフデザイン学部は、学則第42条第3項に基づき、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を、24単位とする。

2 前項に関わらず、生活支援学科生活支援学専攻介護福祉士コース所属学生は、学位授与に関する方針に照らし、1年次秋学期以降、これに4単位を追加することができる。

3 前項2に加え、授業期間以外の期間に実施する授業を、4単位を上限として履修することができる。

(教育職員その他資格)

第7条 学則第45条に基づき、ライフデザイン学部で取得できる資格は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育職員となる資格
- (2) 社会福祉士試験の受験資格
- (3) 精神保健福祉士試験の受験資格
- (4) 介護福祉士試験の受験資格
- (5) 保育士となる資格
- (6) 社会福祉主事となる資格

2 前項第1号の資格において、ライフデザイン学部で取得することができる教育職員免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

学科及び専攻等	免許状の種類及び教科
生活支援学科子ども支援学専攻	幼稚園教諭1種免許状
健康スポーツ学科	中学校教諭1種免許状（保健）
	中学校教諭1種免許状（保健体育）
	高等学校教諭1種免許状（保健）
	高等学校教諭1種免許状（保健体育）
	養護教諭1種免許状
人間環境デザイン学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	高等学校教諭1種免許状（工芸）

(資格取得のための授業科目及び単位数)

第8条 ライフデザイン学部で資格を取得しようとする者は、次の各号に定める所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

- (1) 教育職員の資格 別表第6に掲げる授業科目の単位を修得
- (2) 社会福祉士試験の受験資格 別表第7に掲げる授業科目の単位を修得
- (3) 精神保健福祉士試験の受験資格 別表第8に掲げる授業科目の単位を修得
- (4) 介護福祉士試験の受験資格 別表第9に掲げる授業科目の単位を修得
- (5) 保育士となる資格 別表第10に掲げる授業科目の単位を修得
- (6) 社会福祉主事となる資格 別表第11に掲げる授業科目の単位を修得

(改正)

第9条 この規程の改正は、学長がライフデザイン学部教授会の意見を聴き、学部長会議での連絡調整を経て行う。

附 則

- 1 この規程は、2021年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、2020年度以前の入学生については、なお従前の例による。

2021年度 ライフデザイン学部 履修要覧
2021年4月発行

編集
発行 東洋大学ライフデザイン学部

〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11

卒業まで使用しますので大切に保管してください



東洋大学